

男女共同参画社会づくりのための

市民意識調査報告書

平成28年10月

彦根市

男女共同参画社会づくりのための市民意識調査報告書

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的	2
2 調査概要	2
(1) 調査の方法	2
(2) 回収結果	3
(3) 報告書の見方	3
II 調査の結果	5
1 回答者の属性	6
(1) 性別	6
(2) 年齢	7
(3) 結婚の有無	8
(4) 世帯構成	9
(5) 職業の状況	12
2 家庭生活・役割分担意識	17
(1) 結婚観	17
(2) 家事・育児・介護などの分担	22
(3) 子どもの育て方についての意識	25
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	28
(1) ワーク・ライフ・バランス	28
(2) 女性の働き方についての意識	33
(3) 共働きの状況	39
(4) 家事などにおける役割分担や費やす時間の状況	40
4 女性の人権	61
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験	61
(2) ドメスティック・バイオレンスの経験	63
(3) ドメスティック・バイオレンスの相談先の認知度	66
(4) DV をなくすために必要なこと	68
5 社会参画	70
(1) 地域での男女差別	70
(2) 今後やってみたいこと	74
(3) 今後やってみたいことを実現するために必要な支援	77
6 男女共同参画社会づくり	79
(1) この10年間で男女平等が進んだかどうか	79
(2) 男女共同参画に関する事柄の認知度	85
(3) 男女共同参画センターの認知度と期待する取組	90
(4) 行政が力を入れていくべきこと	93

III 自由意見	97
----------	----

IV 資料編（調査票）	109
-------------	-----

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は、男女が共に社会参画できるまちづくりをめざし平成 23 年 3 月に策定した「彦根市男女共同参画計画」を見直し、計画の改訂に向けて、市民の男女平等に関する意識や実態などを把握し、施策立案に反映していくことを目的に実施したものです。

なお、市内に居住する外国籍市民に対して、3 カ国語に翻訳し、男女平等に関する意識や実態などについて調査を行いました。日本国籍市民と併せて全体数に含め、分析しています。

2 調査概要

(1) 調査の方法

①調査対象

市内に住民登録を有する満 18 歳以上の市民から 1,500 人を無作為抽出
(日本国籍市民 1,250 人、外国籍市民 250 人)

②調査方法

郵送による配布・回収(督促 1 回)

③調査期間

平成 28 年 6 月 16 日(発送配布)～7 月 4 日(回答〆切)
平成 28 年 7 月 20 日(回収〆切)

(2) 回収結果

有効回答数 586 件、回収率 39.1%

(日本国籍市民 有効回答数 535 件、回収率 42.8%)

(外国籍市民 有効回答数 51 件、回収率 20.4%)

男女別及び年代別の回収状況は次のとおりである。

	人口	構成比	抽出数	有効回答数	回収率	前回調査 回収率
女性	39,634	49.5%	759	336	44.3%	52.8%
男性	40,426	50.5%	741	250	33.7%	33.0%
計	80,060	100.0%	1,500	586	39.1%	42.8%

	18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳～	無回答	計
人口	2,435	12,439	14,319	16,818	13,568	14,805	5,676	0	80,060
構成比	3.0%	15.5%	17.9%	21.0%	16.9%	18.5%	7.1%	0.0%	100.0
女性	1,160	5,957	6,993	8,220	6,876	7,462	2,966	0	39,634
構成比	2.9%	15.0%	17.6%	20.7%	17.3%	18.8%	7.5%	0.0%	100.0
男性	1,275	6,482	7,326	8,598	6,692	7,343	2,710	0	40,426
構成比	3.2%	16.0%	18.1%	21.3%	16.6%	18.2%	6.7%	0.0%	100.0
抽出数	43	229	299	321	263	253	92	0	1,500
有効回答数	10	50	83	119	116	147	60	1	586
回収率	23.3%	21.8%	27.8%	37.1%	44.1%	58.1%	65.2%	—	39.1%

※人口は平成 28 年 5 月末現在（外国籍市民を含む）。

(3) 報告書の見方

- 集計結果はすべて、小数点第 2 位を四捨五入しており、比率（％）の合計が 100.0%にならないことがある。
- 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の文言を短縮している場合がある。
- 階層集計の比率（％）は、すべて各階層ごとの該当対象者数を 100 として算出している。
- 回答比率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出した。2 つ以上の回答を求める設問では、比率（％）の合計は 100%を超えている。

Ⅱ 調査の結果

1 回答者の属性

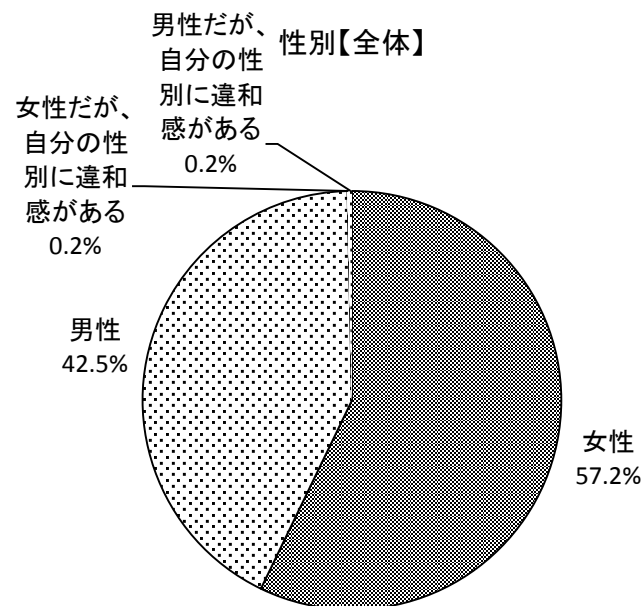
(1) 性別

問1 あなたの性別は。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

前回調査同様、女性のほうが多いものの、男女差は縮まっている。

「女性」が57.2%、「男性」が42.5%、「女性だが、自分の性別に違和感がある」「男性だが、自分の性別に違和感がある」がともに0.2%となっている。調査時点における実際の人口と比べると、女性が多く、男性が少ない。



回答者の性別内訳

	回答者数	構成比
女性	335	57.2%
男性	249	42.5%
女性だが、自分の性別に違和感がある	1	0.2%
男性だが、自分の性別に違和感がある	1	0.2%
計	586	100.0%

彦根市人口(18歳以上、平成28年5月末)の性別内訳

	人口	構成比
女性	39,634	49.5%
男性	40,426	50.5%
計	80,060	100.0%

(2) 年齢

問2 あなたの年齢は。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

前回調査同様、50歳代、60歳代が多いが、今回は40歳代の回答も多い。

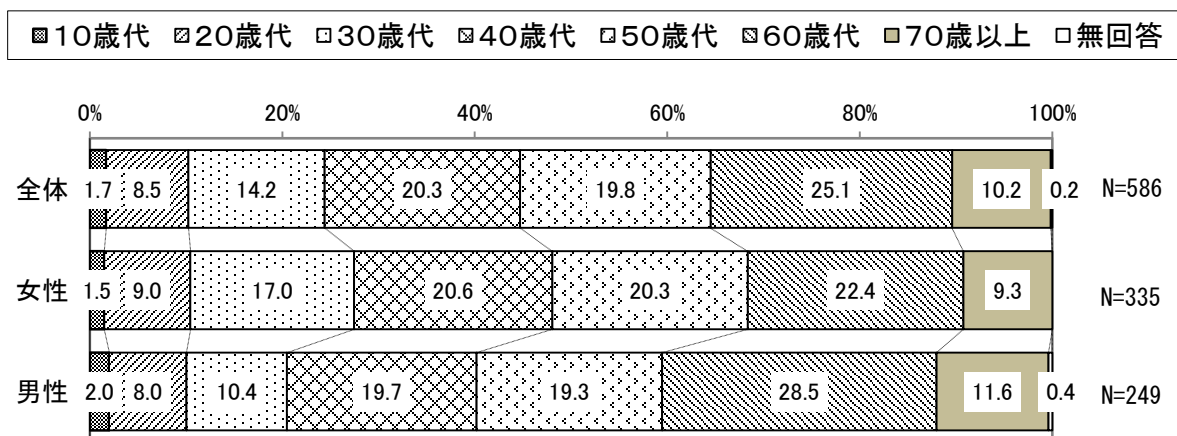
【全体】

「60歳代」が25.1%と最も多く、次いで「40歳代」20.3%、「50歳代」19.8%、「30歳代」14.2%と続いている。調査時点における実際の人口と比べると、10～30歳代の比率が少なく、50歳代以上の比率が多い。

【性別】

女性では「60歳代」が22.4%と最も多く、次に「40歳代」、「50歳代」が多くなっている。男性では「60歳代」が28.5%と最も多くなっており、やはり次に「40歳代」、「50歳代」が多くなっている。

年齢【全体・性別】



調査時点における実際人口

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
人口	2,435	12,439	14,319	16,818	13,568	14,805	5,676	80,060
構成比	3.0%	15.5%	17.9%	21.0%	16.9%	18.5%	7.1%	100.0%
女性	1,160	5,957	6,993	8,220	6,876	7,462	2,966	39,634
構成比	2.9%	15.0%	17.6%	20.7%	17.3%	18.8%	7.5%	100.0%
男性	1,275	6,482	7,326	8,598	6,692	7,343	2,710	40,426
構成比	3.2%	16.0%	18.1%	21.3%	16.6%	18.2%	6.7%	100.0%

(3) 結婚の有無

問3 あなたは結婚されていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

前回調査同様、30歳代を境にして「結婚している」が増えている。

【全体】

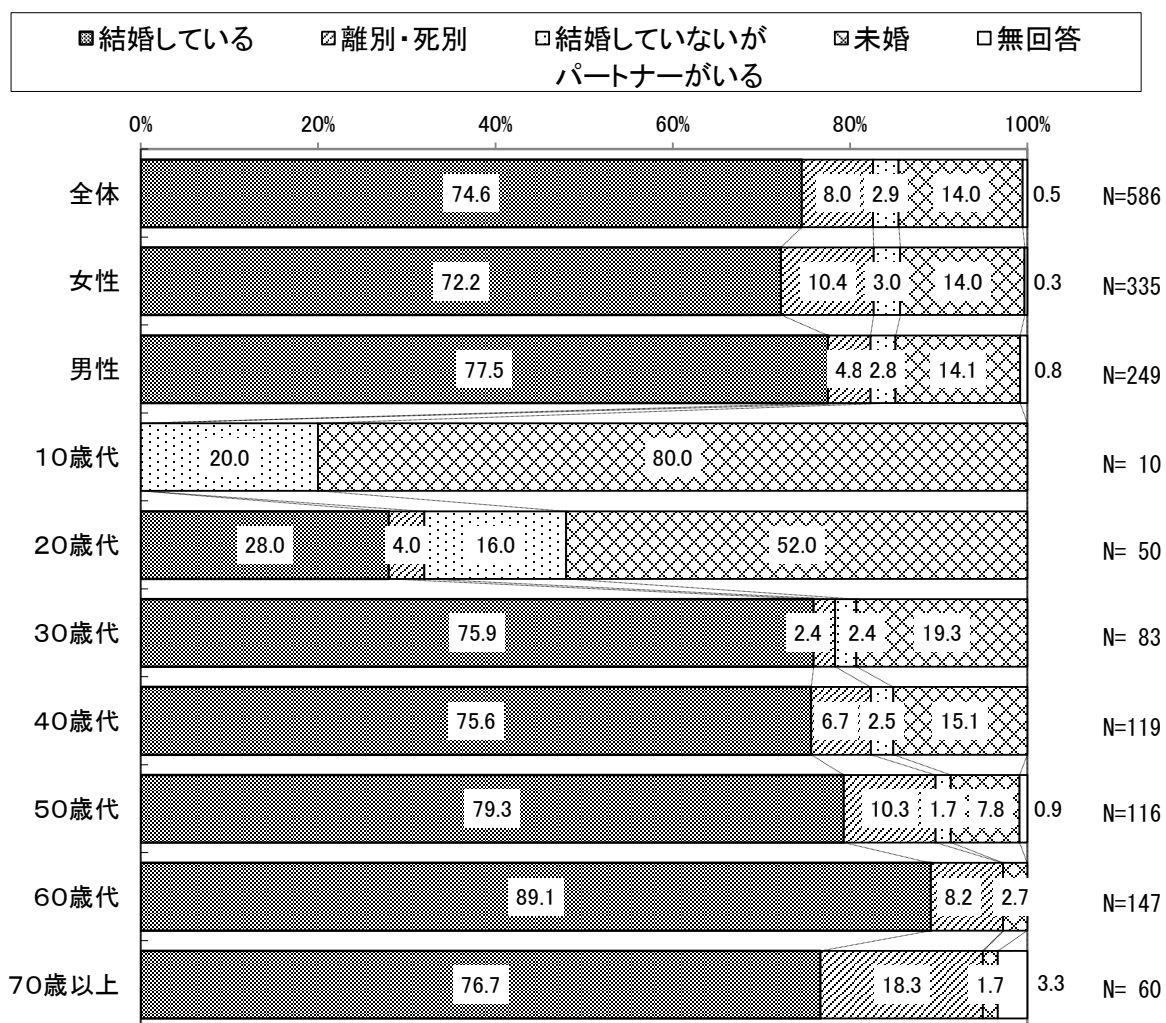
「結婚している」が74.6%を占め、「未婚」が14.0%、「離婚・死別」が8.0%となっている。

【性別・年代別】

女性、男性とも「結婚している」が7割以上を占めている。

年代別にみると、「未婚」は20歳代で52.0%を占めており、30歳代以降年代を追うごとに「未婚」が減っている。

結婚の有無【全体・性別・年代別】



(4) 世帯構成

問4 あなたと一緒に暮らしているご家族は。

あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

前回調査より、高齢者の夫婦のみの世帯が増加している。

【全体】

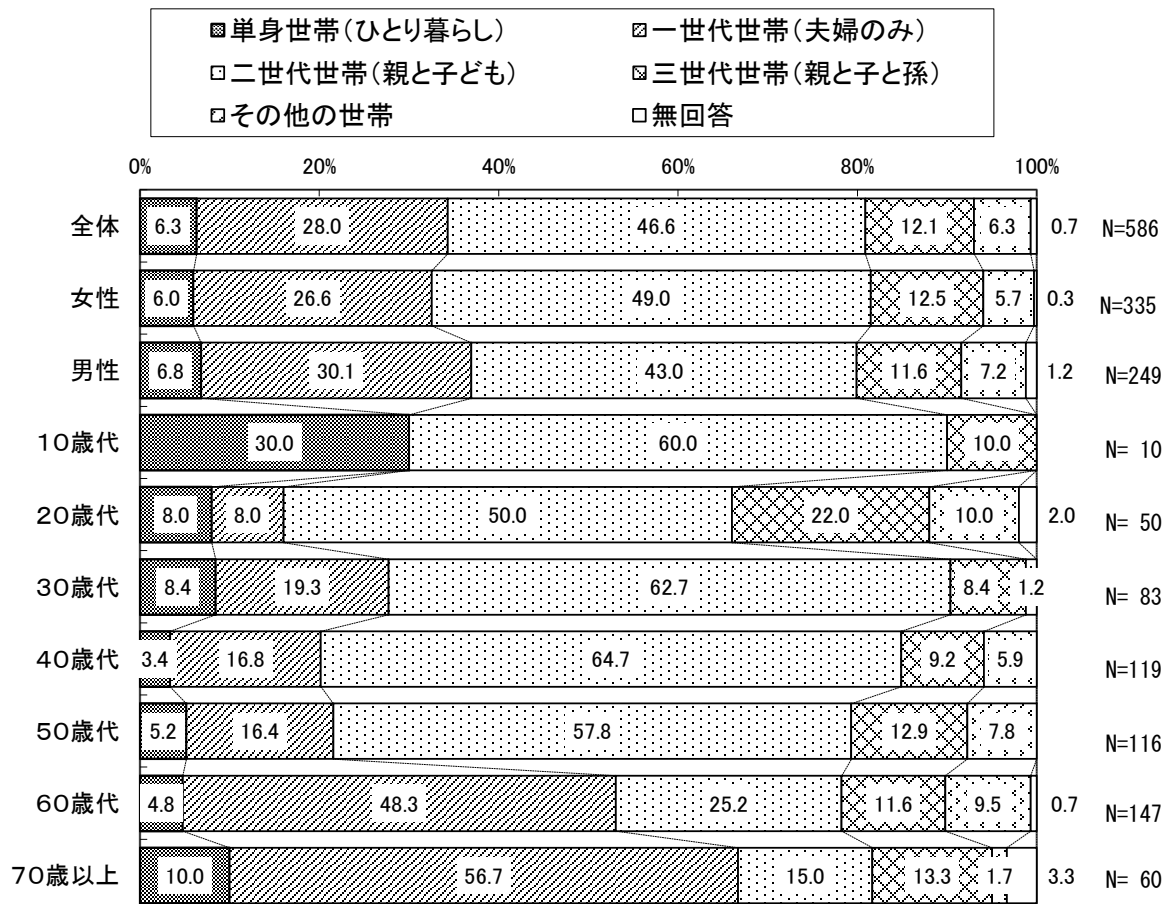
「二世帯世帯（親と子ども）」が 46.6%と最も多く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が 28.0%、「三世帯世帯（親と子と孫）」が 12.1%となっている。「一世帯世帯（夫婦のみ）」と「二世帯世帯（親と子ども）」を合わせた核家族世帯では 70%以上となる。

【性別・年代別】

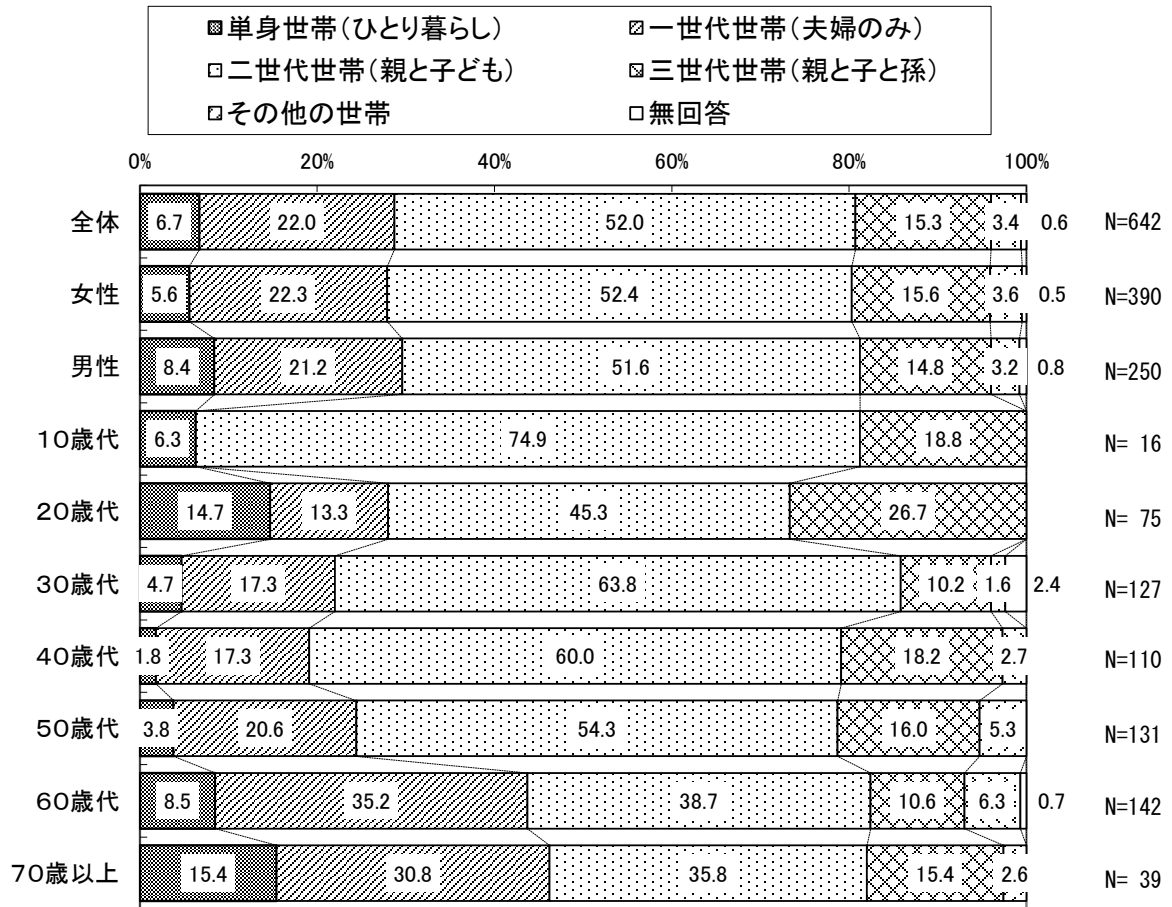
女性、男性とも「二世帯世帯（親と子ども）」が約 5 割を占めている。

年代別にみると、10 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「二世帯世帯（親と子ども）」が約 6 割を占め、60 歳代、70 歳以上は「一世帯世帯（夫婦のみ）」が約 5 割を占めている。

世帯構成【全体・性別・年代別】



世帯構成【前回調査H21】



前回調査
との比較

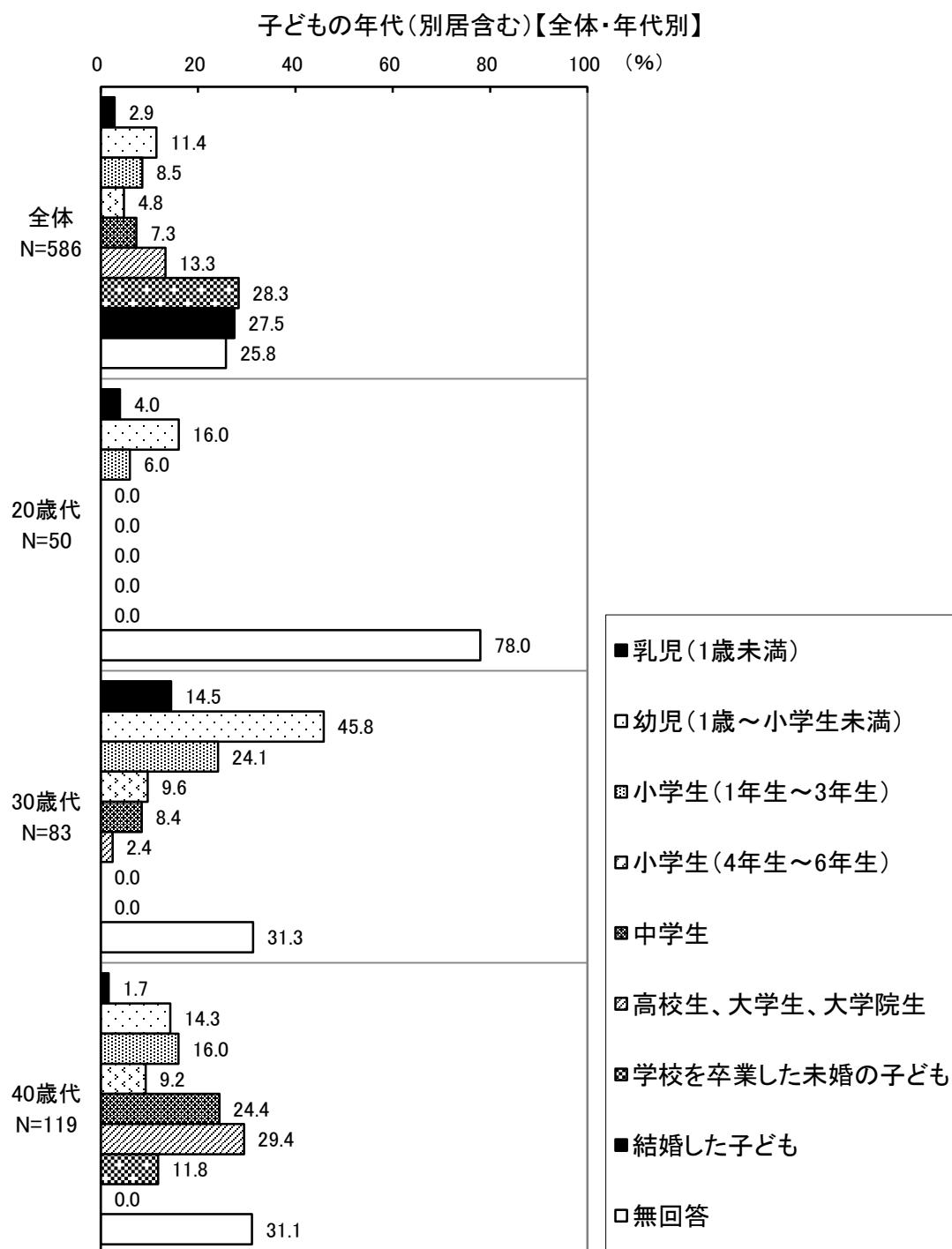
前回調査と比べると10歳代における「単身世帯（ひとり暮らし）」が6.3%から30.0%へと急増し、60歳代、70歳代については、「二世世代世帯（親と子ども）」が減少し、「一世代世帯（夫婦のみ）」が大きく増加している。

問5 お子さん（別居している子どもを含む）がいらっしゃる方におたずねします。
どの年代のお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
（平成28年6月末日現在の年齢・状態でお答えください。）

全体数 = 586

【年代別】

20歳代、30歳代では「乳児（1歳未満）」から「小学生（1年生～3年生）」までの子育て期にある人が多い。40歳代では「幼児（1歳～小学生未満）」から「高校生、大学生、大学院生」までの子どもが多い。



(5) 職業の状況

問8 あなたは現在、収入を得て働いていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(なお、出産・育児・介護などの休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。)

全体数 = 586

女性の場合、30歳代の就業率が前回調査より上昇し、「M字曲線※」ではなく「台形」を描いている。

【全体】

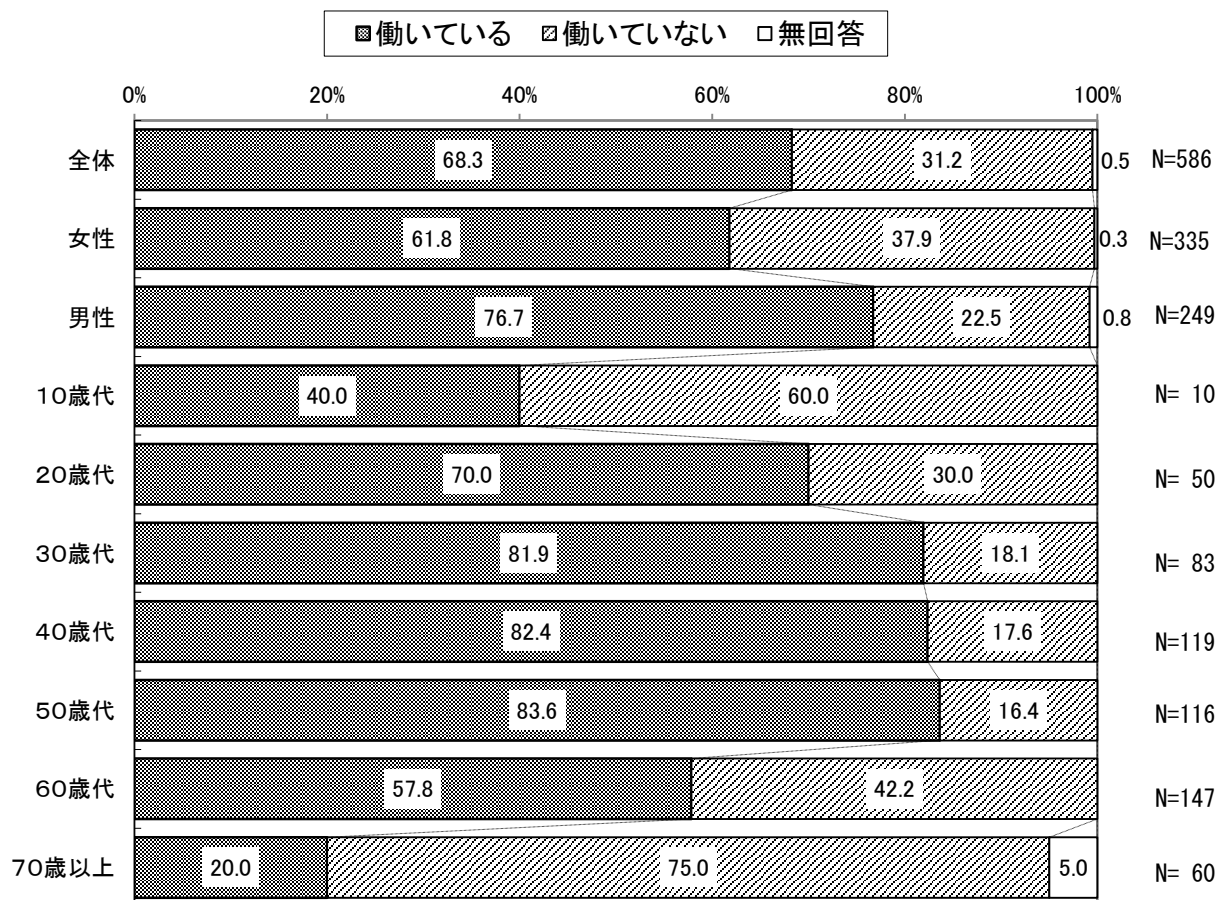
「働いている」が68.3%を占め、「働いていない」が31.2%となっている。

【性別・年代別】

「働いている」が、女性の場合61.8%、男性の場合76.7%となっている。

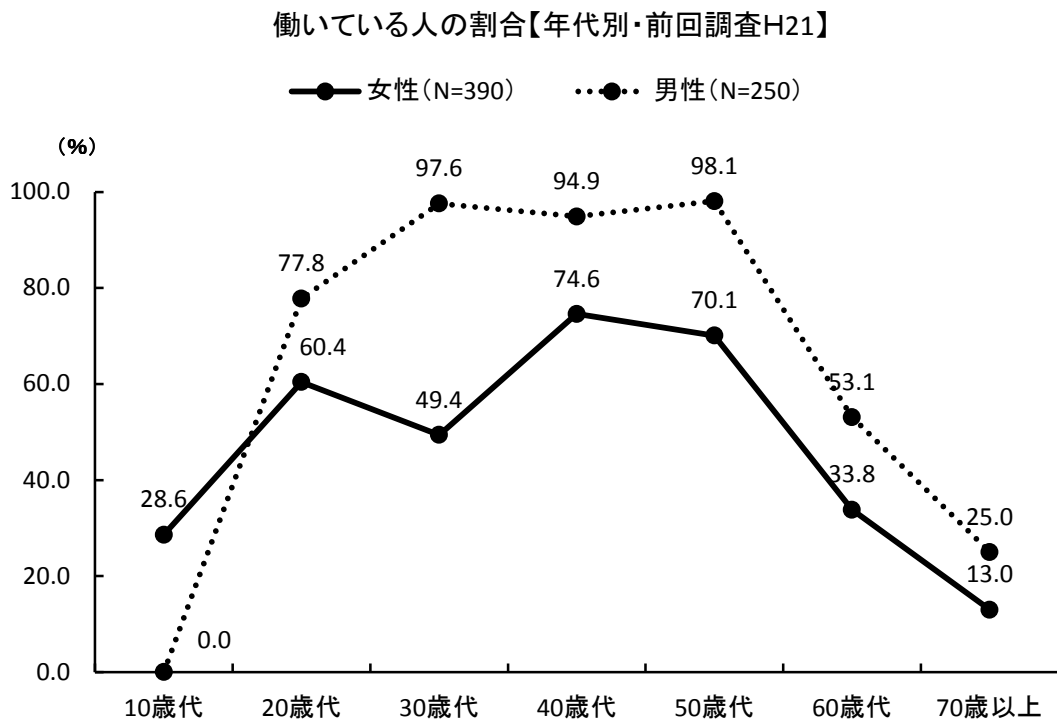
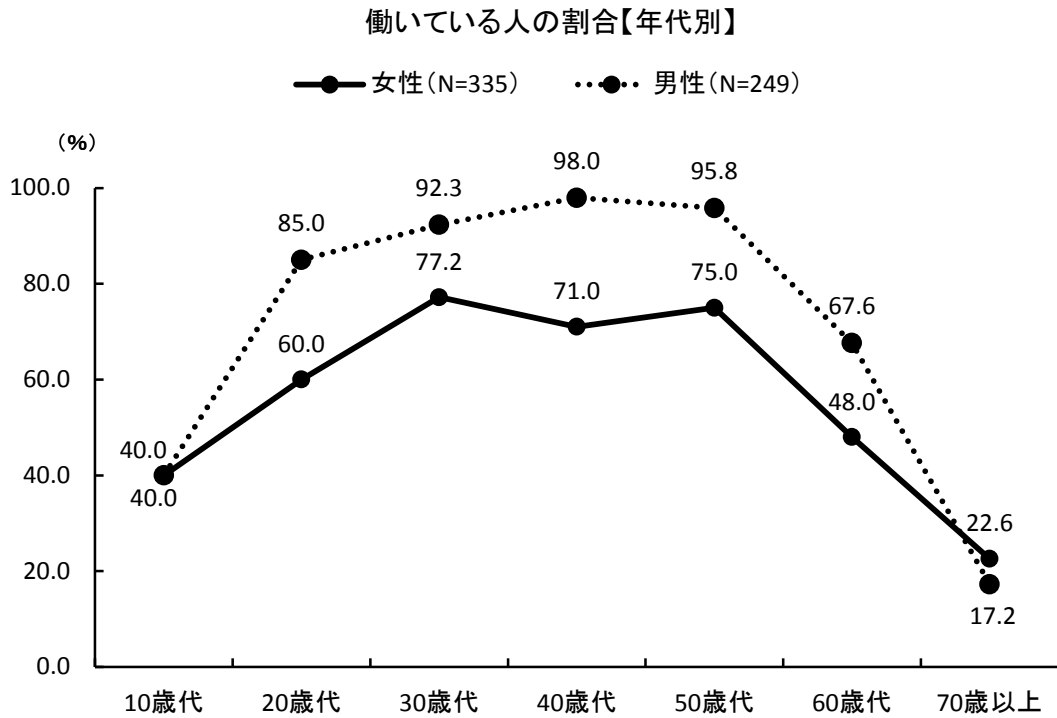
年代別にみると、「働いている」は30歳代～50歳代で80%以上を占めており、「働いていない」は60歳代で42.2%、70歳以上では75.0%を占めている。

働いているか【全体・性別・年代別】



※ M字曲線：女性の就業率あるいは労働力率が、結婚、出産、子育て期に低下しM字型になること。アメリカ、ドイツ、スウェーデンなどではこのM字のくぼみが見られないが、日本は韓国などと同様にM字型がはっきりしている。

男女別に年代別傾向をみると、女性の場合、30歳代で「働いている」の比率が前回調査より、上昇しており、「M字曲線 ※」ではなく「台形」を描いている。



※ M字曲線：女性の就業率あるいは労働力率が、結婚、出産、子育て期に低下しM字型になること。アメリカ、ドイツ、スウェーデンなどではこのM字のくぼみが見られないが、日本は韓国などと同様にM字型がはっきりしている。

問8-1 問8で「2. 働いていない」とお答えになった方におたずねします。無職の内容は次のどれですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 183

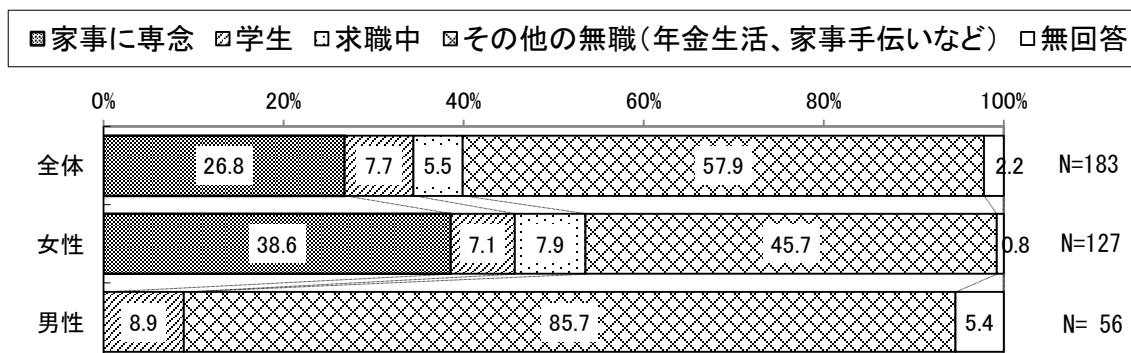
【全体】

「その他無職（年金生活・家事手伝いなど）」が 57.9%と最も多く、次いで「家事に専念」26.8%、「学生」7.7%、「求職中」5.5%と続いている。

【性別】

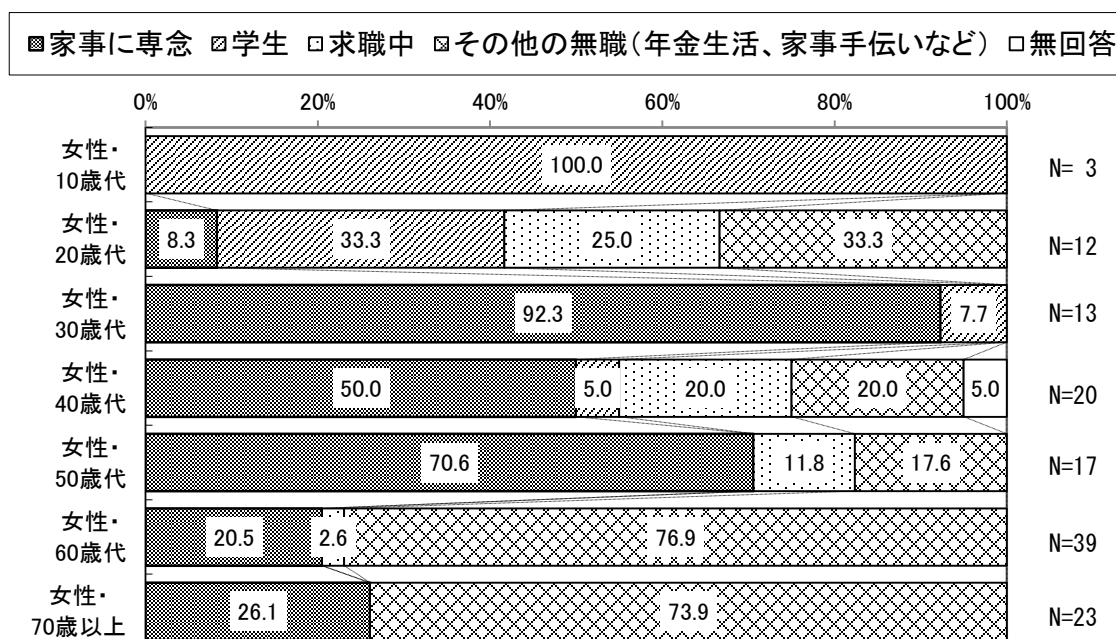
女性は「家事に専念」が 38.6%と多くなっている。男性は女性と比べると「その他の無職（年金生活・家事手伝いなど）」が 85.7%と多く、「家事に専念」および「求職中」はいなかった。

働いていない理由【全体・性別】



女性の場合、30 歳代は 9 割強が「家事に専念」し、「求職中」はいない。また、20 歳代、40 歳代で「求職中」が 20%～25%前後となっている。50 歳代では「家事に専念」の比率が約 7 割と多い。

働いていない理由【女性年代別】



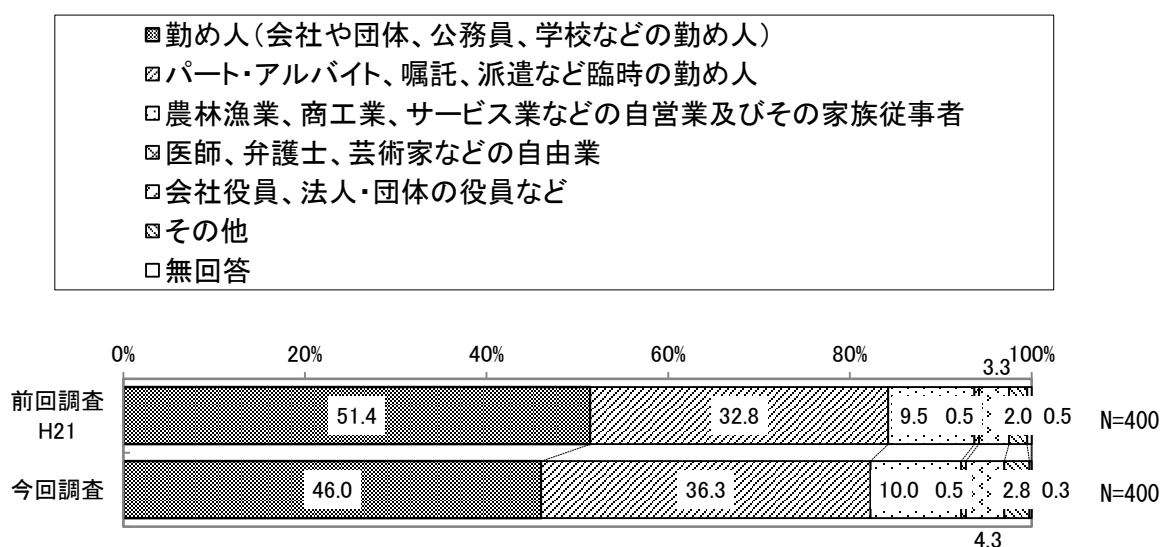
問8-2 問8で「1. 働いている」とお答えの方におたずねします。あなたの職業はなんですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 400

【全体】

「勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）」が46.0%と最も多く、次いで「パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人」36.3%、「農林漁業、商工業、サービス業などの自営業及びその家族従事者」10.0%、「会社役員、法人・団体の役員など」4.3%と続いている。

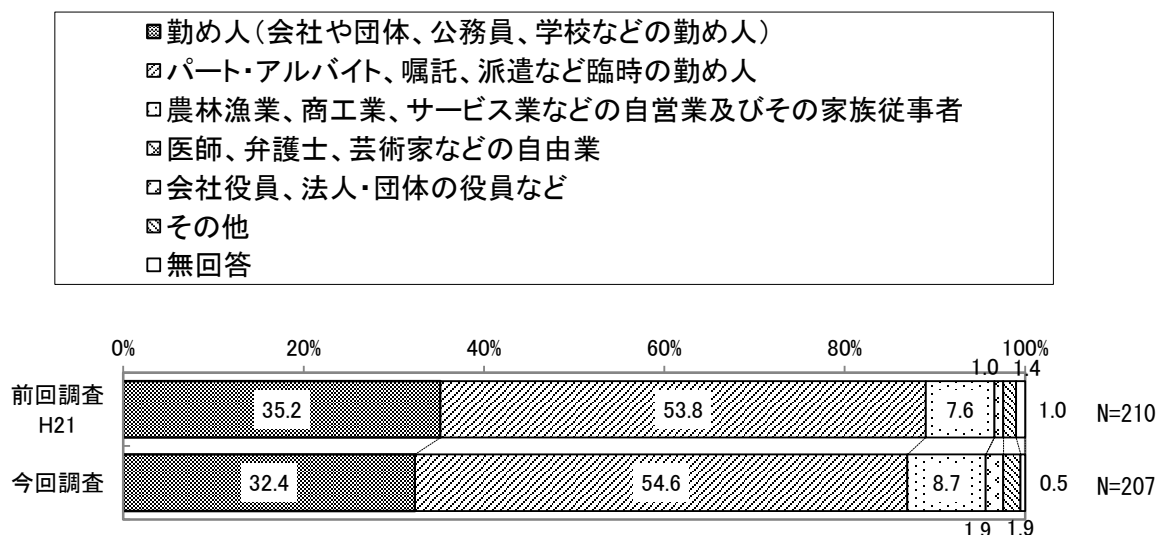
職業【全体】



【性別】

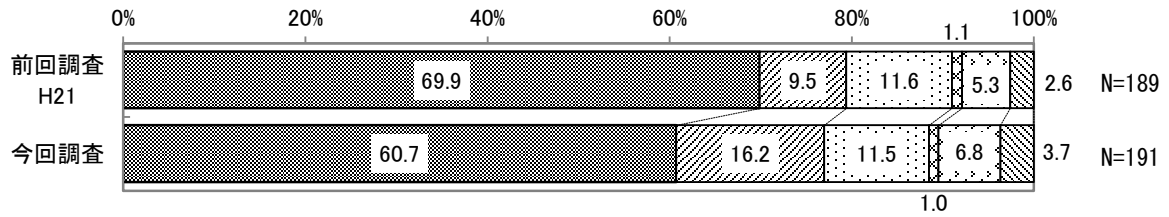
女性では全体と比べると「パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人」が54.6%と多く、「勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）」が少ない。男性では全体と比べると「勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）」が60.7%と多く、「パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人」が少ない。

職業【女性】



職業【男性】

- 勤め人(会社や団体、公務員、学校などの勤め人)
- ▨ パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人
- 農林漁業、商工業、サービス業などの自営業及びその家族従事者
- ▨ 医師、弁護士、芸術家などの自由業
- 会社役員、法人・団体の役員など
- ▨ その他
- 無回答



前回調査 との比較

前回調査と比べると、「勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）」の割合が減少し、特に男性では「パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人」の割合が上がっている。

2 家庭生活・役割分担意識

(1) 結婚観

問3-1 問3で「3. 結婚していないがパートナーがいる」または「4. 未婚」とお答えの方におたずねします。あなたは今後、結婚したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

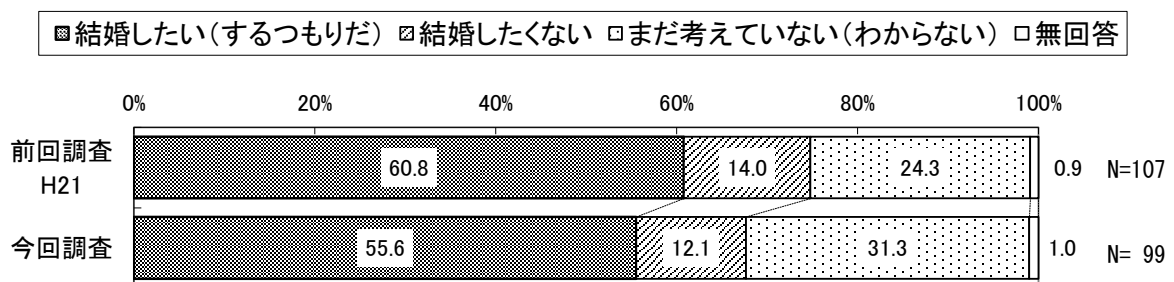
全体数 = 99

「結婚したい（するつもりだ）」と考えている人が前回より減少し、「まだ考えていない（わからない）」が増えている。

【全体】

「結婚したい（するつもりだ）」が55.6%、「結婚したくない」が12.1%、「まだ考えていない（わからない）」が31.3%となっている。

結婚したいか【全体】



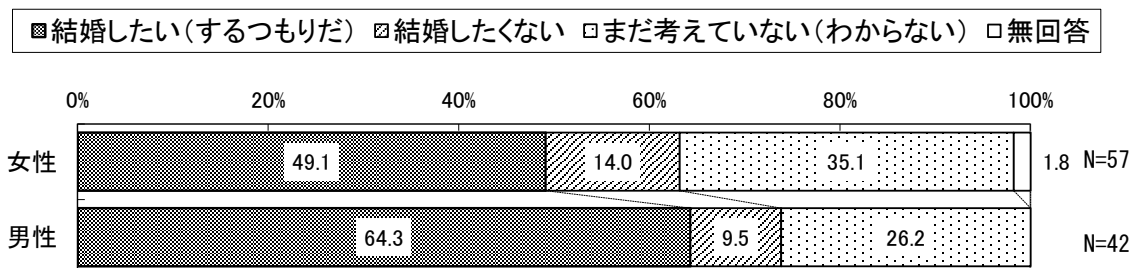
前回調査 との比較

前回調査と比べると、「結婚したい（するつもりだ）」「結婚したくない」の割合が微減し、「まだ考えていない（わからない）」の割合が上がっている。

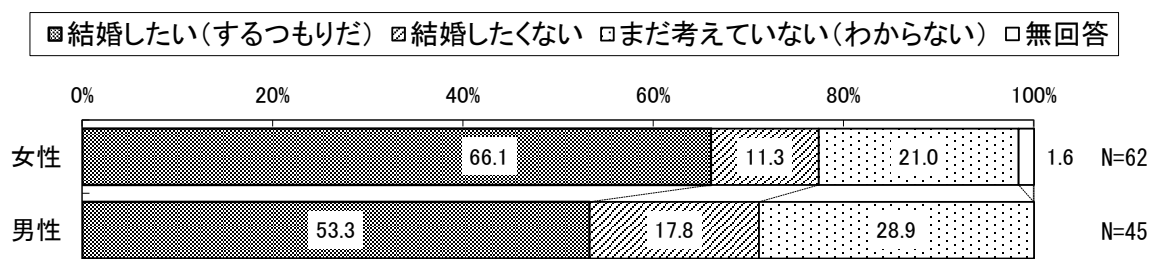
【性別】

性別では男性の「結婚したい（するつもりだ）」が女性より 15.2 ポイント高く、また「結婚したくない」は女性が 4.5 ポイント高くなっている。

結婚したいか【性別】



結婚したいか【性別・前回調査H21】



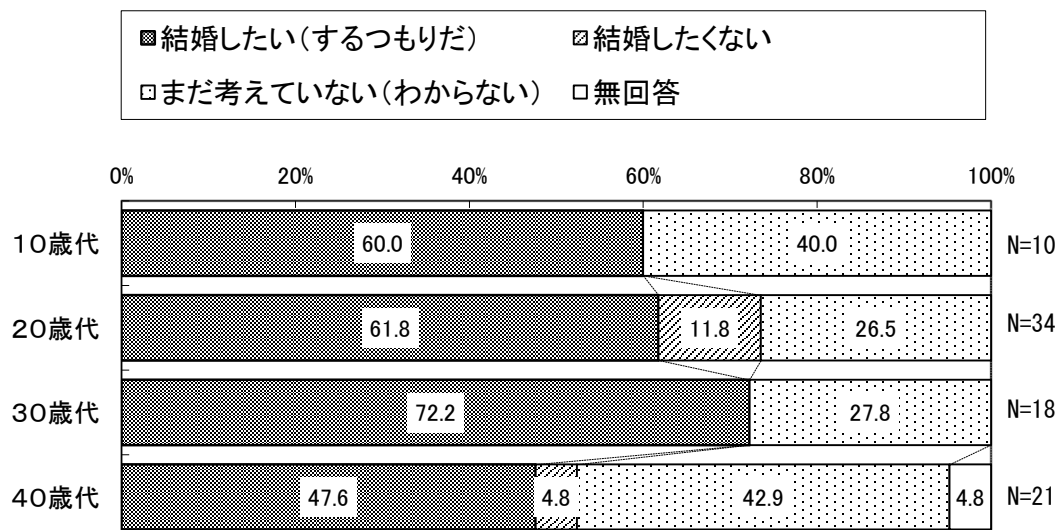
前回調査 との比較

前回調査と比べると、「結婚したい（するつもりだ）」の女性の割合が減少し、男性の割合が上がり、逆転している。

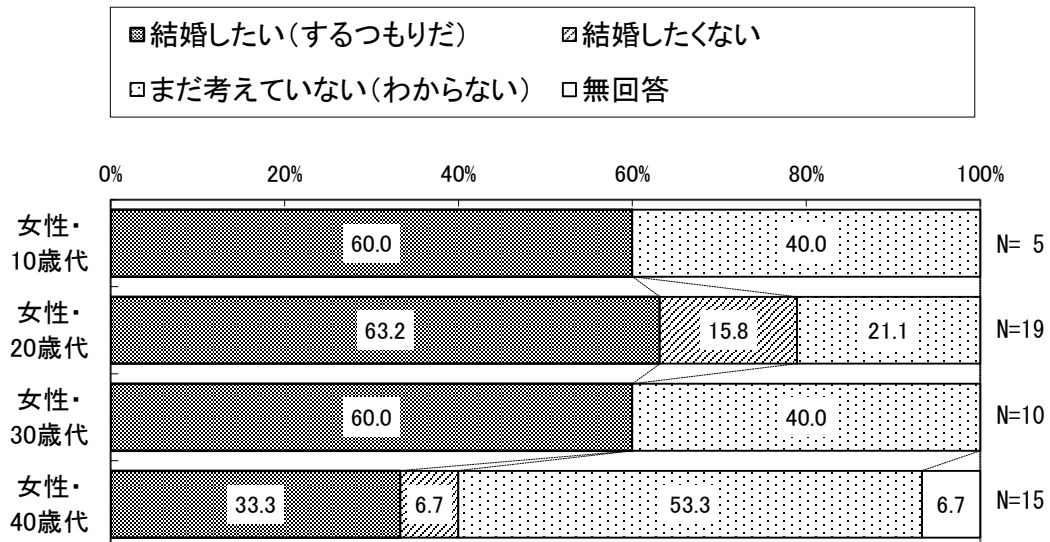
【年代別】

回答者のうち「未婚」の割合が多かった 10 歳代、20 歳代についてみると、「結婚したい（するつもりだ）」が 6 割を占めている。

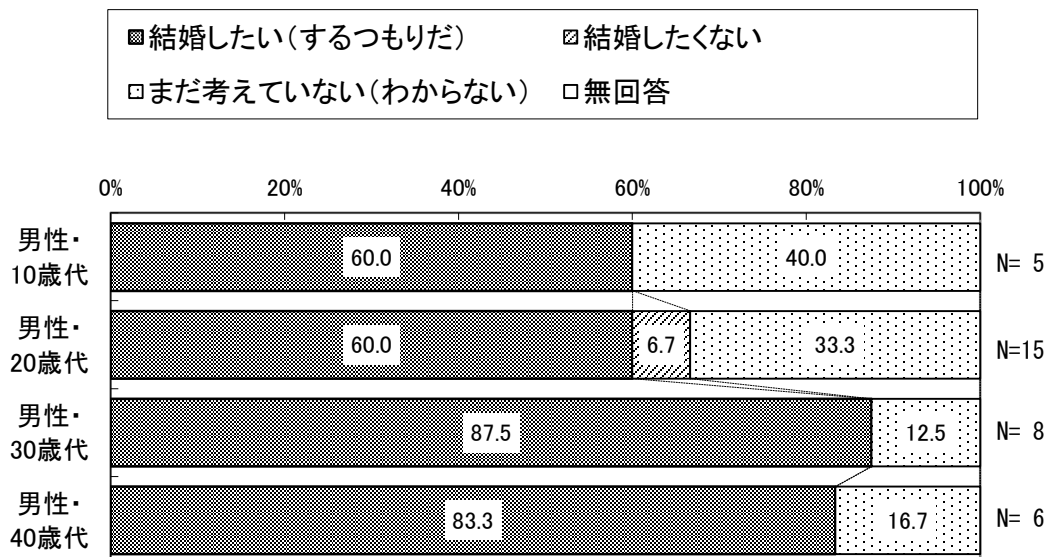
結婚したいか【年代別】



結婚したいか【女性年代別】



結婚したいか【男性年代別】



問3-2 問3-1で「2. 結婚したくない」とお答えの方におたずねします。その理由
はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 12

「束縛され自由がなくなるから」「責任や負担が重くなるから」と考えている人が多い。

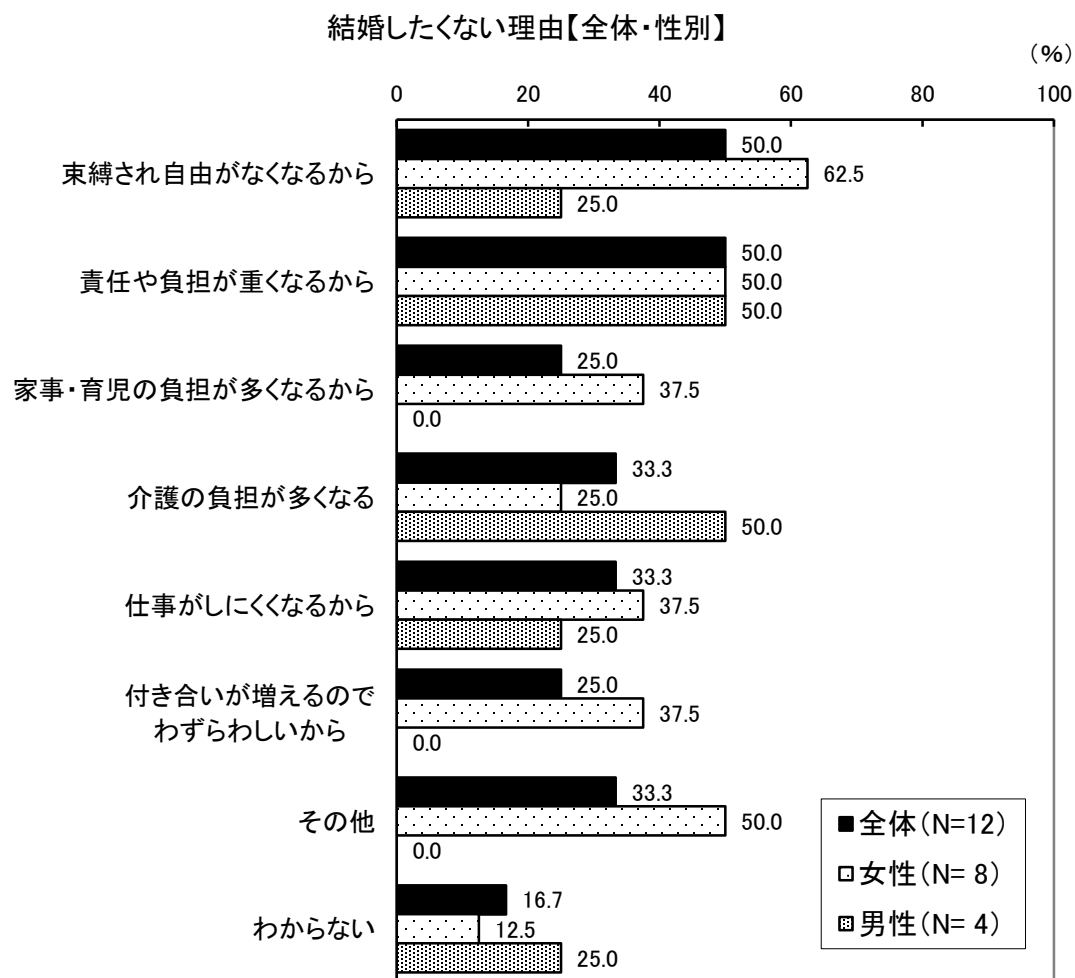
【全体】

最も回答率が高かったのは、「束縛され自由がなくなるから」「責任や負担が重くなるから」が50.0%で、次いで「介護の負担が多くなる」「仕事がいにくくなるから」が33.3%、「家事・育児の負担が多くなるから」「付き合いが増えるのでわずらわしいから」が25.0%の順となっている。

【性別】

性別では、女性は「束縛され自由がなくなるから」が62.5%と、男性の25.0%より37.5ポイント高くなっている。また、「家事・育児の負担が多くなるから」や「仕事がいにくくなるから」「付き合いが増えるのでわずらわしいから」についても女性のほうが高くなっている。

男性は「責任や負担が重くなるから」と、「介護の負担が多くなる」が共に50.0%となっている。



問3-3 問3で「4. 未婚」を選び、問3-1で「1. 結婚したい」とお答えの方におたずねします。現在結婚しておられない理由はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 45

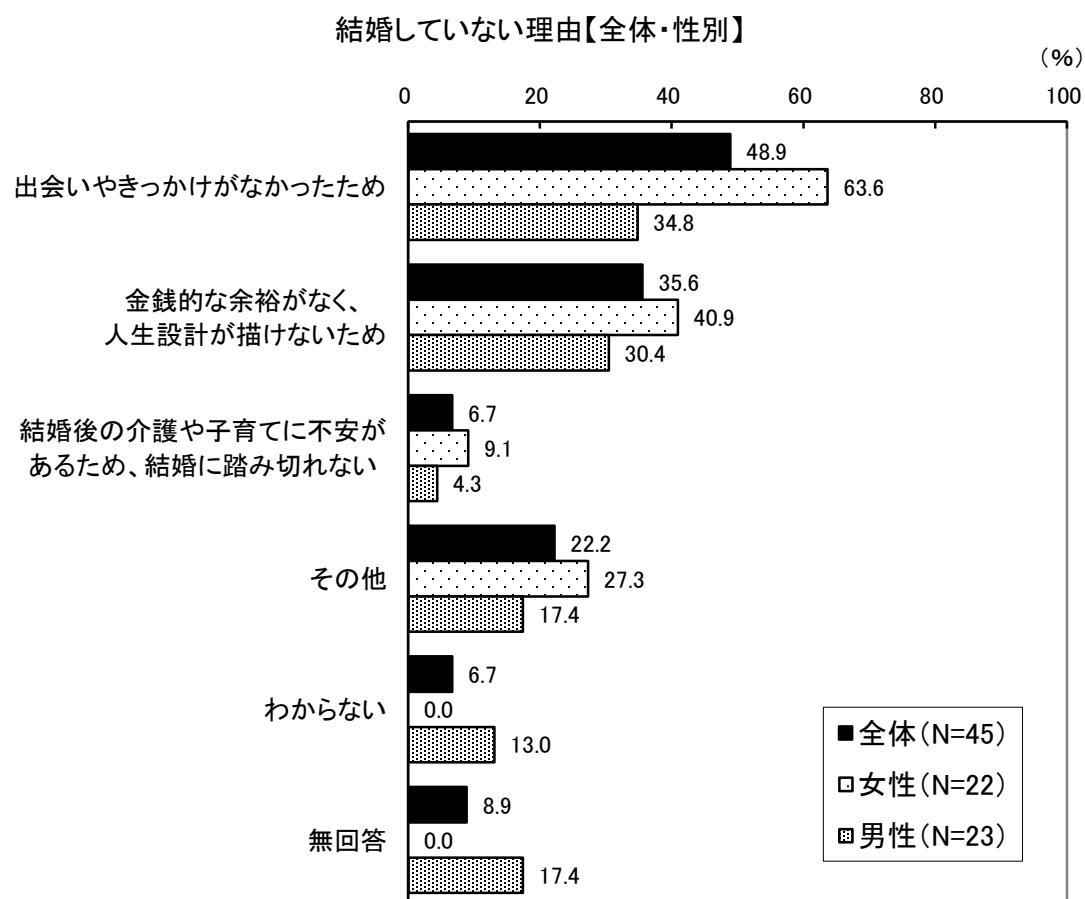
「出会いやきっかけがなかったため」が約半数を占め、次に「金銭的な余裕がなく、人生設計が描けないため」を多くあげている。

【全体】

最も回答率が高かったのは、「出会いやきっかけがなかったため」48.9%で、次いで「金銭的な余裕がなく、人生設計が描けないため」35.6%などの順となっている。

【性別】

性別で大きな違いがみられたのは、「出会いやきっかけがなかったため」で女性は63.6%となっているのに対し、男性は34.8%となっている。また、「金銭的な余裕がなく、人生設計が描けないため」も、男性は30.4%となっているのに対し、女性は40.9%と比率が高い。



(2) 家事・育児・介護などの分担

問6 「家事、育児や介護などを男女で分担する」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

「賛成」と「どちらかといえば賛成」、合わせて約9割が肯定している。
積極的な賛成は女性が高く、男性が低い。

【全体】

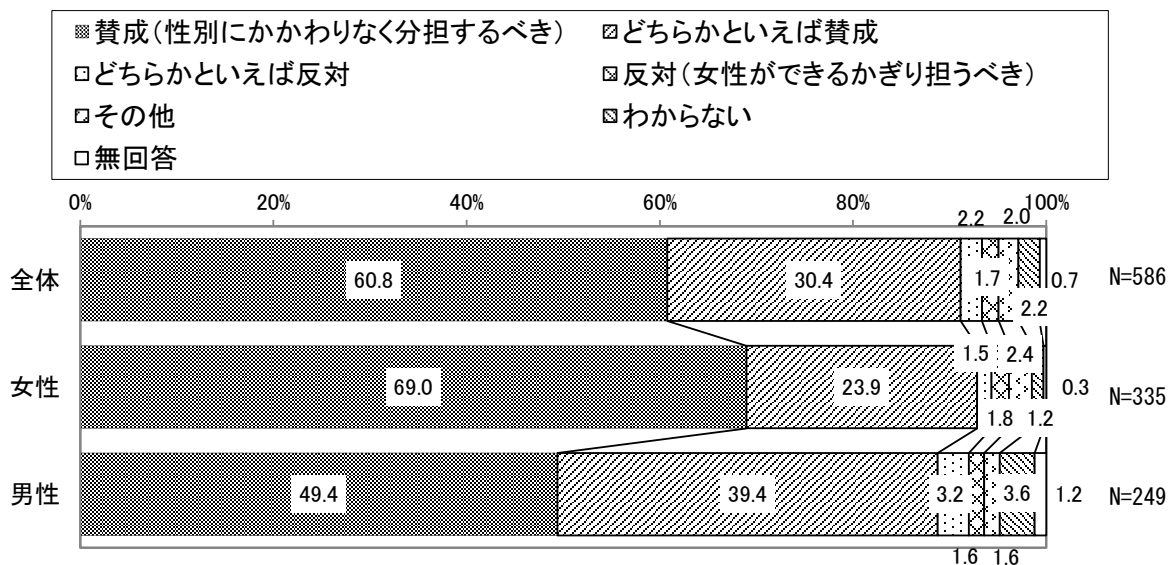
「賛成」が60.8%、「どちらかといえば賛成」が30.4%、合わせて91.2%が肯定している。
一方「どちらかといえば反対」2.2%、「反対」が1.7%、合わせて3.9%が否定している。

【性別】

女性では「賛成」が69.0%に対し、男性は49.4%となっている。

また、女性では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて92.9%が肯定的である。

家事の分担【全体・性別】

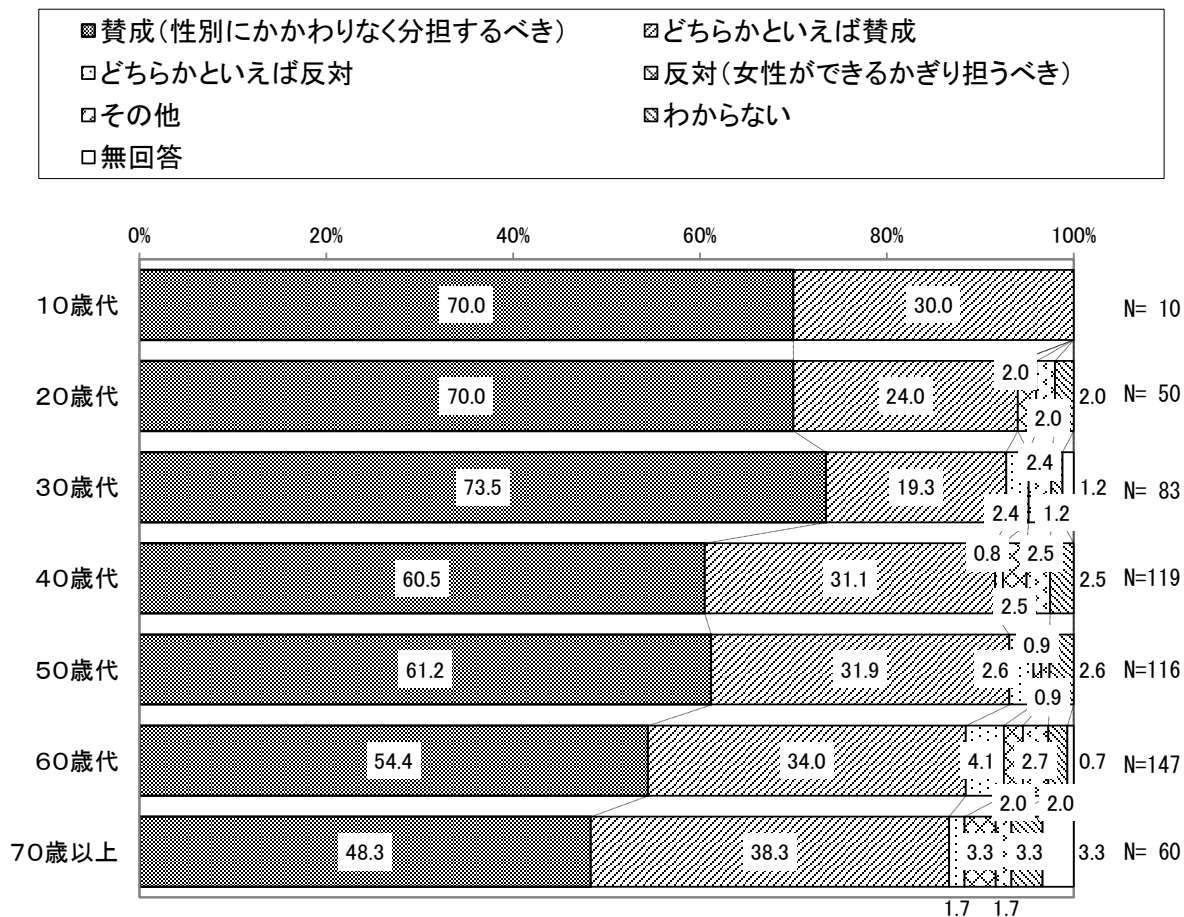


【年代別】

年代別では、10 歳代～30 歳代で「賛成」が7 割以上と高くなっている。

また、もっとも肯定の比率の少ない 70 歳代以上でも、86.6%が「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」と答えている。

家事の分担【年代別】

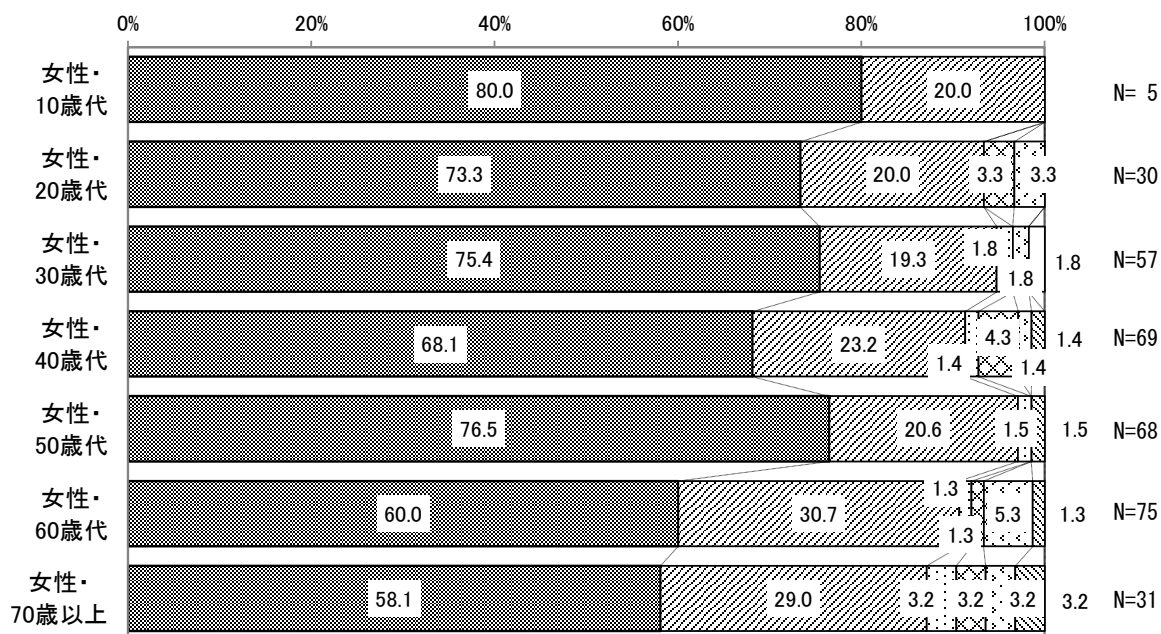


【性別】

男性の場合、10 歳代～30 歳代は「賛成」が多いが、40 歳代以上になると「どちらかといえば賛成」が増えている。

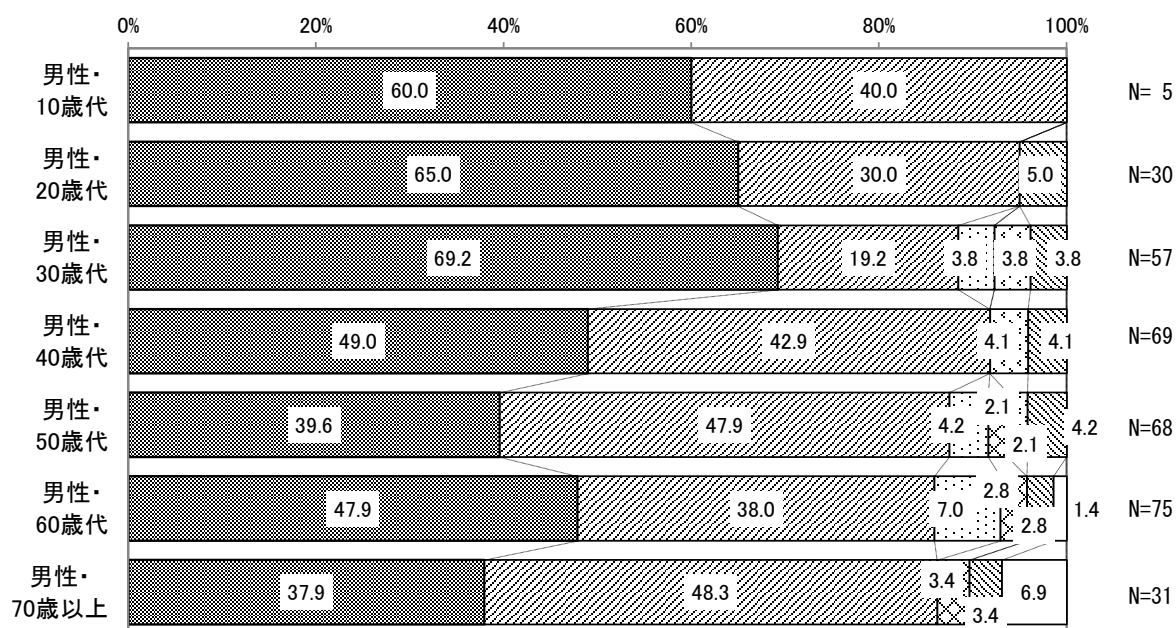
家事の分担【女性年代別】

☒ 賛成(性別にかかわらず分担するべき)	☒ どちらかといえば賛成
☐ どちらかといえば反対	☒ 反対(女性ができるかぎり担うべき)
☐ その他	☐ わからない
☐ 無回答	



家事の分担【男性年代別】

☒ 賛成(性別にかかわらず分担するべき)	☒ どちらかといえば賛成
☐ どちらかといえば反対	☒ 反対(女性ができるかぎり担うべき)
☐ その他	☐ わからない
☐ 無回答	



(3) 子どもの育て方についての意識

問7 あなたに今、子どもがいる、いないは別にして、子どもの育て方の中で特に必要だと思うものを①男の子、②女の子それぞれについて、お答えください。

①男の子の場合、特に必要だと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

②女の子の場合、特に必要だと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 586

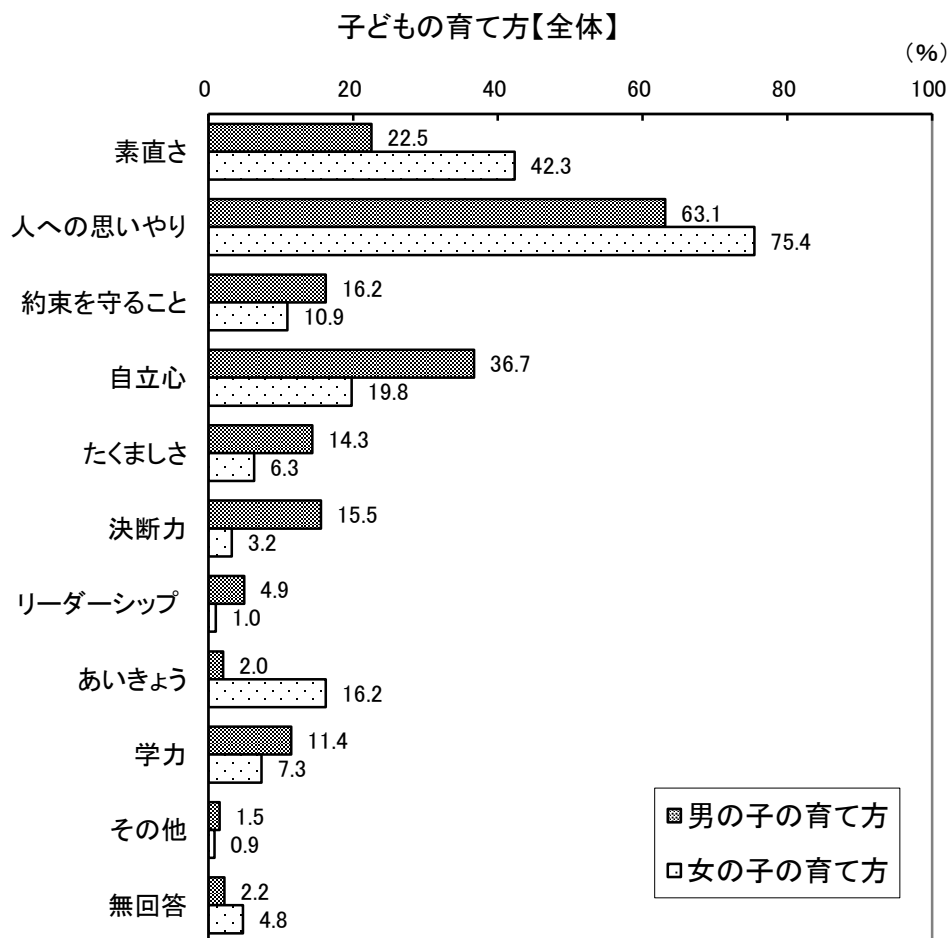
男の子の育て方、女の子の育て方とも「人への思いやり」が必要だと考えている人が多い。

【全体】

最も回答率が高かったのは、男の子の育て方では、「人への思いやり」63.1%で、次いで「自立心」36.7%、「素直さ」22.5%、「約束を守ること」16.2%、「決断力」15.5%の順となっている。

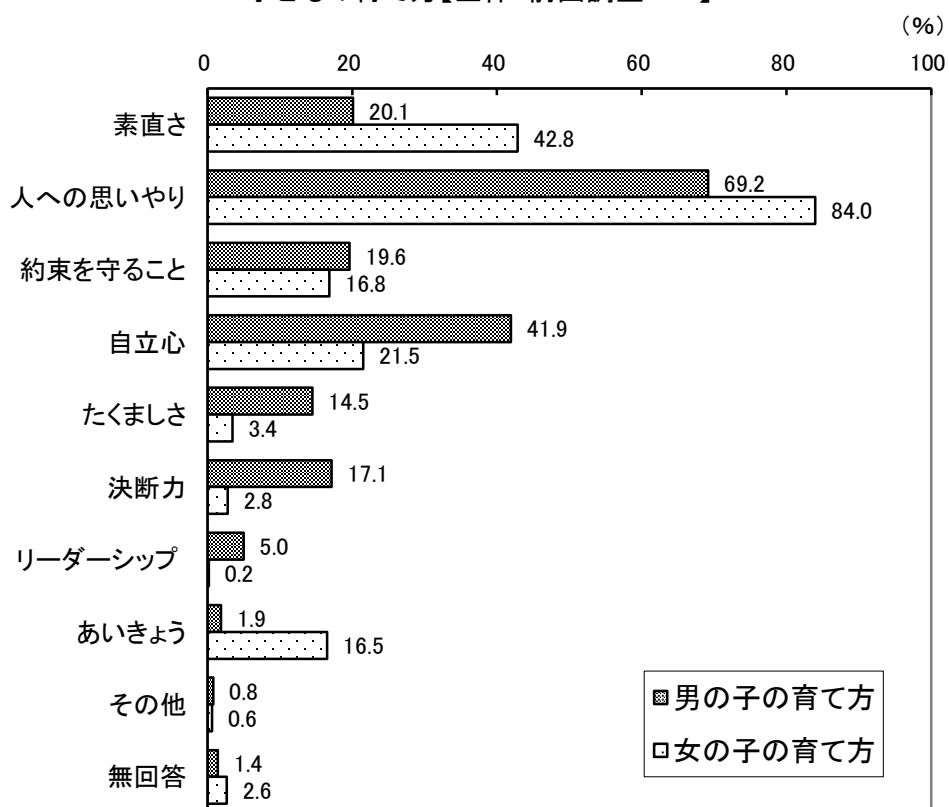
女の子の育て方では、「人への思いやり」が75.4%と最も高く、次いで「素直さ」42.3%、「自立心」19.8%、「あいきょう」16.2%、「約束を守ること」10.9%の順となっている。

男の子、女の子とも「人への思いやり」が最も多くなっているが、その他の項目においては男の子、女の子で差が出ており、ジェンダー※に基づく意識がみられる。



※ ジェンダー：先天的・身体的・生物学的性別を示すセックスに対して、「社会的・文化的な性のありよう」のこと。

子どもの育て方【全体・前回調査H21】



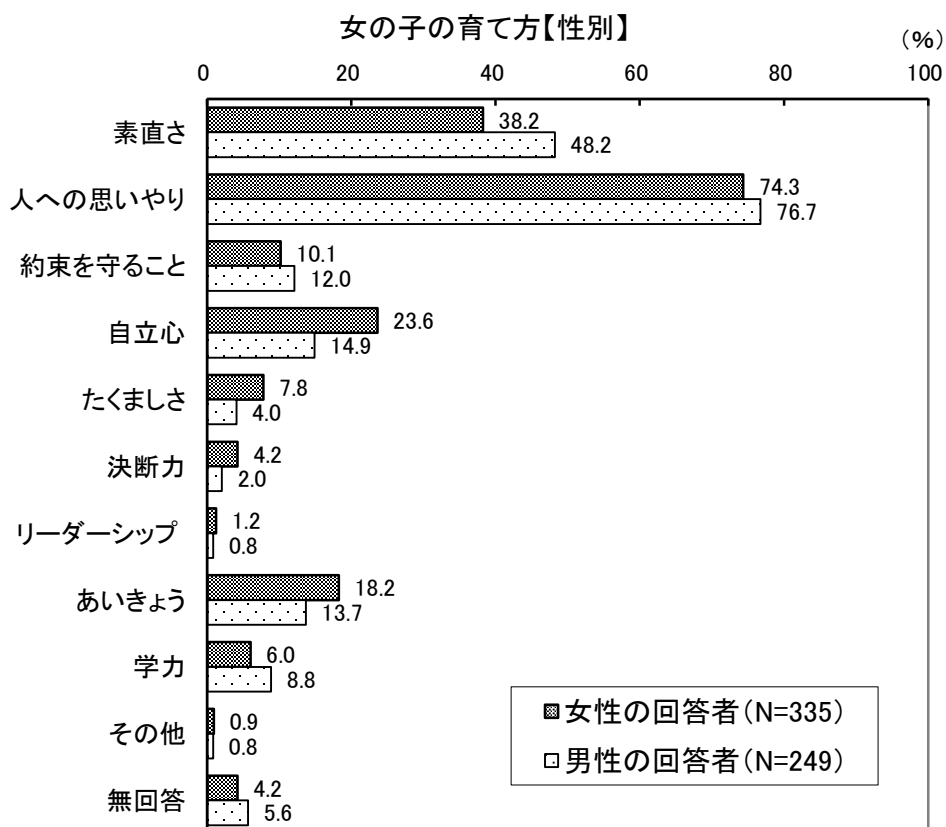
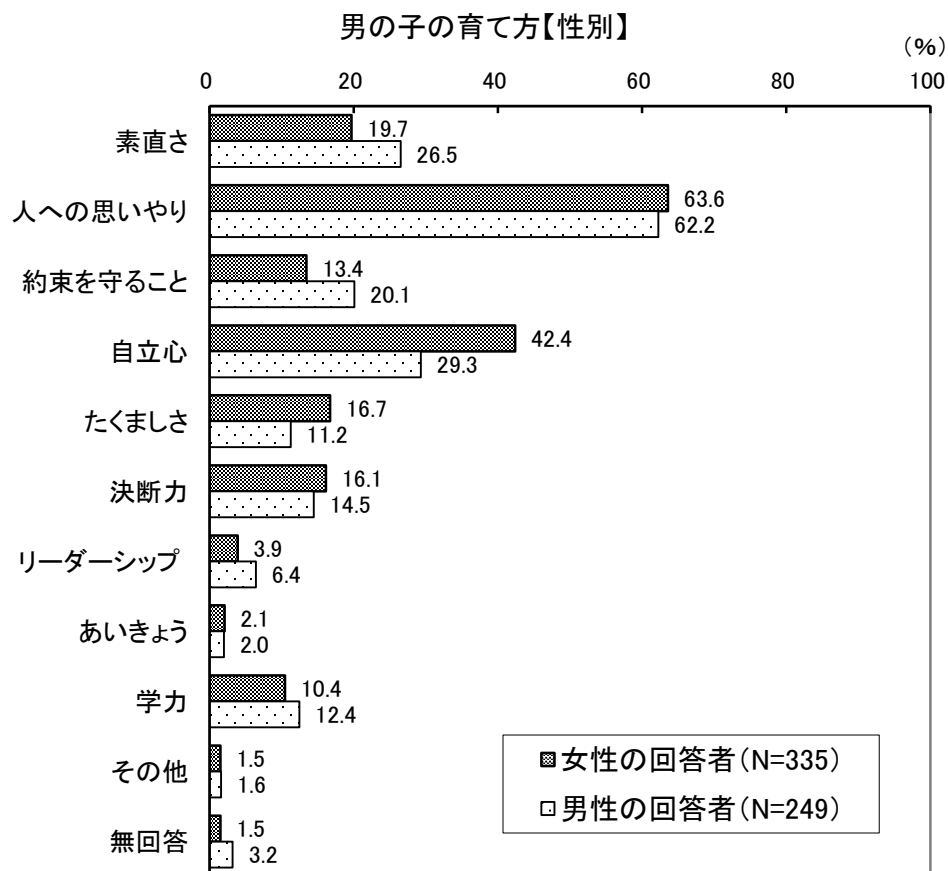
※前回調査では「学力」は設けられていなかった。

前回調査
との比較

男の子に求められているもの、女の子に求められているものは、(前々回調査を含め)この15年間において変化はみられない。

【性別】

回答者の男女とも全体と傾向は同じだが、男の子、女の子の育て方とも「自立心」では女性が男性より高く、女の子の育て方について「素直さ」では男性が女性より高くなっている。



3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

（１）ワーク・ライフ・バランス

問9 問8で「1. 働いている」とお答えの方におたずねします。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、現在のあなたの満足度はいかがですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 400

半数の人が「満足している」となっている。

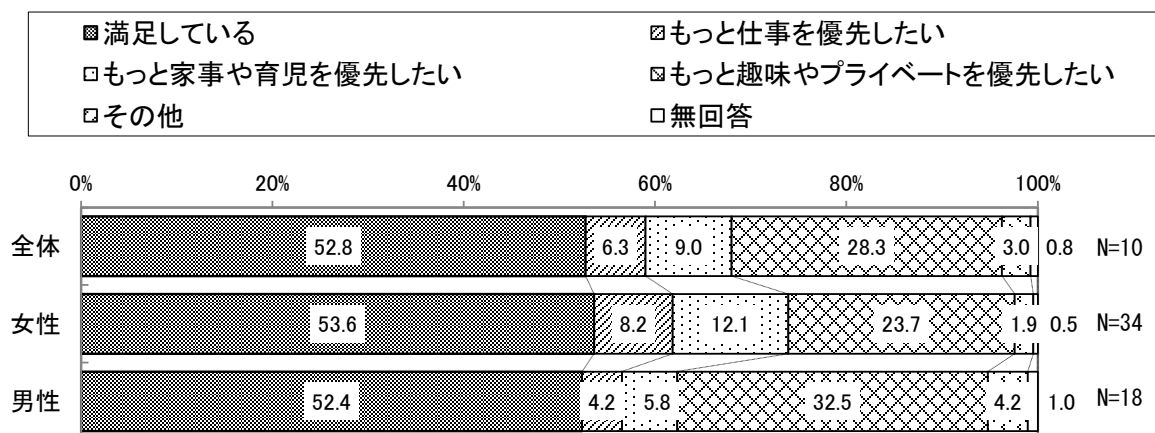
【全体】

回答率が高かったのは、「満足している」が 52.8%で、次に「もっと趣味やプライベートを優先したい」が 28.3%となっている。

【性別】

「もっと趣味やプライベートを優先したい」では、女性が 23.7%に対し、男性は 32.5%と 8.8 ポイント高くなっている。

ワーク・ライフ・バランス【全体・性別】



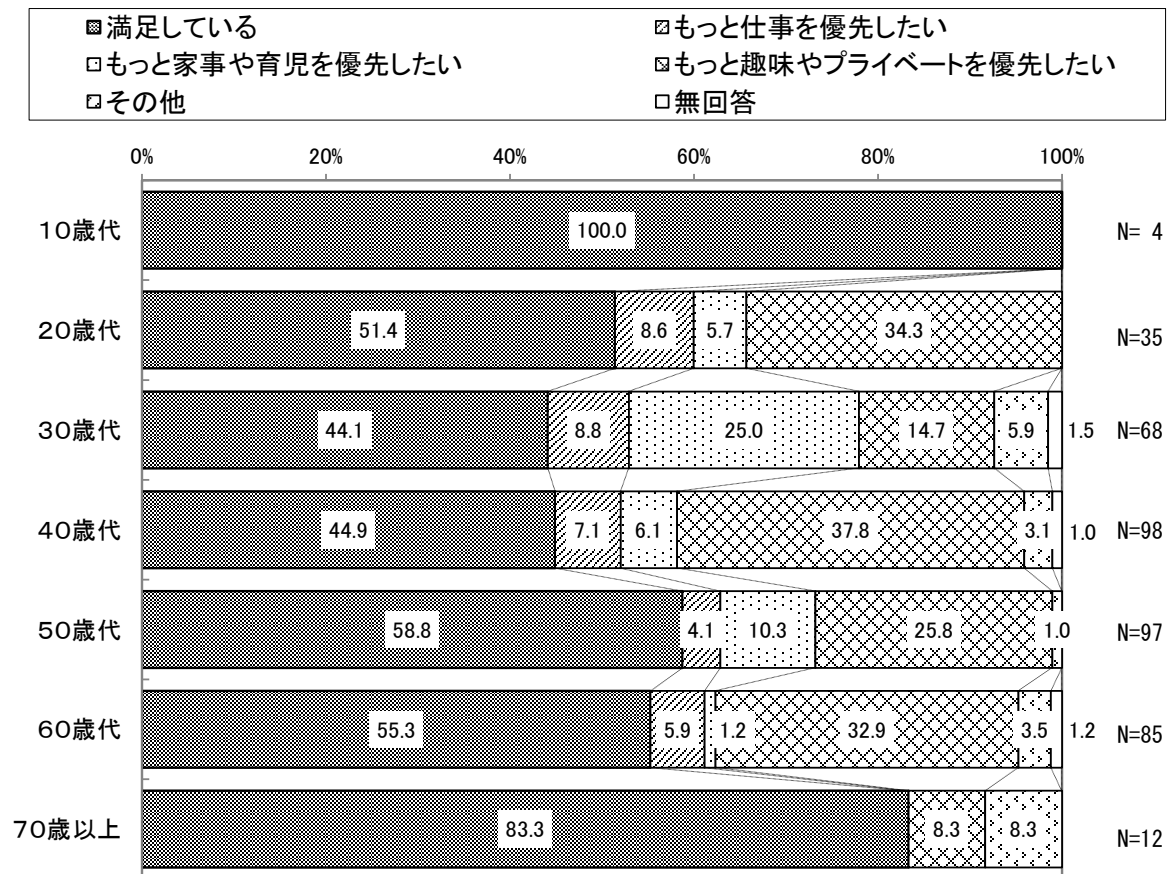
【年代別】

どの年代でも「満足している」が4割以上を占めるが、30歳代では「もっと趣味やプライベートを優先したい」より「もっと家事や育児を優先したい」が10.3%多くなっている。

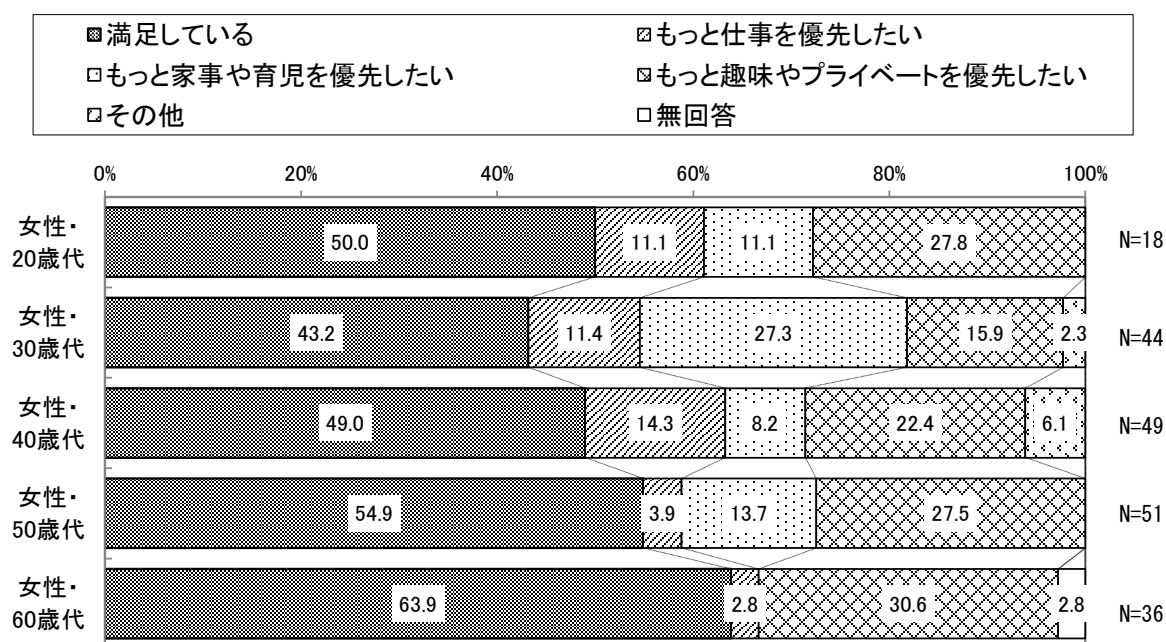
女性の場合、30歳代では「もっと家事や育児を優先したい」が27.3%とどの年代よりも多いが、20歳代と40歳代以上では「もっと趣味やプライベートを優先したい」がもっとも多い。

男性の場合でも、「もっと家事や育児を優先したい」が30歳代でもっとも多い。

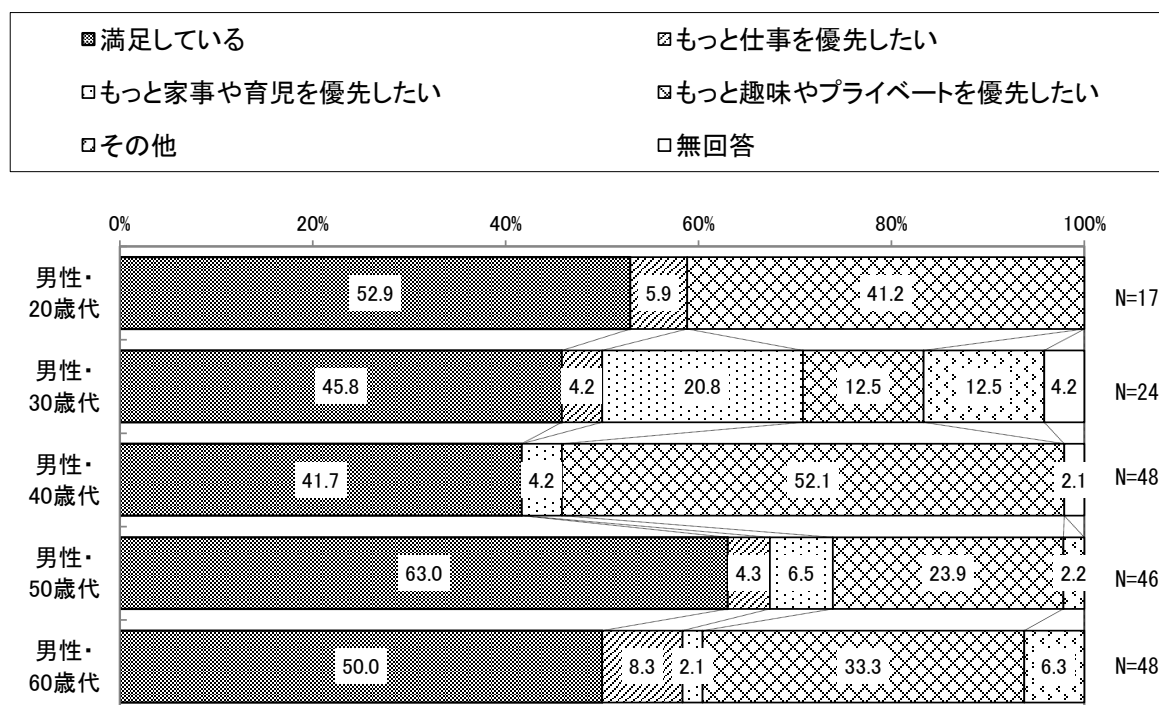
ワーク・ライフ・バランス【年代別】



ワーク・ライフ・バランス【女性年代別】



ワーク・ライフ・バランス【男性年代別】



問10 仕事と生活の調和がとれた多様な暮らしのために、職場の環境や制度として、今後、どのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 586

男女とも「上司に理解があること」を、最も多く上げている。

【全体】

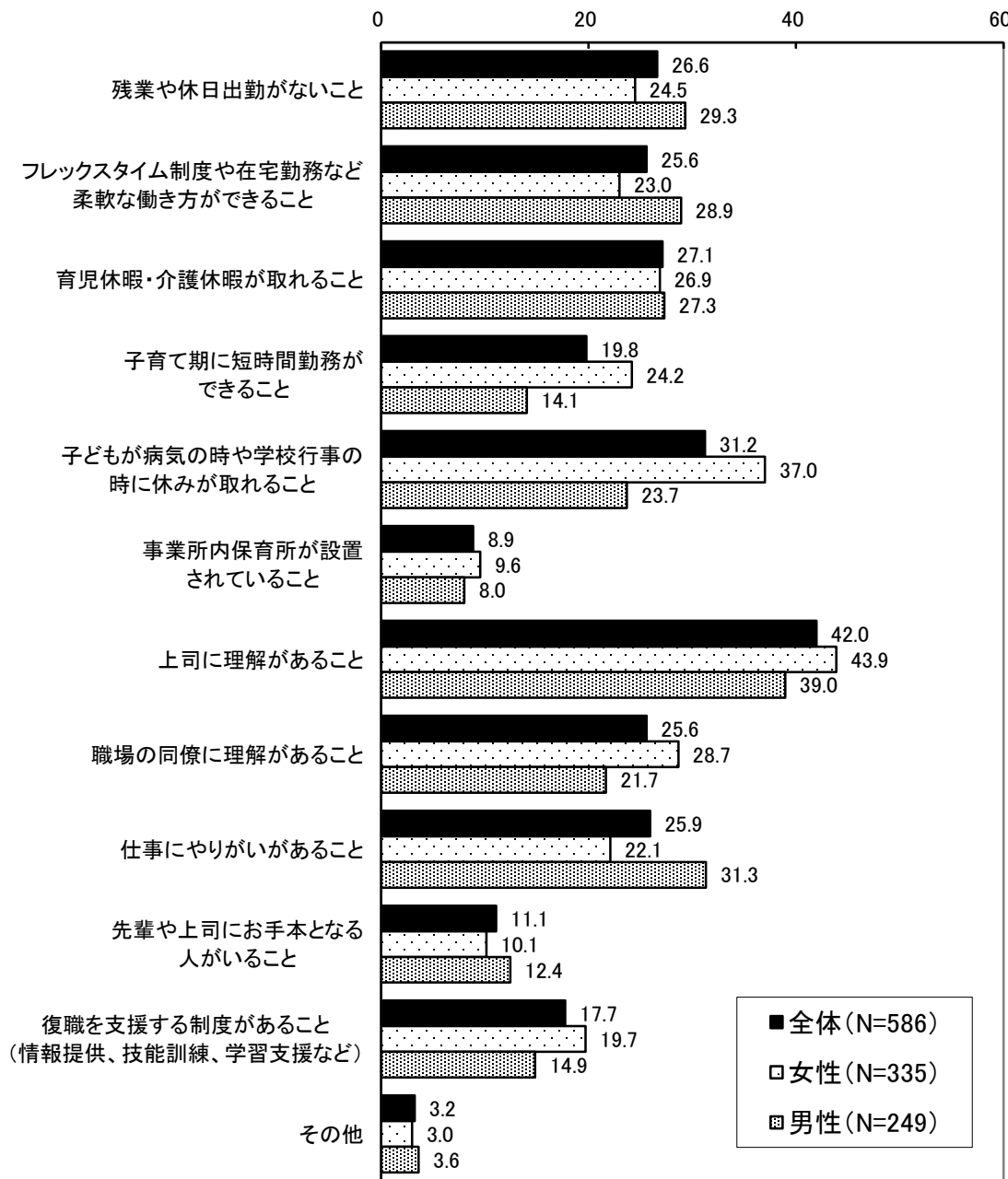
「上司に理解があること」が最も多く42.0%で、次いで「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」31.2%、「育児休暇・介護休暇が取れること」27.1%、「残業や休日出勤がないこと」26.6%の順となっている。

【性別】

女性は「子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること」で13.3ポイント、「子育て期に短時間勤務ができること」で10.1ポイント男性より高くなっている。一方男性は「仕事にやりがいがあること」で9.2ポイント女性より高くなっている。

多様な暮らしのために必要なこと【全体・性別】

(%)



（２）女性の働き方についての意識

問 1 1 あなたは女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

「育児休業取得型」が最も多く、次いで「就業継続型」となっている。

設問項目 1～8 を「就業継続型」、「育児休業取得型」、「退職再就業型」、「無就業型」の3つに分類して分析していくことにする。分類内容は以下のとおりである。

- 「就業継続型」…… ○結婚しないで働き続ける
○結婚するが、子どもを持たずに働き続ける
○結婚し子どもを持ちながら働き続ける
- 「育児休業取得型」・ ○子どもができたなら育児のためにいったん休んで、その後職場に復帰する
- 「退職再就業型」・ ○結婚や出産を契機に退職し、子どもが大きくなってから再び働く
- 「無就業型」…… ○結婚前・後とも働かない

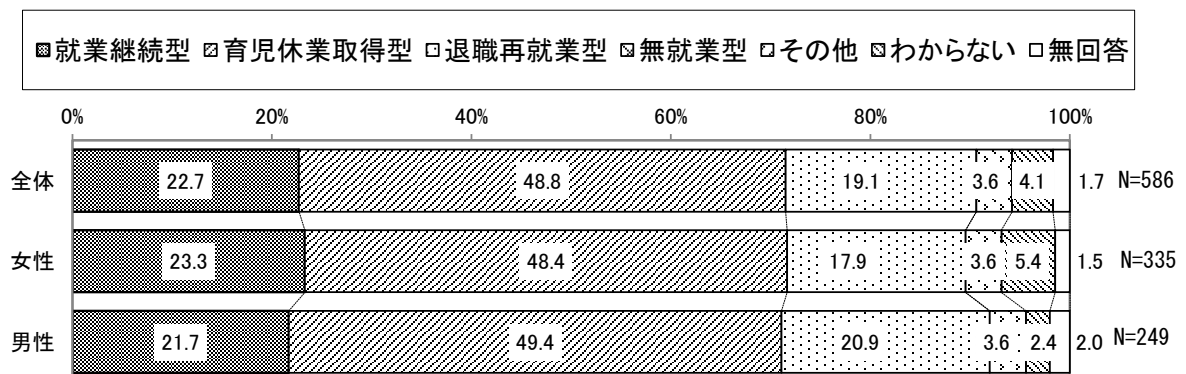
【全体】

「育児休業取得型」が48.8%で最も多く、次いで「就業継続型」が22.7%、「退職再就業型」が19.1%となっている。「無就業型」を回答した人はいなかった。

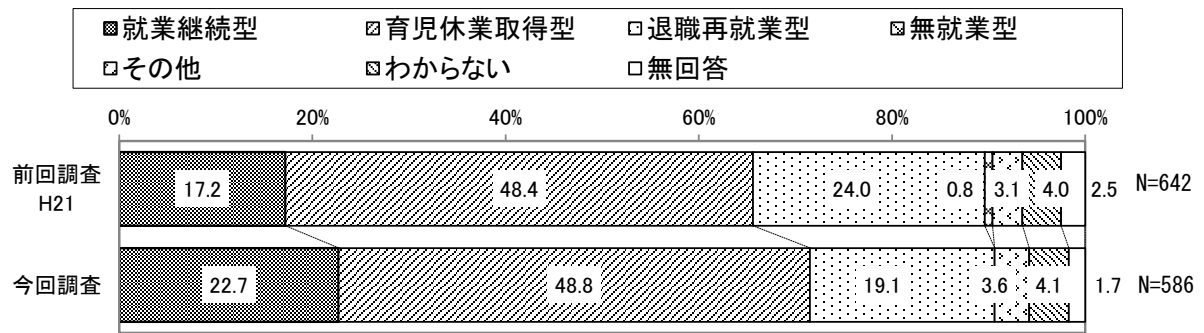
【性別】

男女とも「育児休業取得型」が約5割を占めており、ほぼ同じ傾向となっている。

女性の働き方について【全体・性別】



女性の働き方について【全体】



前回調査 との比較

前回調査と比べると、「退職再就業型」が減り「就業継続型」が増えている。また前回同様、育児休業制度の活用が望ましいと思っている割合が最も多くなっている。

女性の働き方

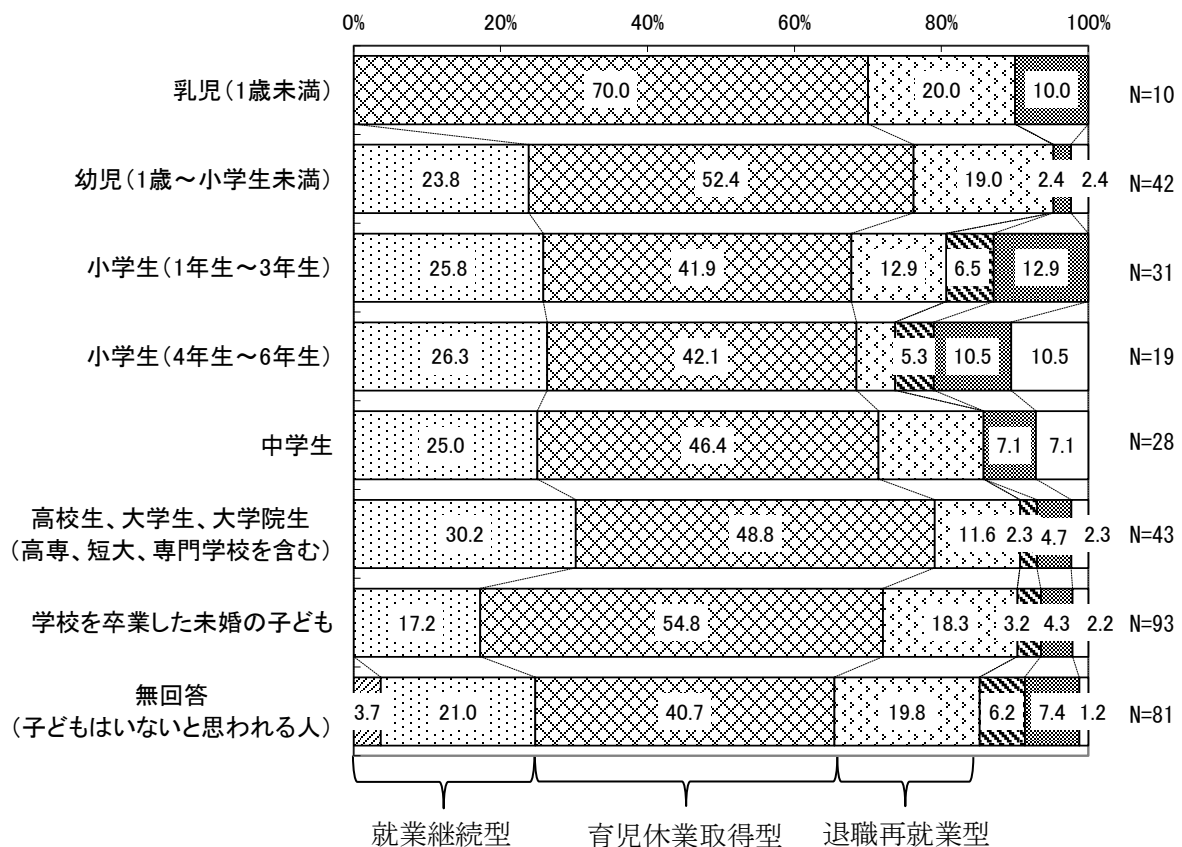
		就業継続型				育児休業取得型	退職再就業型	無就業型	その他	わからない	無回答
		計	結婚しないで働き続ける	結婚するが、つづける子どもを持つ	結婚し、子どもを持つ	そのために職場に復帰する	子どもができた後、育児のため退職	結婚や出産を契機に退職	結婚前・後とも働かない		
全体		人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
		586	22.7	0.3	0.9	21.5	48.8	19.1	0.0	3.6	4.1
性別	女性	335	23.3	0.0	1.2	22.1	48.4	17.9	0.0	3.6	5.4
	男性	249	21.7	0.8	0.4	20.5	49.4	20.9	0.0	3.6	2.4
年代別	10歳代	10	20.0	0.0	0.0	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	50	16.0	4.0	0.0	12.0	54.0	14.0	0.0	6.0	10.0
	30歳代	83	22.9	0.0	2.4	20.5	45.8	20.5	0.0	3.6	7.2
	40歳代	119	27.7	0.0	1.7	26.1	40.3	21.0	0.0	6.7	3.4
	50歳代	116	26.7	0.0	0.0	26.7	44.0	21.6	0.0	4.3	3.4
	60歳代	147	19.7	0.0	0.7	19.0	61.2	15.6	0.0	0.7	1.4
	70歳以上	60	18.3	0.0	0.0	18.3	41.7	21.7	0.0	1.7	5.0

【子どもの年代による違い】

乳児がいる場合「就業継続型」は0%で「育児休業取得型」が7割を占めている。

女性の働き方について【子どもの年代別】

- 結婚しないで働き続ける
- 結婚するが、子どもを持たずに働きつづける
- 結婚し、子どもを持ちながら働きつづける
- 子どもができたら育児のためにいったん休んで、その後職場に復帰する
- 結婚や出産を契機に退職し、子どもが大きくなってから再び働く
- 結婚前・後とも働かない
- その他
- わからない
- 無回答



問12 あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 586

「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多く、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実させること」となっている。

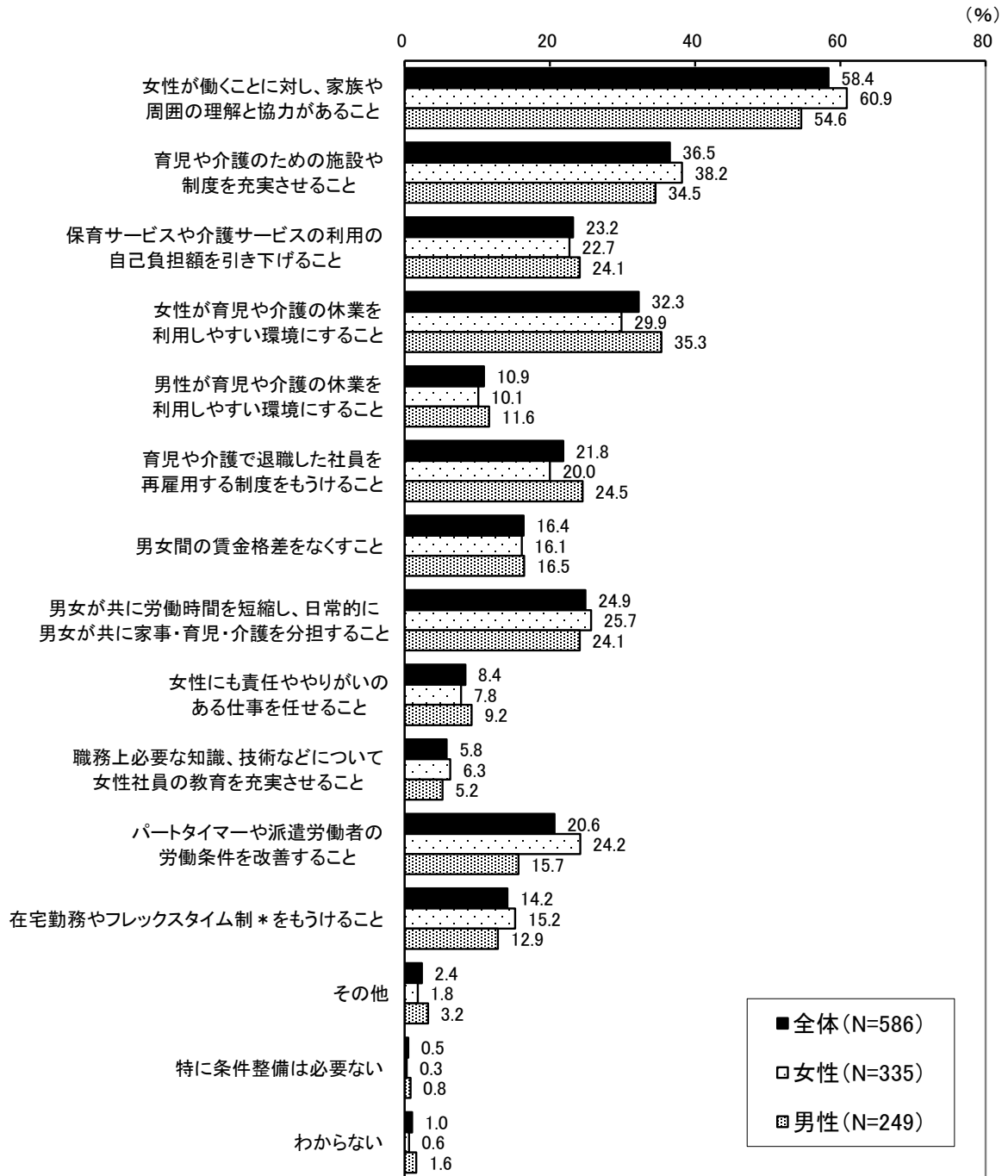
【全体】

「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が58.4%で最も多く、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実させること」が36.5%、「女性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること」が32.3%となっている。

【性別】

女性は「パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること」で8.5ポイント、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で6.3ポイント男性より高くなっている。一方男性は「女性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること」で5.4ポイント、「育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること」で4.5ポイント女性より高くなっている。

女性が仕事を続けていくために必要なこと【全体・性別】



問13 現状では、管理職（意思決定を行う専門的部門や指導的地位のことを言います。）につく女性が少ない状況にありますが、そのもっとも大きな理由としてどのようなものがあると思いますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

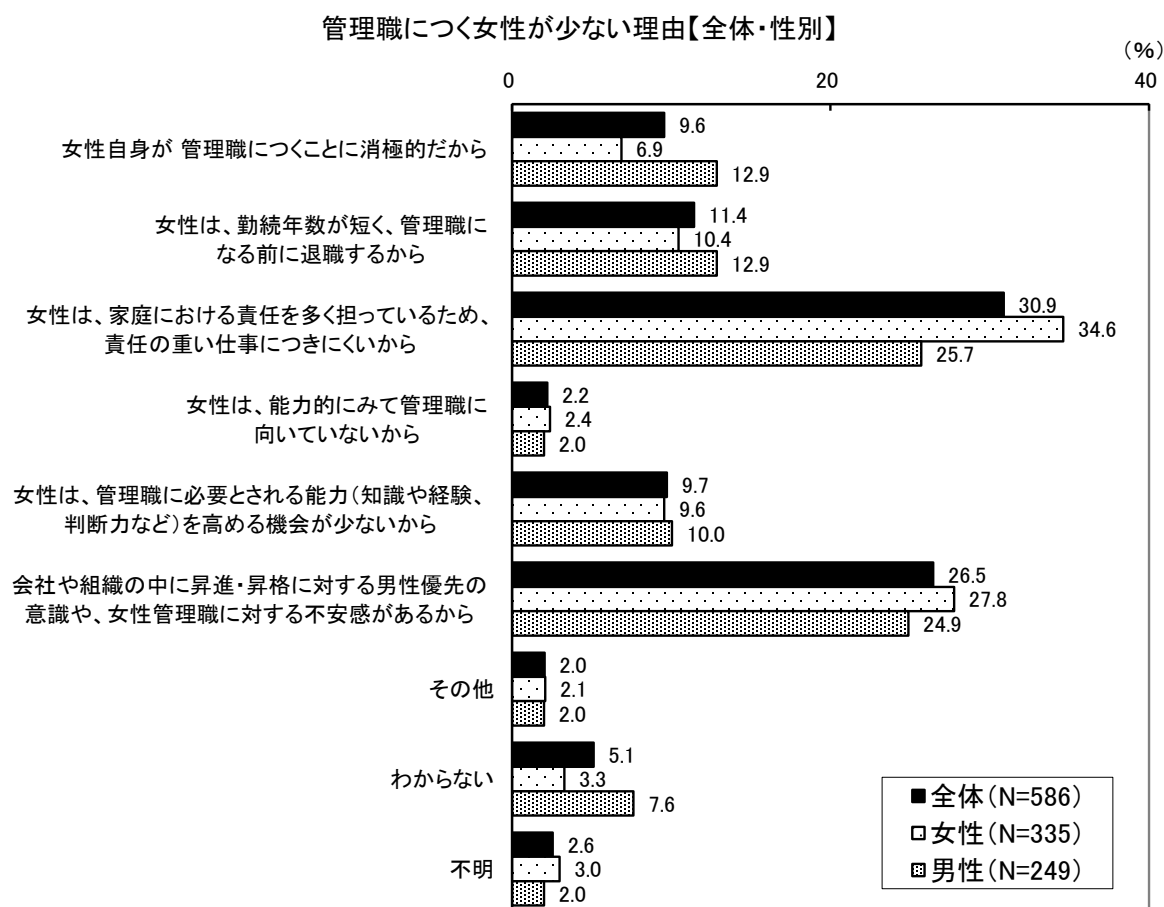
「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多く、次いで「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」となっている。

【全体】

「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」30.9%と、「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」26.5%が突出している。

【性別】

女性の場合、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」で8.9ポイント男性より高くなっている。一方男性は「女性自身が管理職につくことに消極的だから」で6ポイント女性より高くなっている。



(3) 共働きの状況

結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問14 あなたの家庭は共働きをしていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

全体数 = 454

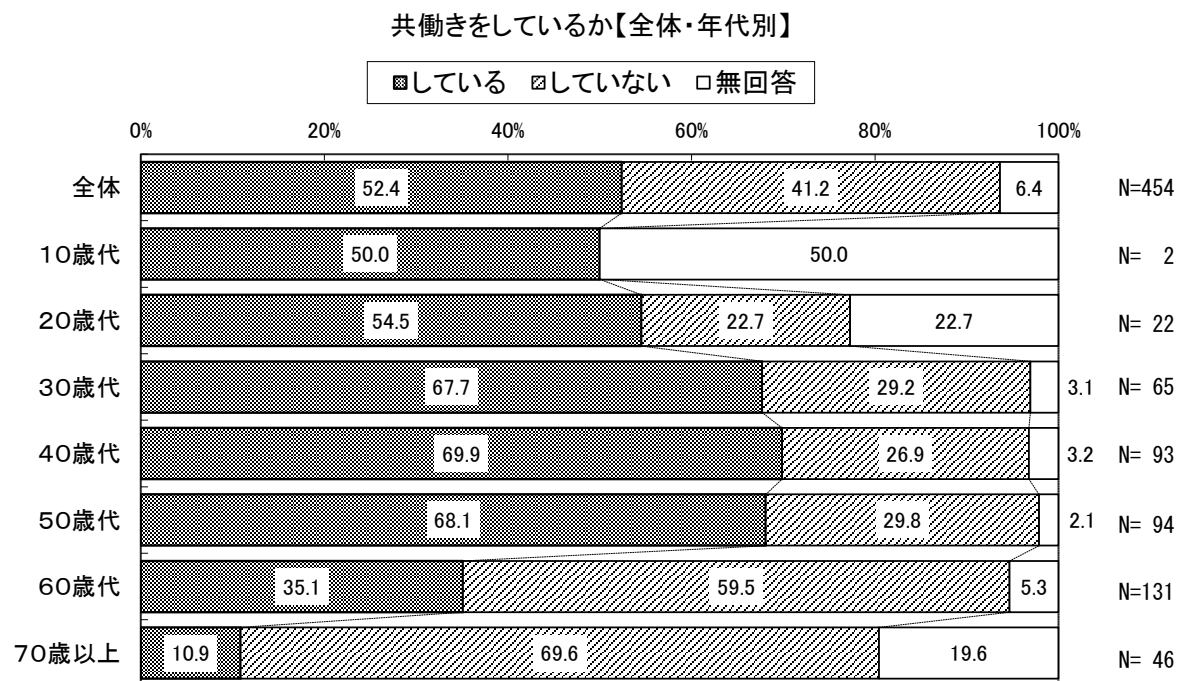
前回調査より「共働きしている」が増えている。特に20歳代、30歳代で増加している。

【全体】

「している」が52.4%、「していない」が41.2%となっている。

【年代別】

「している」が10歳代、20歳代で約5割、30歳代、40歳代、50歳代で7割近くを占めている。



（４）家事などにおける役割分担や費やす時間の状況

①家事分担の状況

結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問15 あなたの家庭では、次のようなことを、主にだれが分担していますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

全体数 = 454

「生活費をかせぐ」や「自治会等への地域活動への参加」は「主に夫」という回答が最も多く、他の9項目では「主に妻」が最も多い。

【全体】

「食事のしたく」や「洗濯」については、「主に妻」という回答が8割あまりを占め、「夫と妻の共同で」が10%程度で、「主に夫」という回答は1%強となっている。

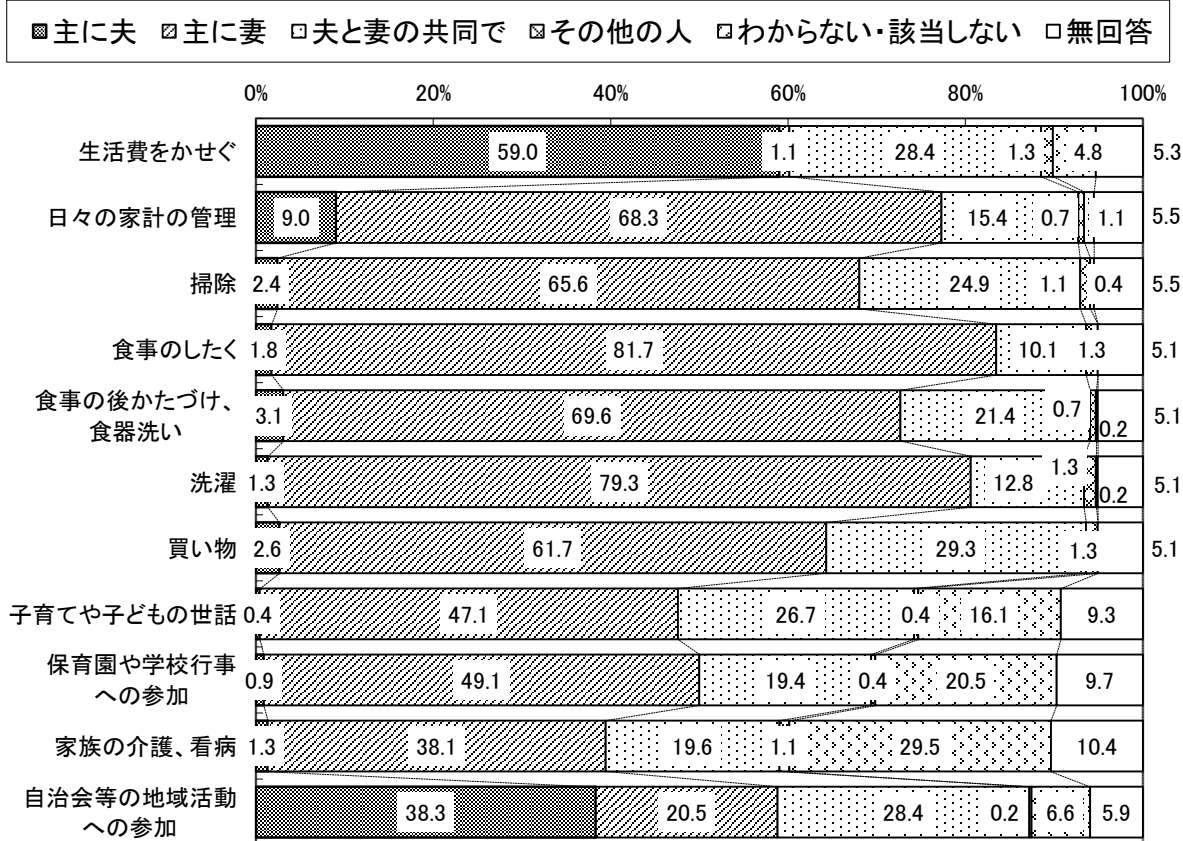
「日々の家計の管理」や「掃除」、「食後の後かたづけ、食器洗い」「買い物」については、「主に妻」という回答が6割～7割で、その内「夫婦で共同」が「買い物」で約3割、「掃除」、「食後の後かたづけ、食器洗い」で2割強、「日々の家計の管理」で1割五分となっている。

また、「子育てや子どもの世話」「保育園や学校行事への参加」については「主に妻」が5割弱、「夫と妻の共同で」という回答が2割前後となっている。

「生活費をかせぐ」では「主に夫」が約6割と最も多く、「主に妻」は1.1%にとどまり、「夫と妻の共同で」が3割弱となっている。

「自治会等の地域活動への参加」については、「主に夫」が4割近い。

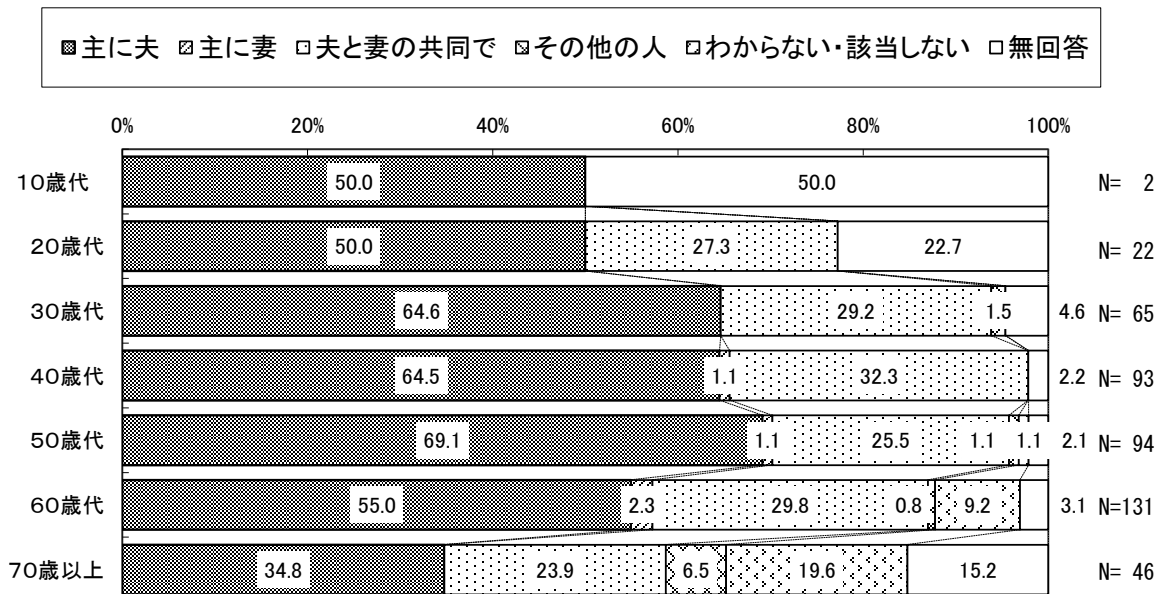
家事の分担【全体】



【年代別】

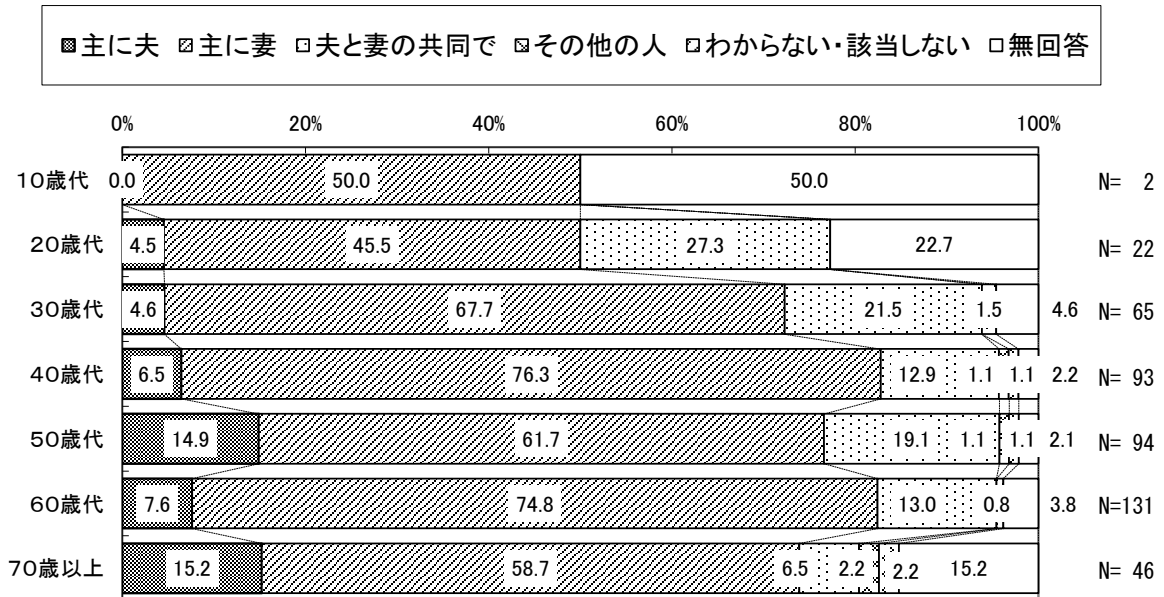
「生活費をかせぐ」について、「夫と妻の共同で」は 30 歳代、40 歳代および 60 歳代で全体平均より高くなっている。

生活費をかせぐ【年代別】



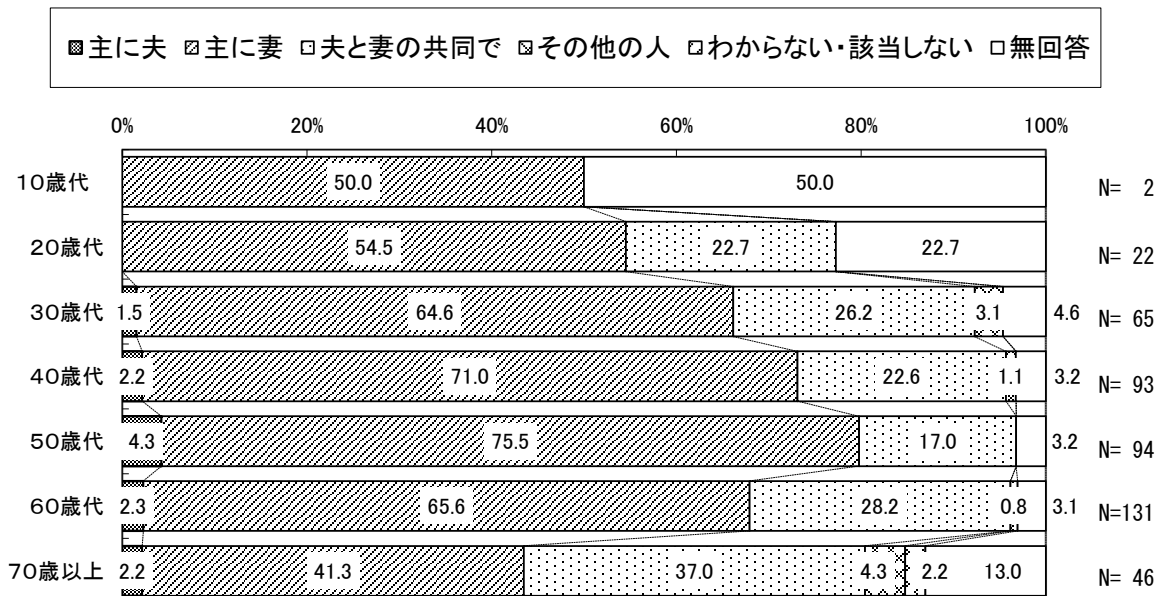
「日々の家計の管理」について、「夫と妻の共同で」は特に 20 歳代、30 歳代で全体平均より高くなっている。

日々の家計の管理【年代別】



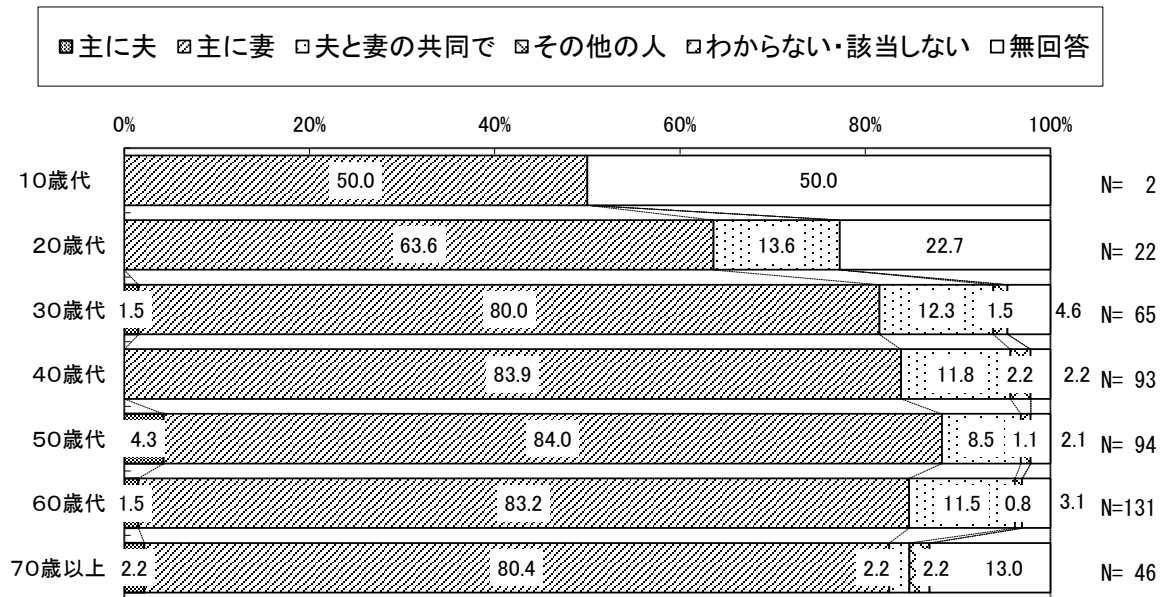
「掃除」について、「夫と妻の共同で」は 20 歳代から 50 歳代まで 2 割前後となっているが、「主に妻」は年代ごとに増えていっている。

掃除【年代別】

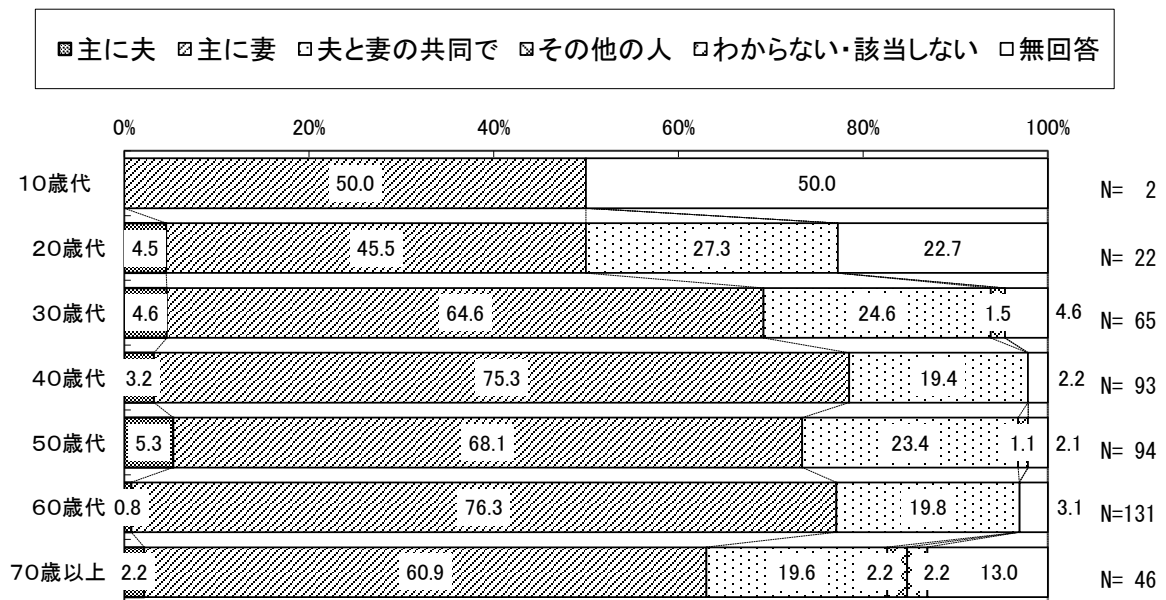


「主に妻」という回答が特に多かった「食事のしたく」について、年代別にみると30歳代以上の年代で「主に妻」が8割を超えている。

食事のしたく【年代別】

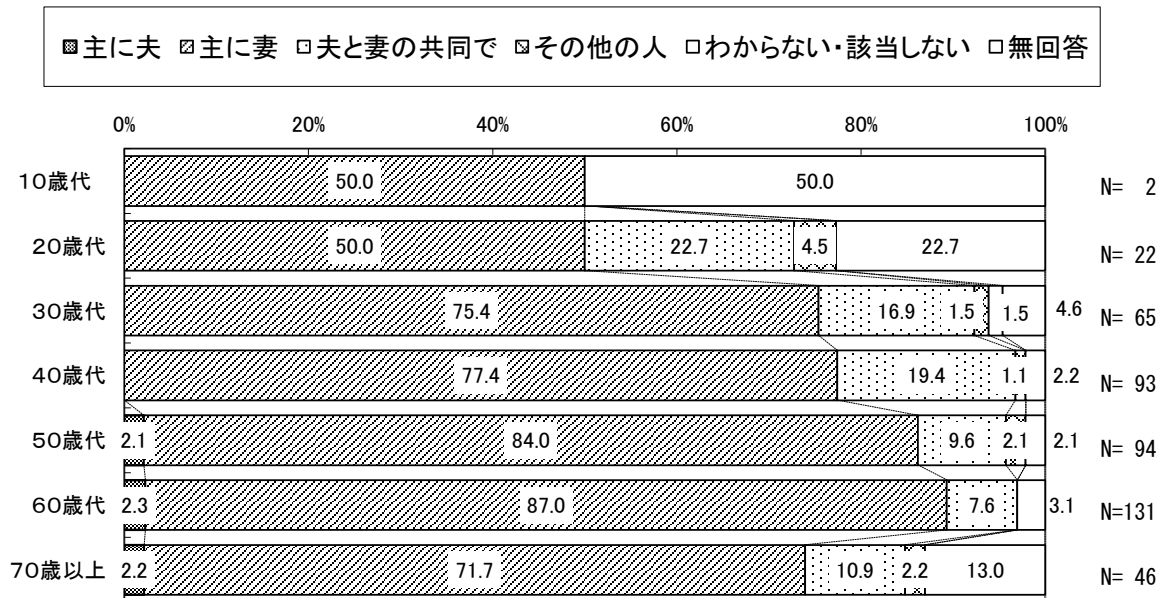


食後のあとかたづけ、食器洗い【年代別】



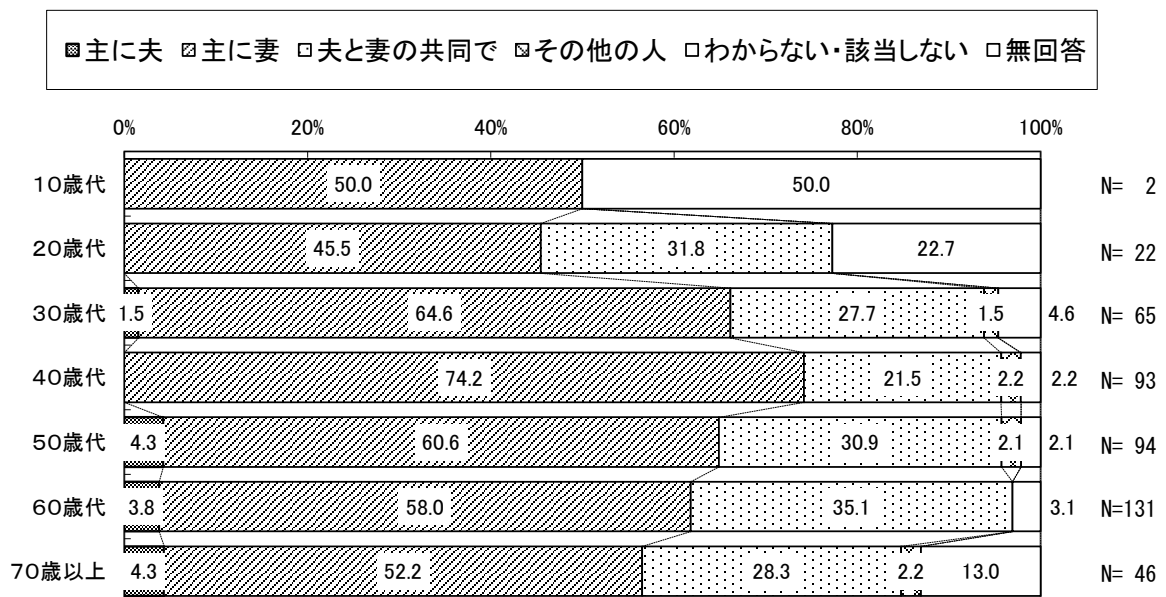
同じく「主に妻」という回答が特に多かった「洗濯」でも、30 歳代以上の年代で「主に妻」が7割以上となっている。

洗濯【年代別】



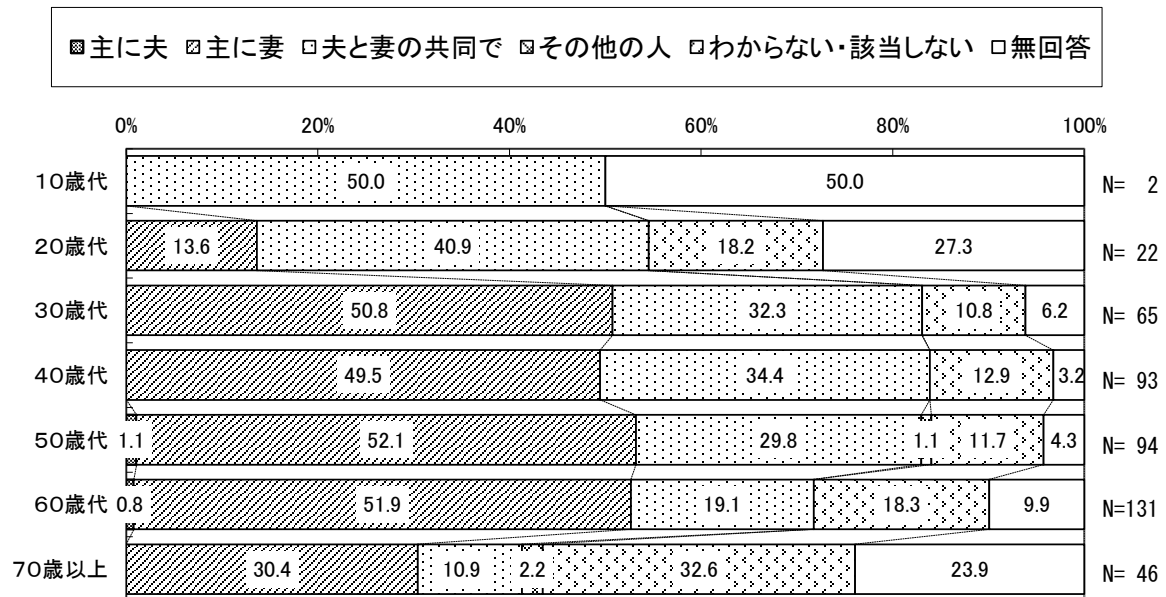
「買い物」は10 歳代を除き、「夫と妻の共同で」という回答が2～3 割となっている。

買い物【年代別】



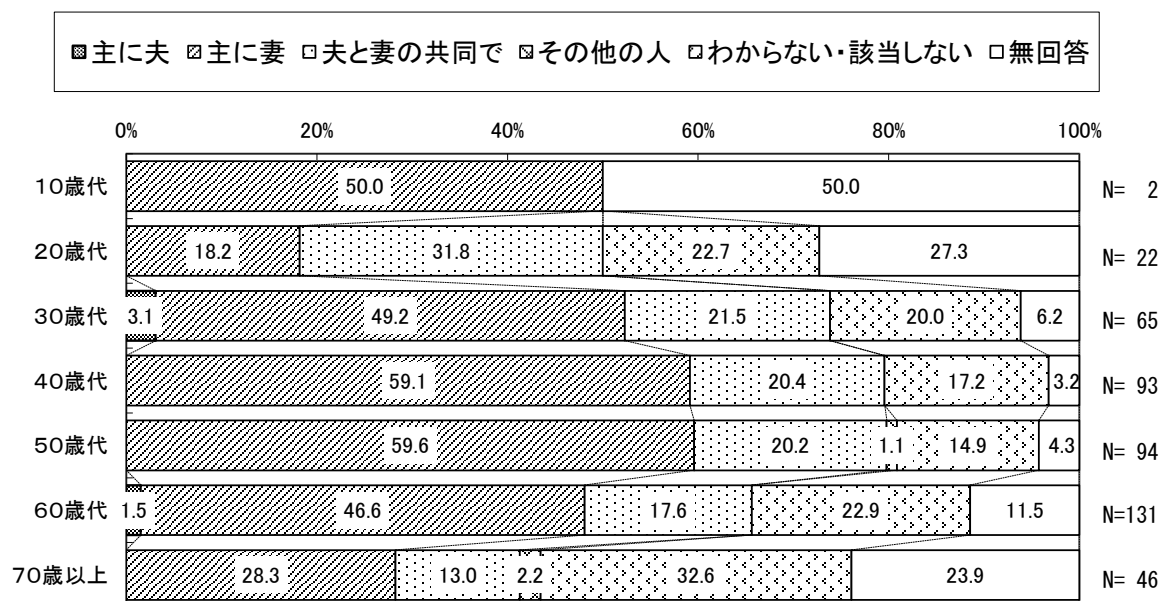
「子育てや子どもの世話」について、「夫と妻の共同で」は特に 20 歳代～40 歳代で高くなっている。

子育てや子どもの世話【年代別】

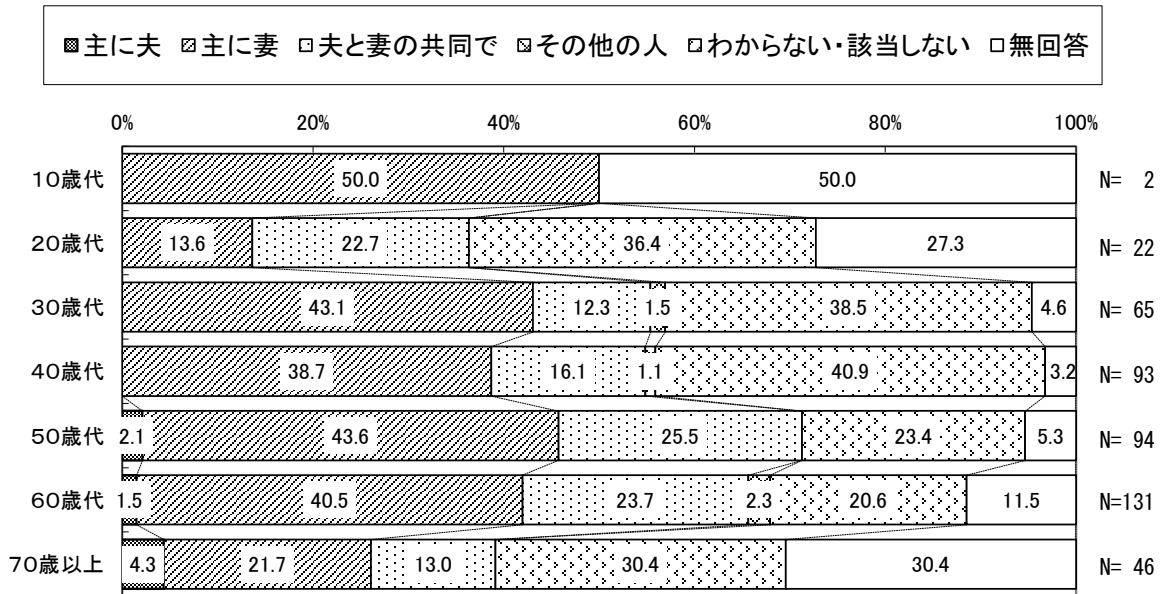


「保育園や学校行事への参加」について、「夫と妻の共同で」は特に 20 歳代で高く 3 割を占めている。

保育園や学校行事への参加【年代別】

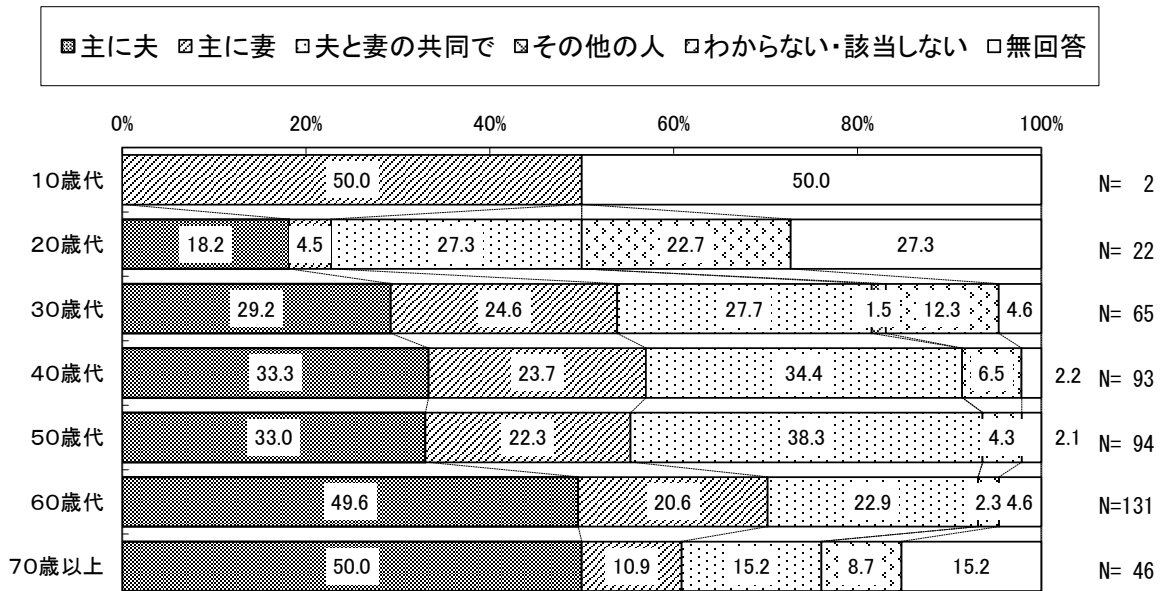


家族の介護、看病【年代別】



「主に夫」という回答が多かった「自治会等地域活動への参加」について、年代を追うごとに「主に夫」の割合が増える傾向にある。

自治会等地域活動への参加【年代別】



結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問16 家庭内における次のようなことを、男性、女性はどのような関わり方がよいと思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

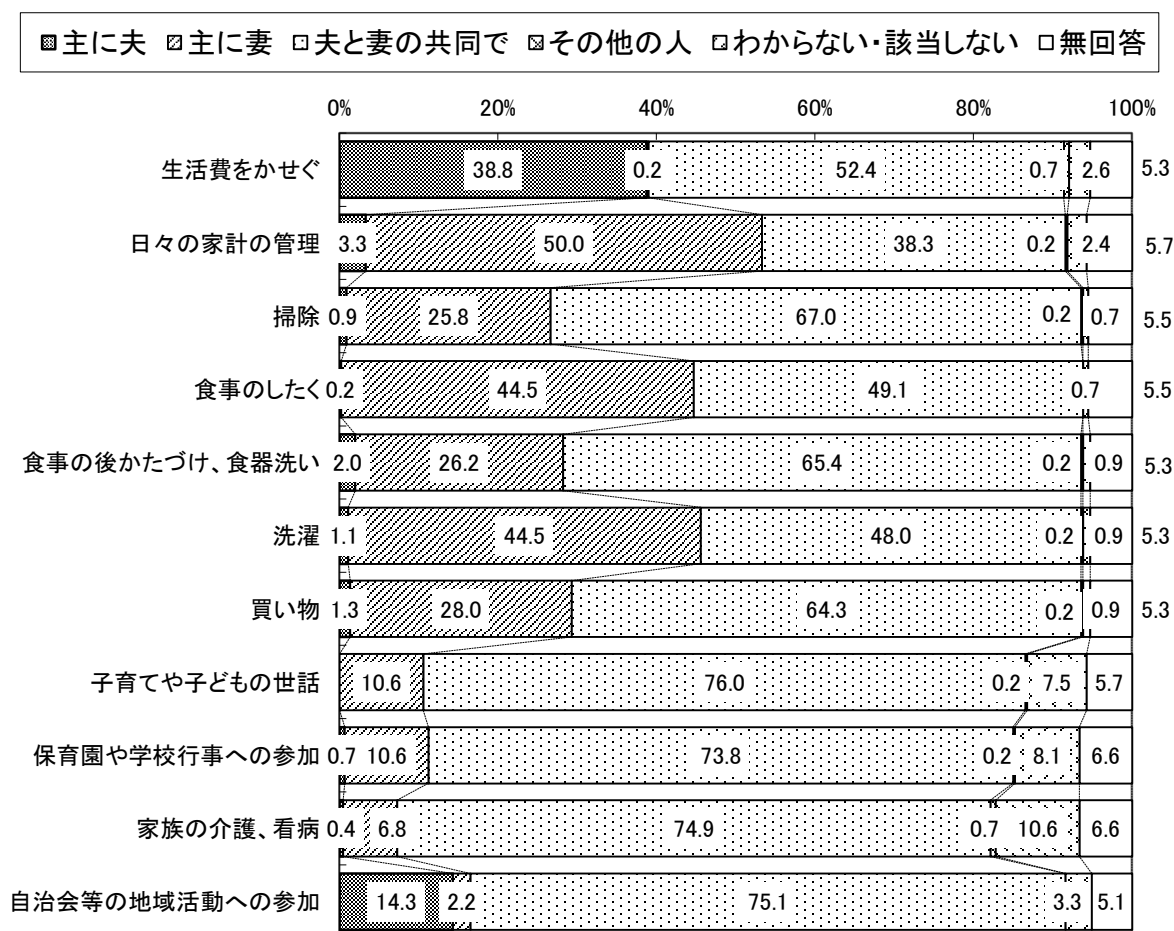
全体数 = 454

「どのような関わり方がよいか」については、「家計の管理」を除く全ての項目で「夫と妻の共同で」が最も多く、現実とのギャップが大きい。

【全体】

「家計の管理」を除くすべての項目で「夫と妻の共同で」が最も多く、特に「子育てや子どもの世話」「保育園や学校行事への参加」「家族の介護、看病」「自治会等の地域活動への参加」では7割以上、「掃除」「食事の後かたづけ、食器洗い」「買い物」では6割以上を占めている。

よいと思う家事の分担【全体】



②家事などに費やしている時間

結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問17 あなたが1日の中で家事や育児、仕事に費やす時間はどれくらいですか。数字でお書きください。

家事 = 454

育児 = 454

介護 = 454

仕事 = 454

男性の場合、家事の1時間未満と0時間を含わせて5割、育児の0時間が3割強、介護の0時間が5割弱を占めている。
女性の場合、仕事の4～8時間が3割を占めている。

ア. 家事

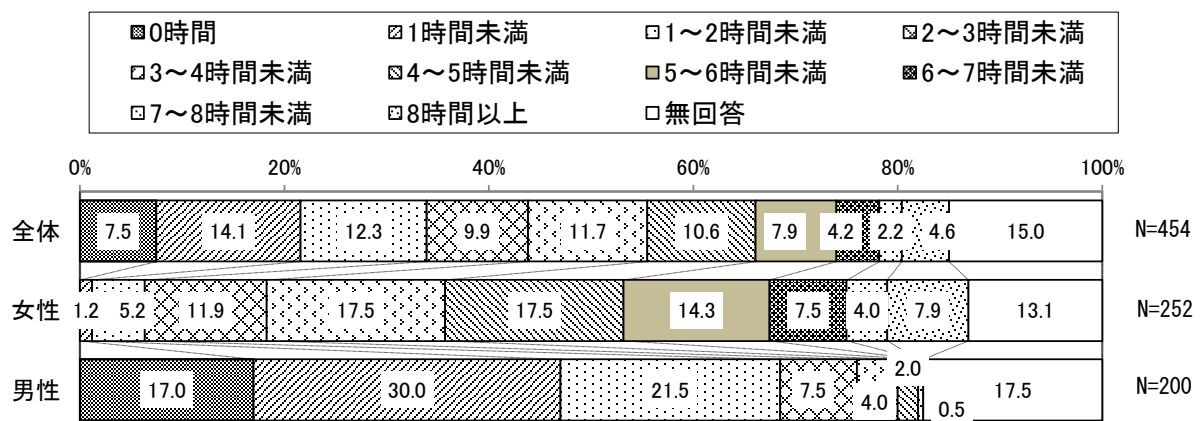
【全体】

家事では、「1時間未満」が14.1%で回答率が最も高く、次いで「1～2時間未満」が12.3%、「3～4時間未満」が11.7%となっている。

【性別】

女性では「3～4時間未満」と「4～5時間未満」が17.5%で回答率が最も高く、次いで「5～6時間未満」が14.3%となっている。一方、男性では1時間未満が30.0%で回答率が最も高く、次いで「1～2時間未満」が21.5%となっている。

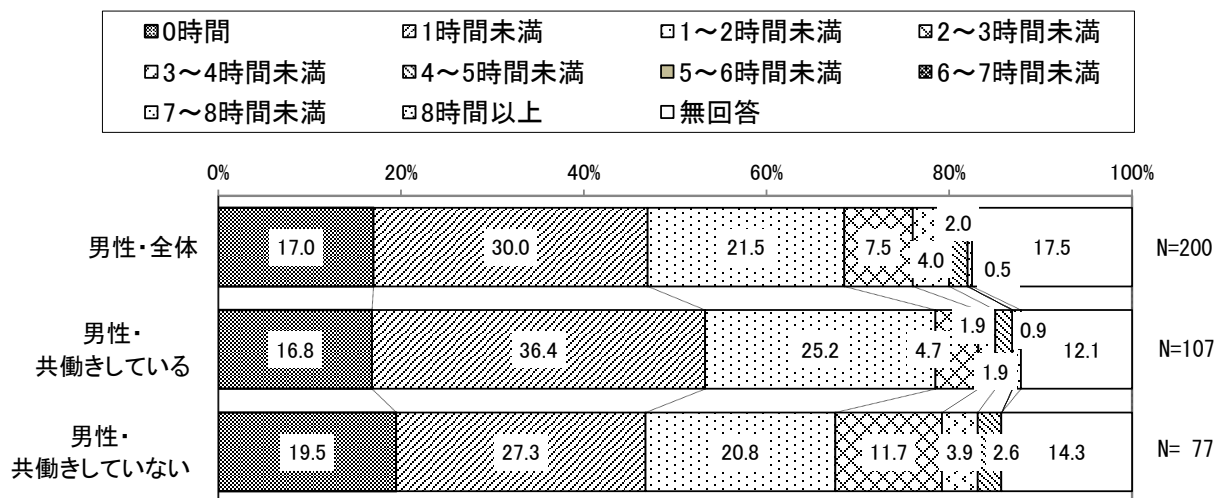
家事【全体・性別】



【男性の共働きの有無別】

共働きしている場合、共働きしていない場合より家事に費やす時間「0 時間」が 2.7 ポイント少なくなっている。

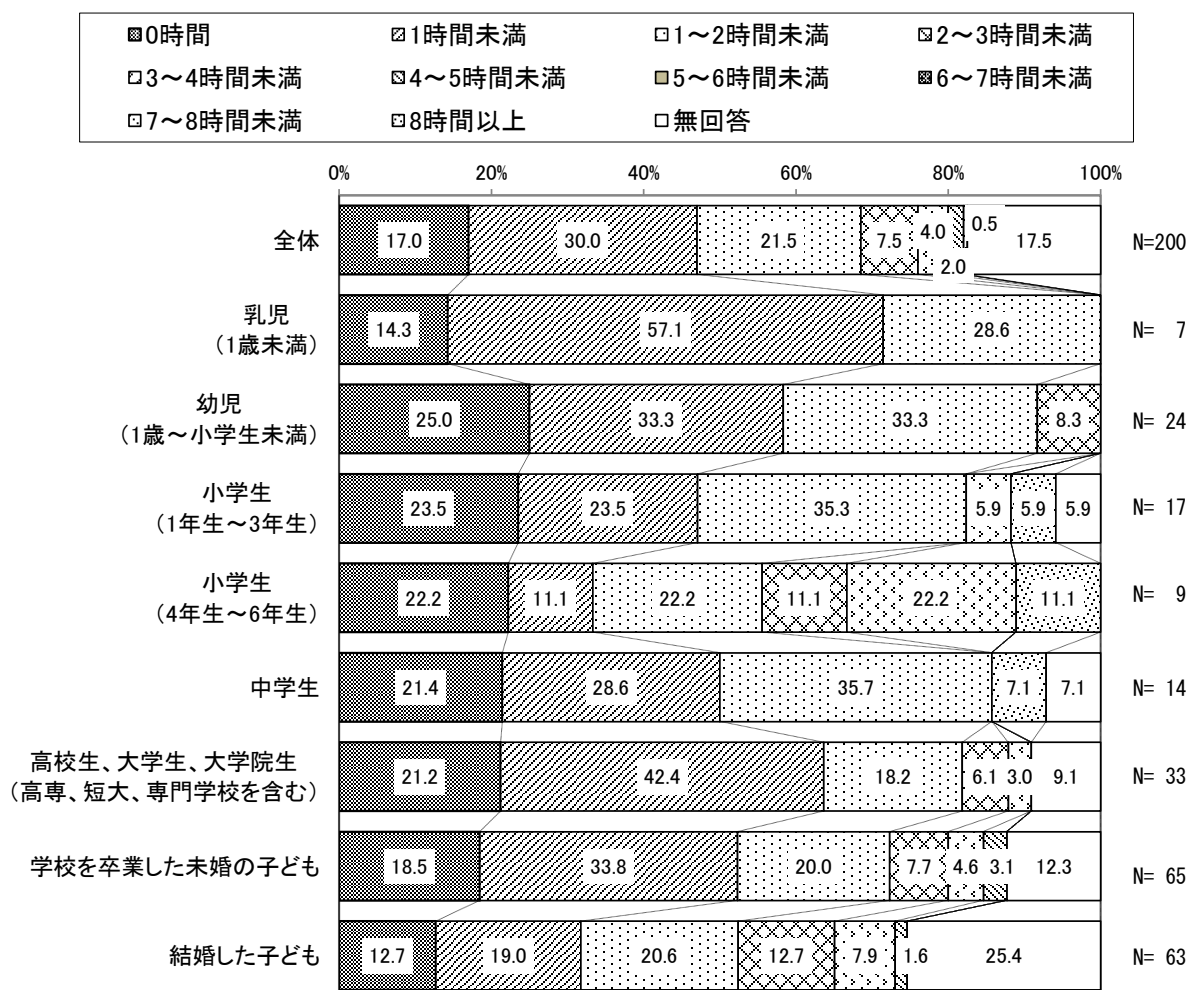
家事【男性・共働き】



【男性の子どもの有無と年代別】

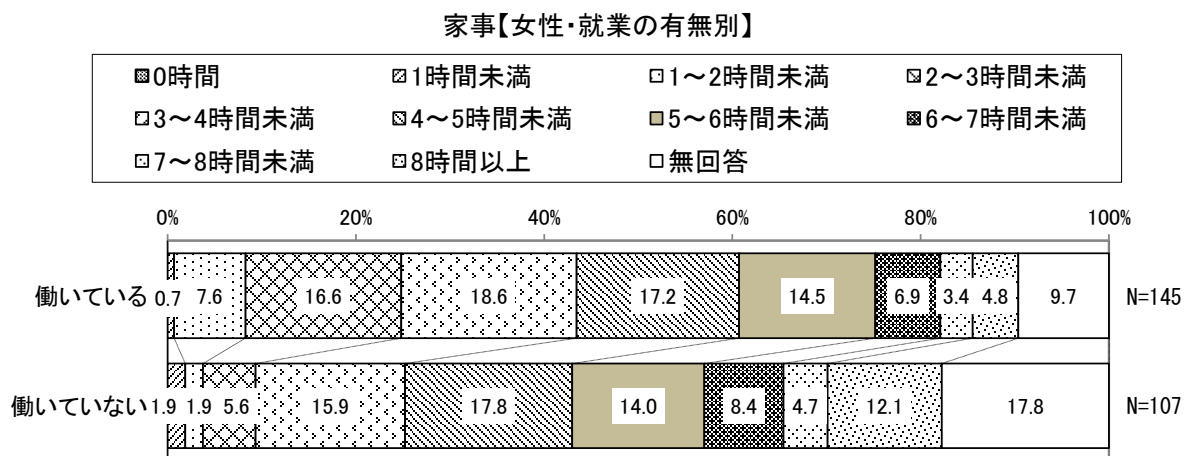
乳児の場合、0 時間は全体平均より少なく 2 時間未満携わっている人の割合が高い。

家事【男性・子どもの有無と年代別】



【女性の就業の有無別】

女性の場合、働いているいないに関わらず2時間から6時間未満の家事に携わっている人が多く分布している。

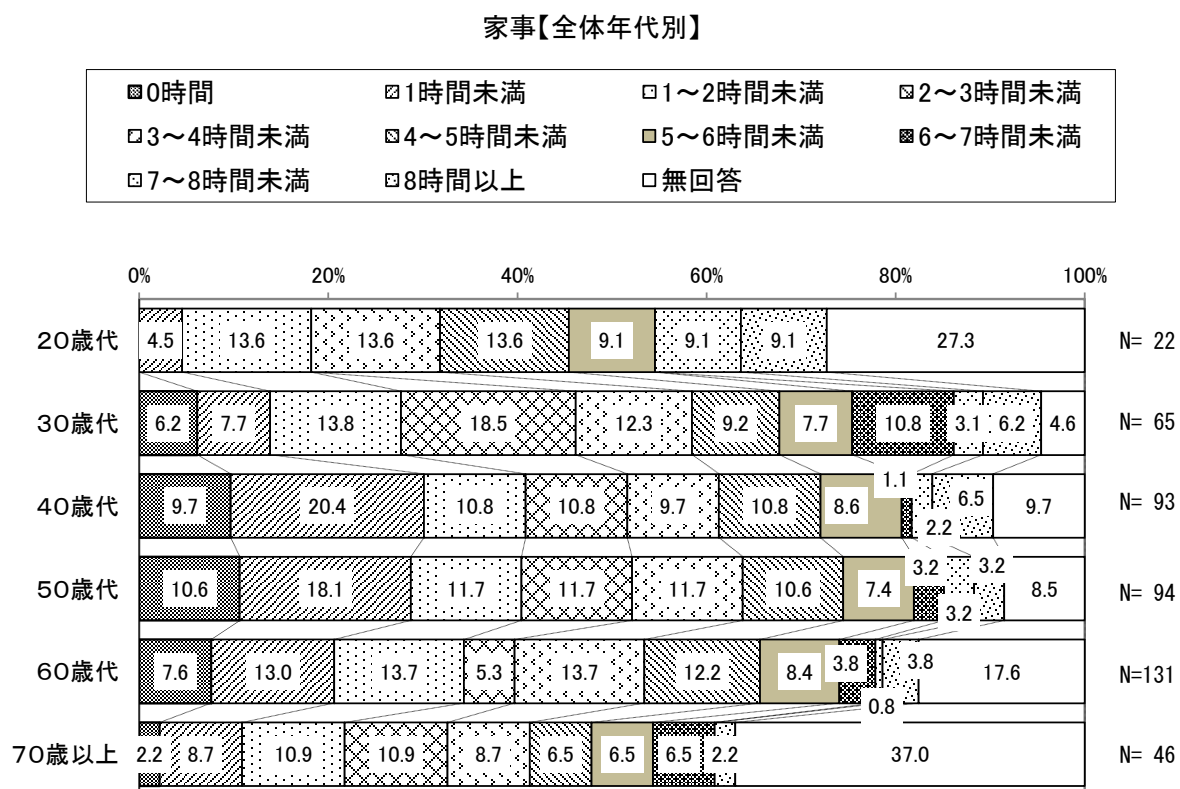


【年代別】

40歳代では「1時間未満」が最も多く20.4%、50歳代でも「1時間未満」が最も多く18.1%となっている。

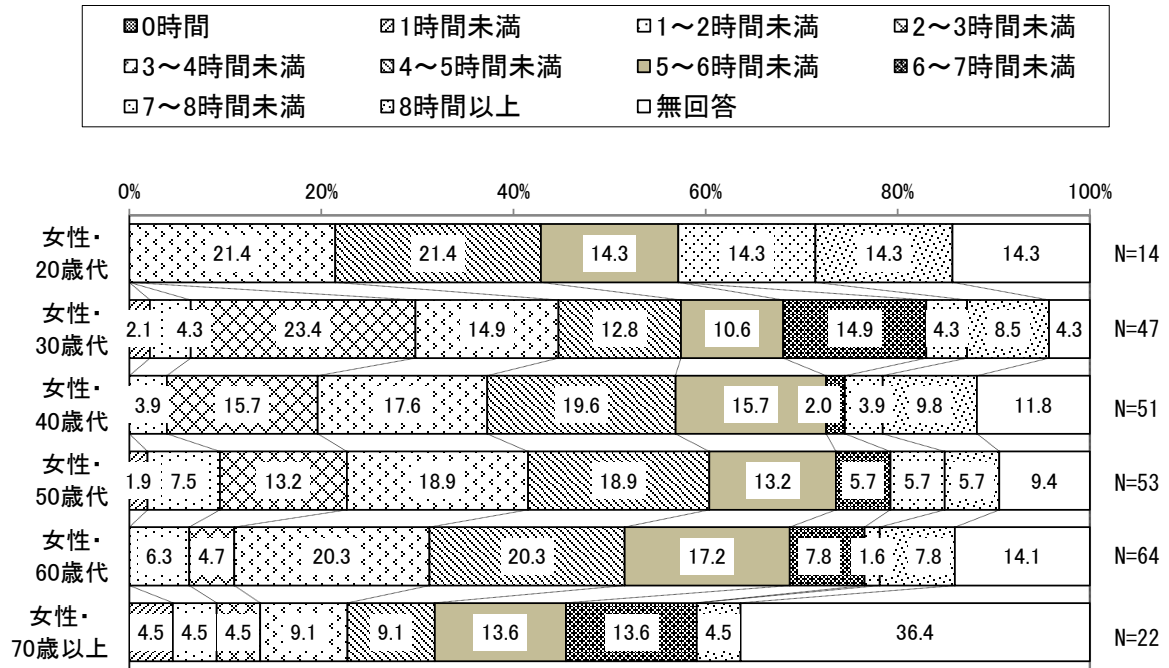
女性の場合「1時間未満」は少なく、30歳代では「2～3時間未満」が23.4%と最も多い。

男性の場合、特に40歳代～50歳代では「0時間」と「1時間未満」を合わせると6割強を占めている。

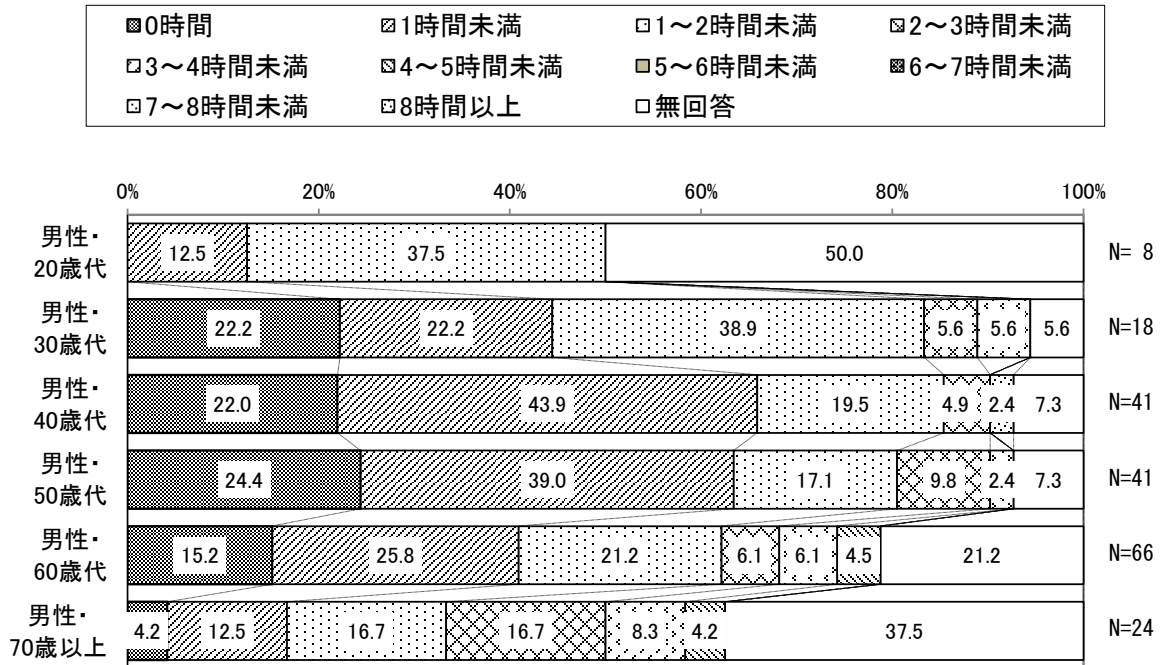


※10歳代の回答者はいなかった。(以下、同じ)

家事【女性年代別】



家事【男性年代別】



イ. 育児

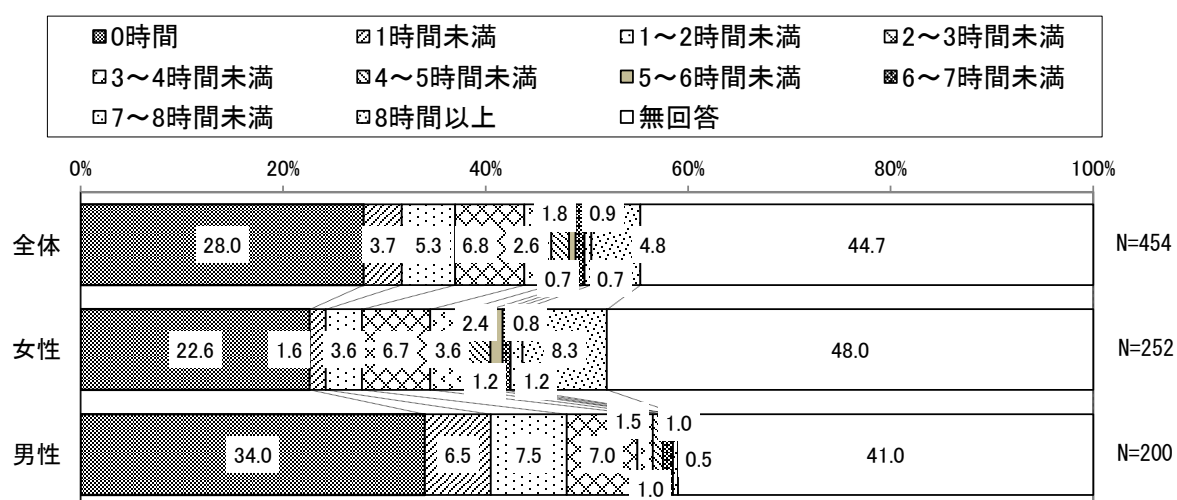
【全体】

「0 時間」を除くと「2～3 時間以上」が 6.8%で回答率が最も高く、次いで「1～2 時間未満」が 5.3%、「8 時間以上」が 4.8%となっている。

【性別】

「0 時間」を除くと女性では「8 時間以上」が 8.3%で回答率が最も高く、男性は「1～2 時間未満」が 7.5%で回答率が最も高くなっている。

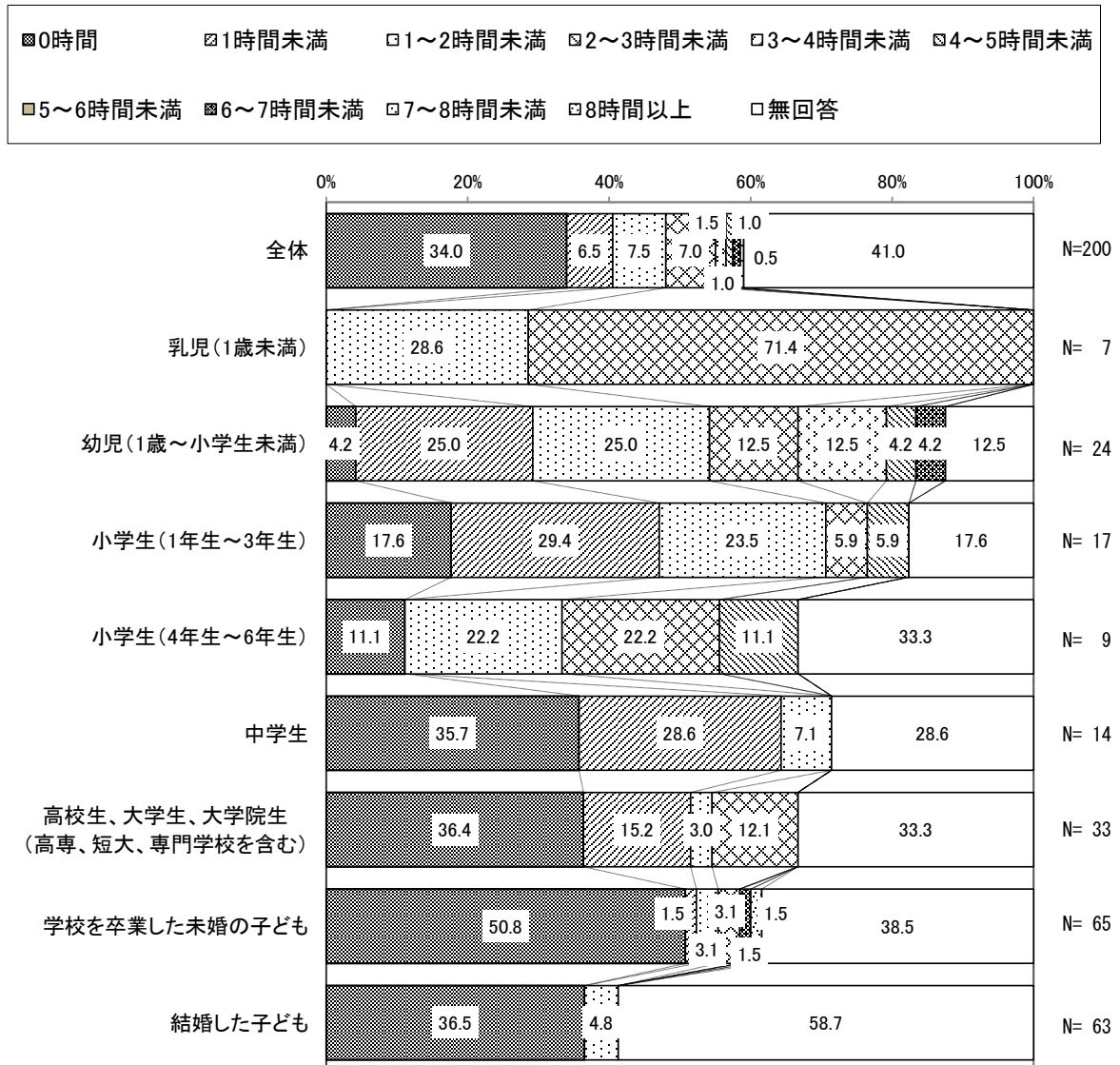
育児【全体・性別】



【男性の子どもの有無と年代別】

乳児、幼児のいる男性の場合、0時間の割合が少なく乳児の場合は全員が1～3時間未満携っており、幼児の場合は4時間未満までの幅で分布している。

育児【男性・子どもの有無と年代別】

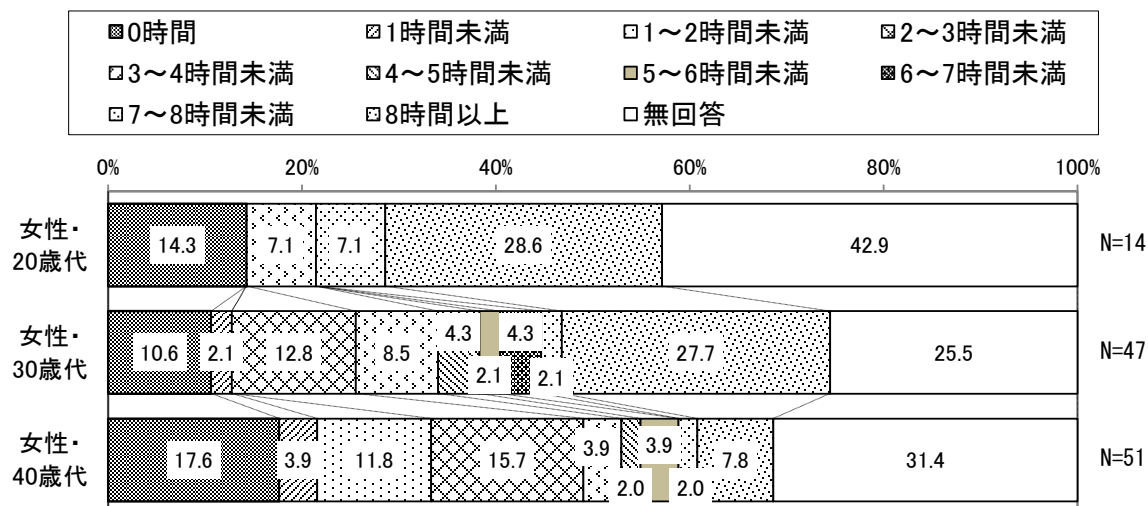


【年代別】

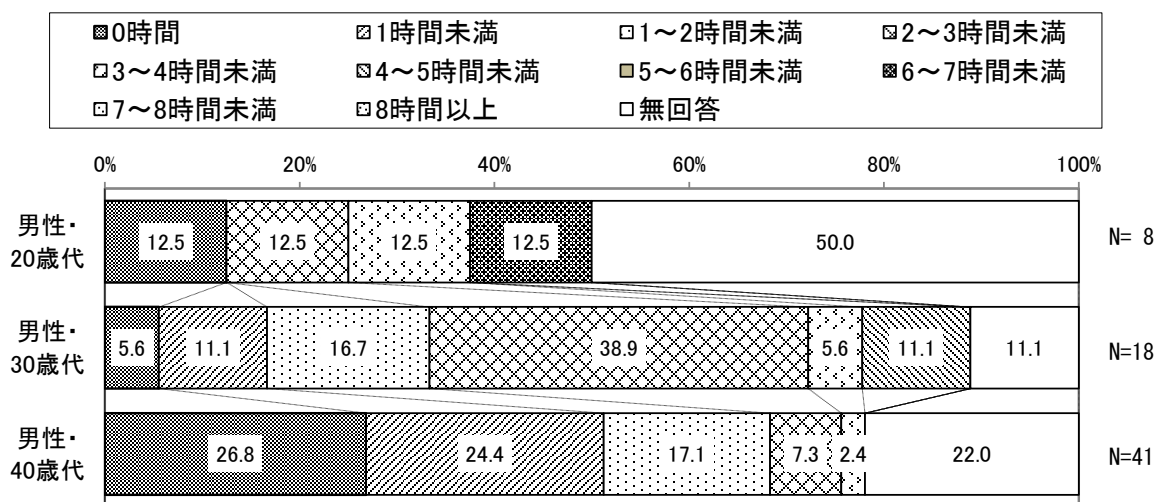
女性の場合、「8時間以上」が20歳代で28.6%、30歳代で27.7%と多いが、40歳代になると急激に減少している。

男性の場合、30歳代の「1時間未満」から「4～5時間未満」までを合わせると83.4%となり、他の年代より育児時間が多くなっている。

育児【女性年代別】



育児【男性年代別】



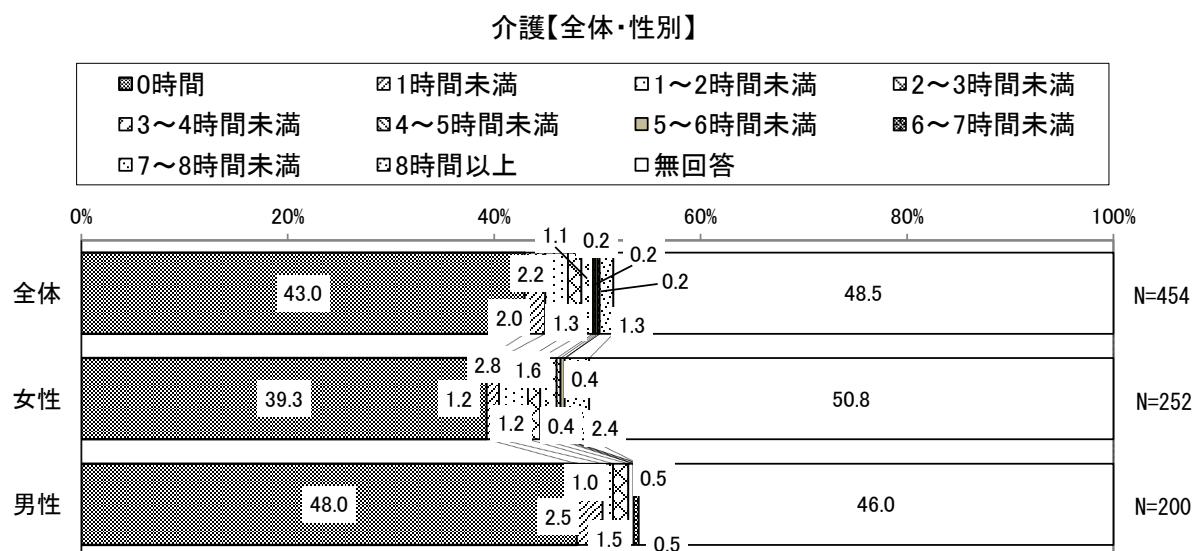
ウ. 介護

【全体】

介護に時間を費やしている人の中では「1～2 時間未満」が 2.2%で回答率が最も高く、次いで「1 時間未満」が 2.0%、「2～3 時間未満」「8 時間以上」が 1.3%となっている。

【性別】

介護に時間を費やしている人の中では、女性では「1～2 時間未満」が 2.8%で回答率が最も高く、男性では「1 時間未満」が 2.5%で回答率が最も高くなっている。



【女性の就業の有無別】

「働いていない」人の場合、「0 時間」が 28.0%だが「働いている」人の場合 47.6%を占めており、何らかの介護サービスを利用していると思われる。

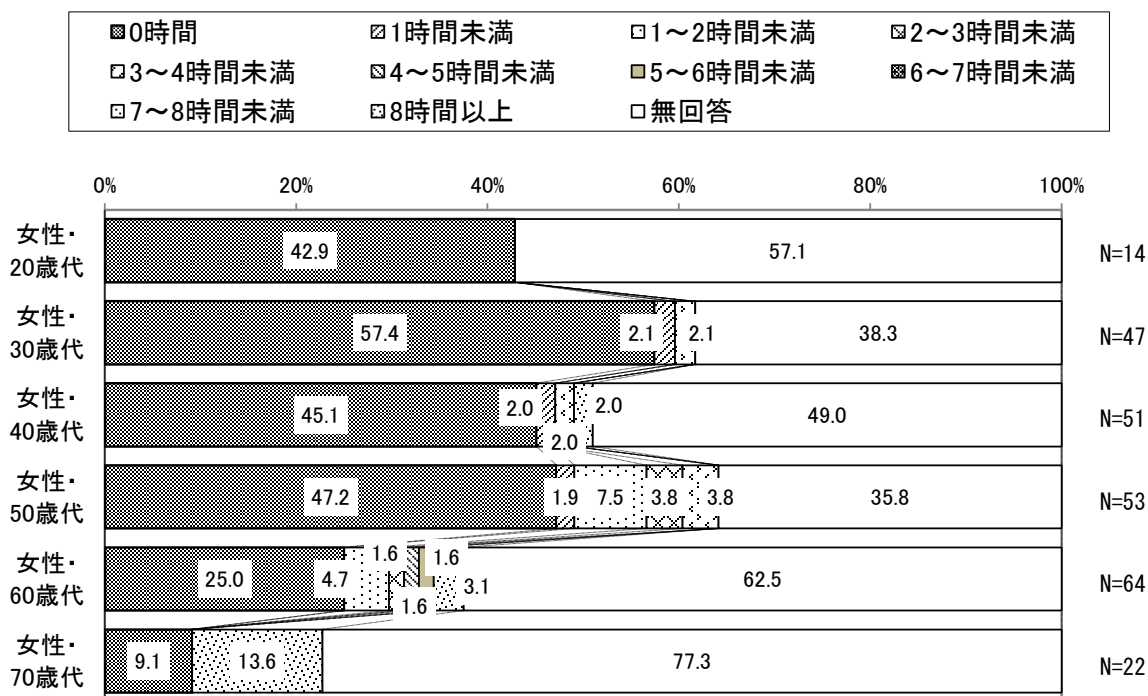
【女性の子どもの有無・年代別】

「乳児（1 歳未満）」や「幼児（1 歳～小学生未満）」がいる子育て期の女性の場合、介護に費やす時間は 0 時間の人がほとんどを占めている。なお、「幼児（1 歳～小学生未満）」の場合、3～4 時間未満が 1 人(2.6%)、「小学生（1 年生～3 年生）」の場合、1 時間未満が 1 人(3.4%)いる。

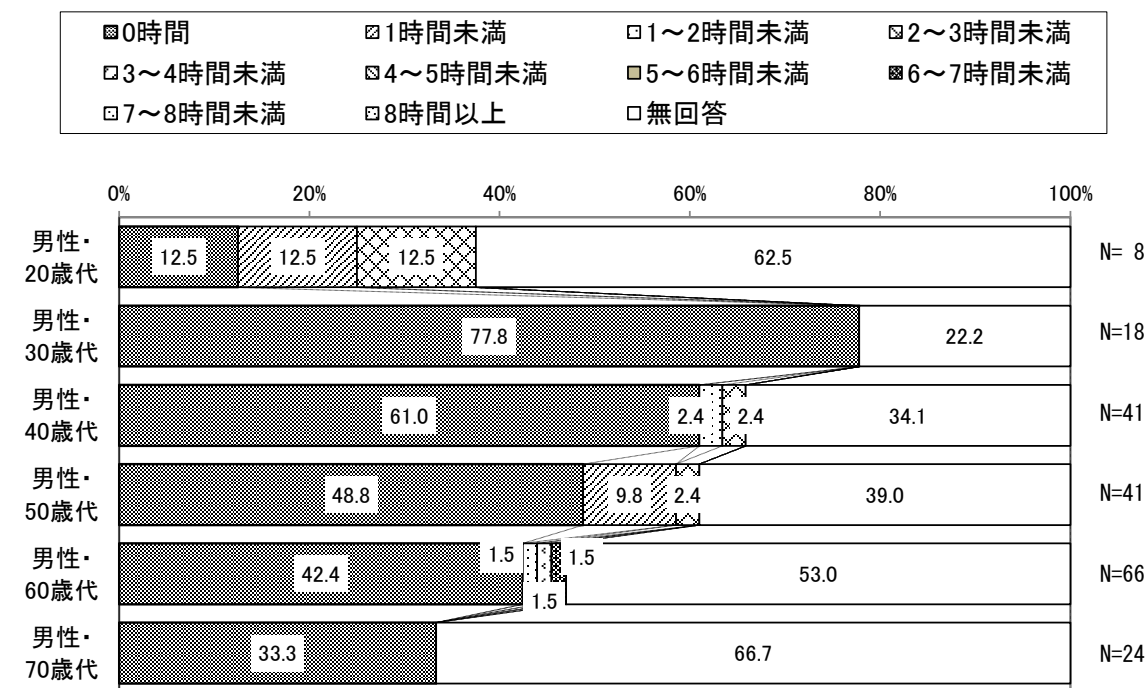
【年代別】

女性の場合、70 歳代では「0 時間」と「無回答」を除いて、介護に時間を費やしている人の全てが「8 時間以上」となっている。

介護【女性年代別】



介護【男性年代別】



エ. 仕事

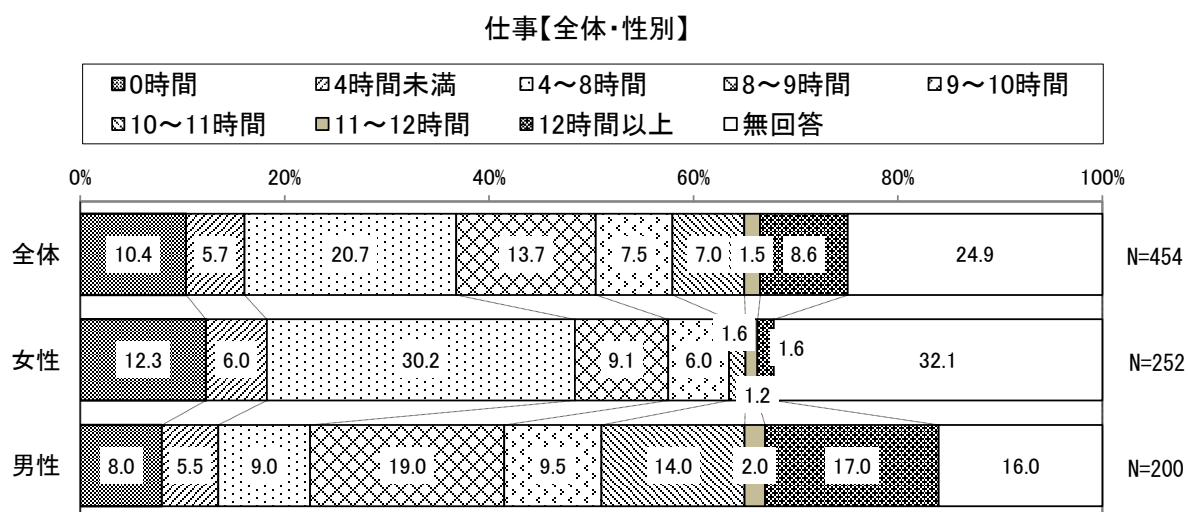
【全体】

「4～8 時間」が 20.7%、「8～9 時間」が 13.7%と多いが、9 時間以上の人が、24.6%おり、「12 時間以上」も 8.6%となっている。

【性別】

女性では「4～8 時間」が 30.2%で回答率が最も高く、男性では「8～9 時間」が 19.0%で回答率が最も高い。

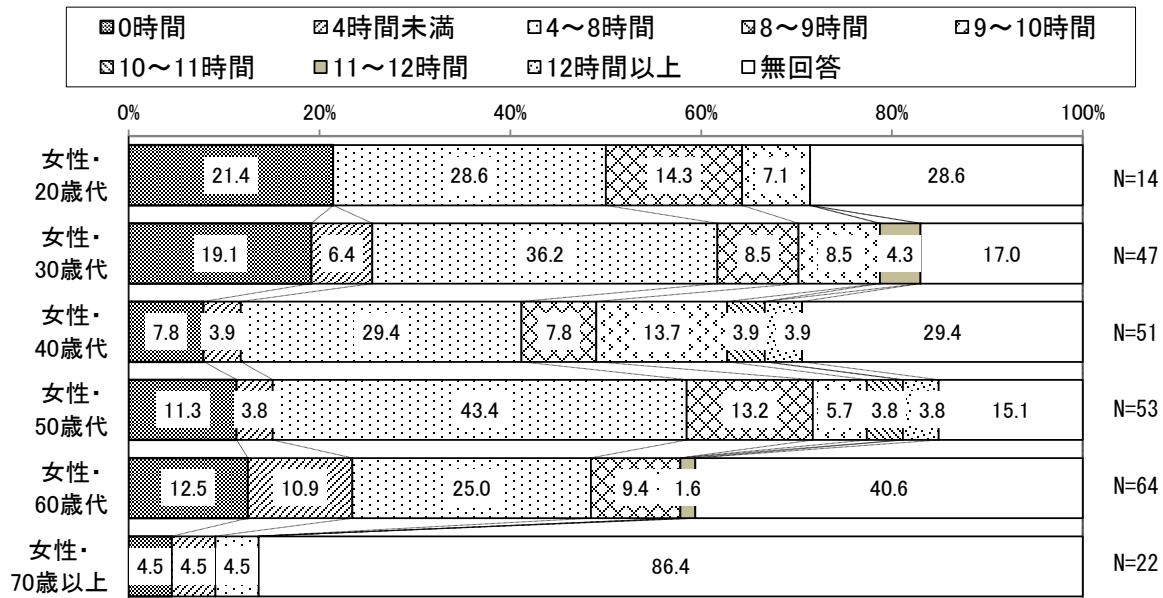
男性では 9 時間以上が 4 割強を占め、中でも「12 時間以上」が 17.0%を占めている。



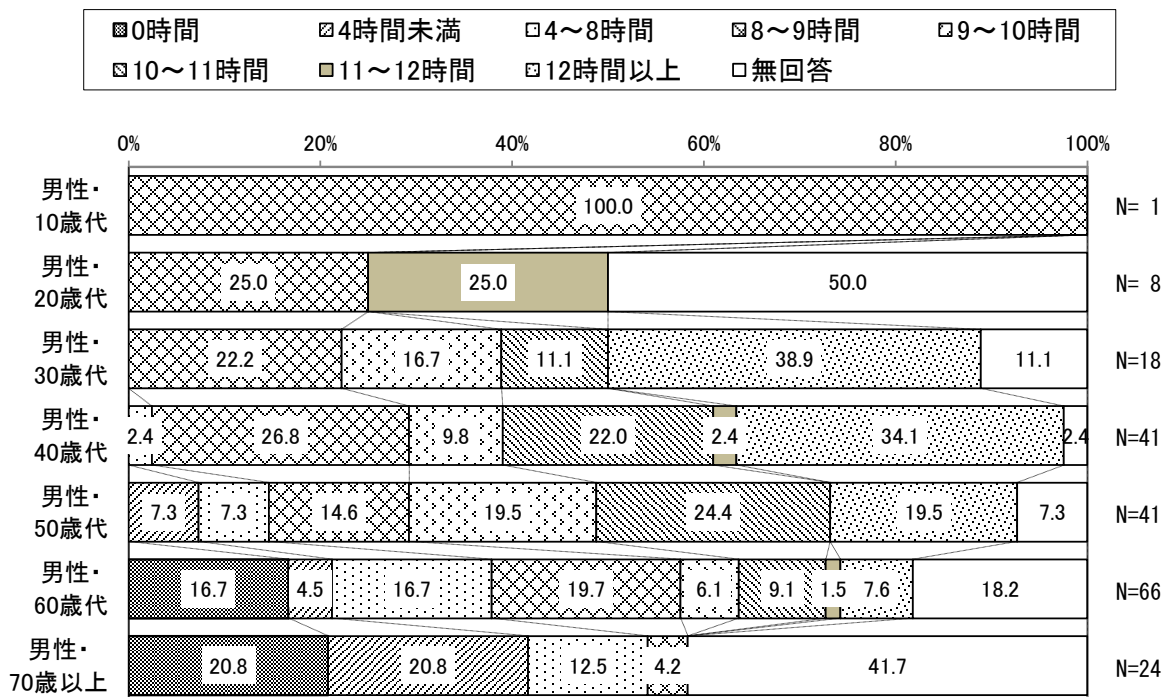
【年代別】

女性の場合、20歳代～60歳代では8時間までの割合が約5割前後を占めているが、男性の場合10歳～40歳代では8時間以上の人ほとんどを占めている。

仕事【女性年代別】



仕事【男性年代別】

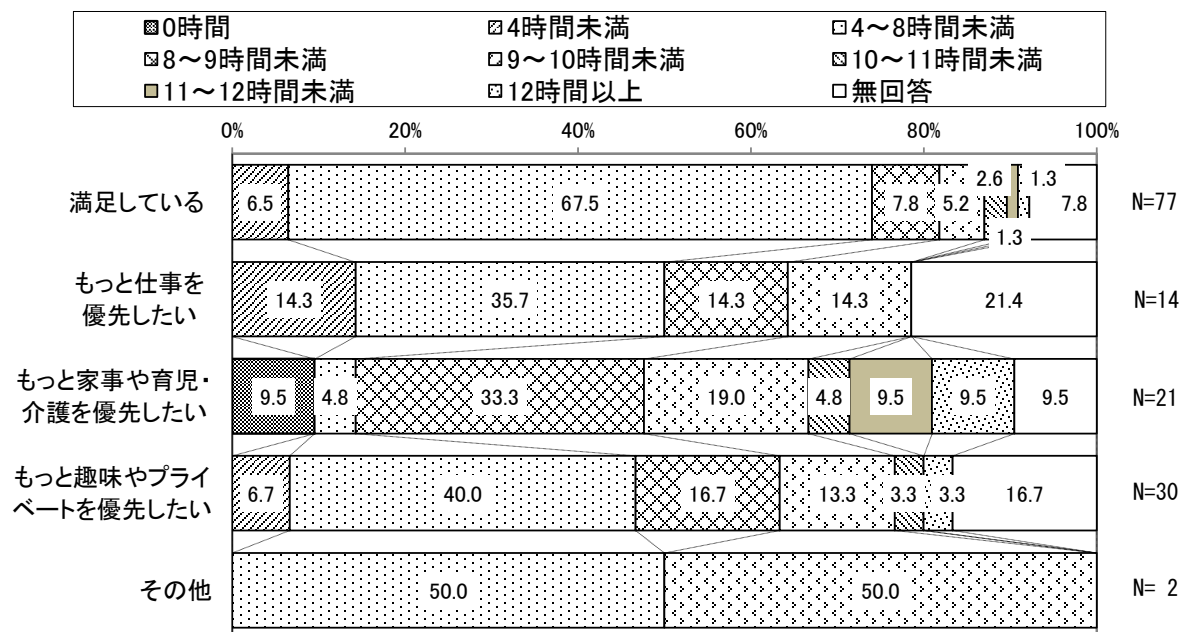


【ワーク・ライフ・バランスの満足度別】

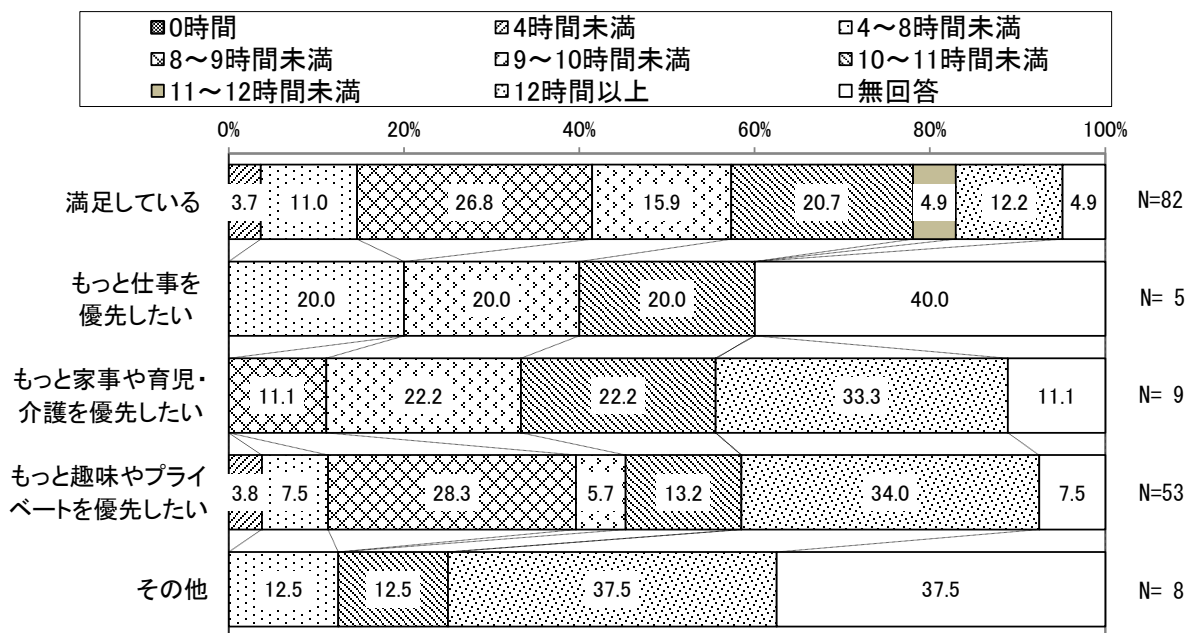
女性の場合満足している人は、4～8 時間未満が多い。「もっと家事や育児・介護を優先」したいと思っている人では8 時間以上が多い。

男性の場合満足している人でも8 時間以上が8 割を占めているが、その内訳としては「8～9 時間未満」「10～11 時間未満」「12 時間以上」という人も含まれている。

仕事【女性・ワーク・ライフ・バランスの満足度別】



仕事【男性・ワーク・ライフ・バランスの満足度別】



③男性がより参加していくために

結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問18 あなたは、今後男性が女性と共に家事、子育て、介護等の家庭生活により積極的に参加していくためには、どのような事が必要だと思いますか。あてはまるもの3つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 454

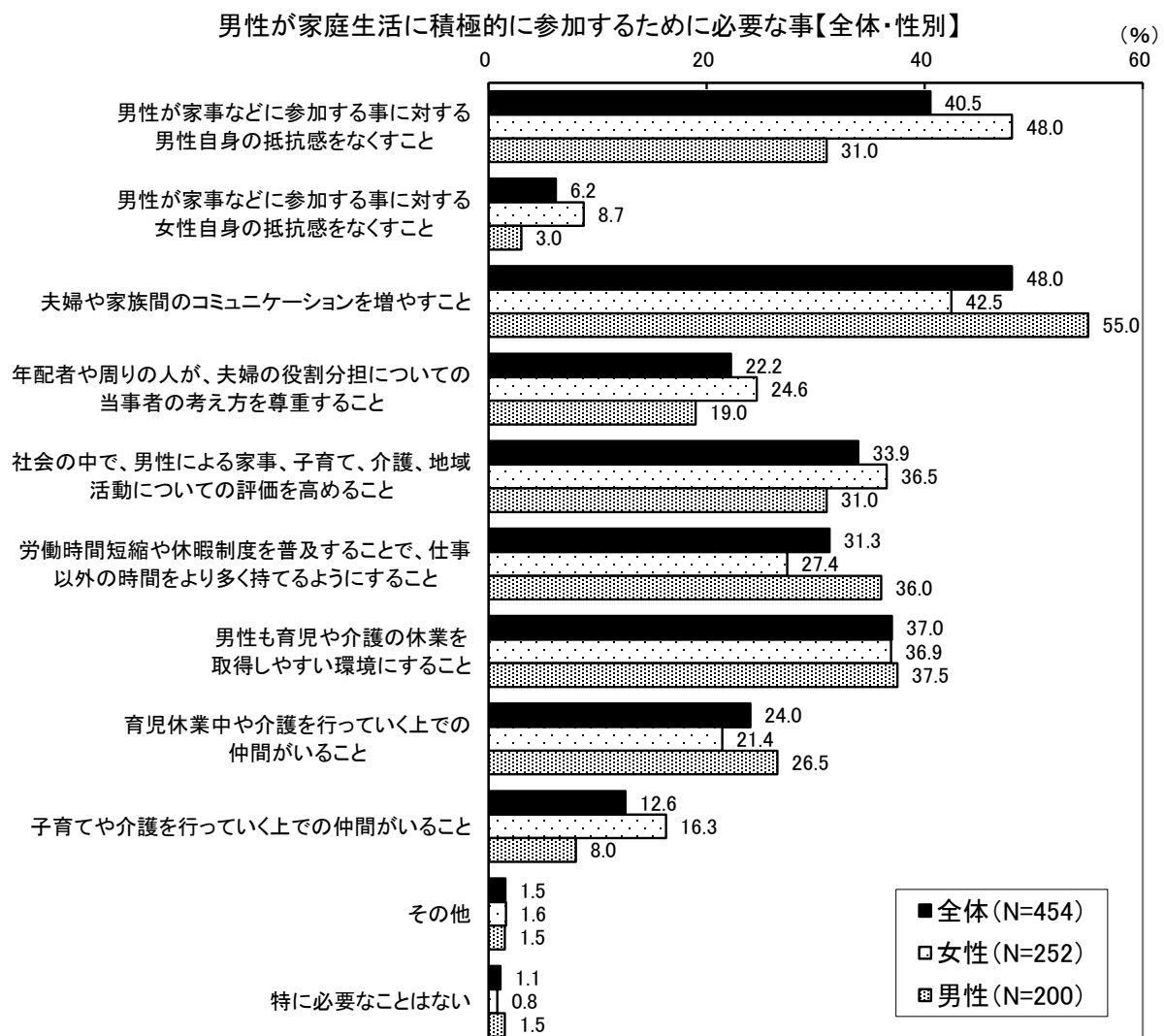
「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」がもっとも多い。

【全体】

「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」が48.0%ともっとも多く、ついで「男性が家事などに参加する事に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」40.5%、「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」37.0%などが続いている。

【性別】

女性は「男性が家事などに参加する事に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で17ポイント男性より高くなっている。一方男性は「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」で12.5ポイント女性より高くなっている。



4 女性の人権

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験

問19 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）が問題になっていますが、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 586

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が多く、認知度が高い。

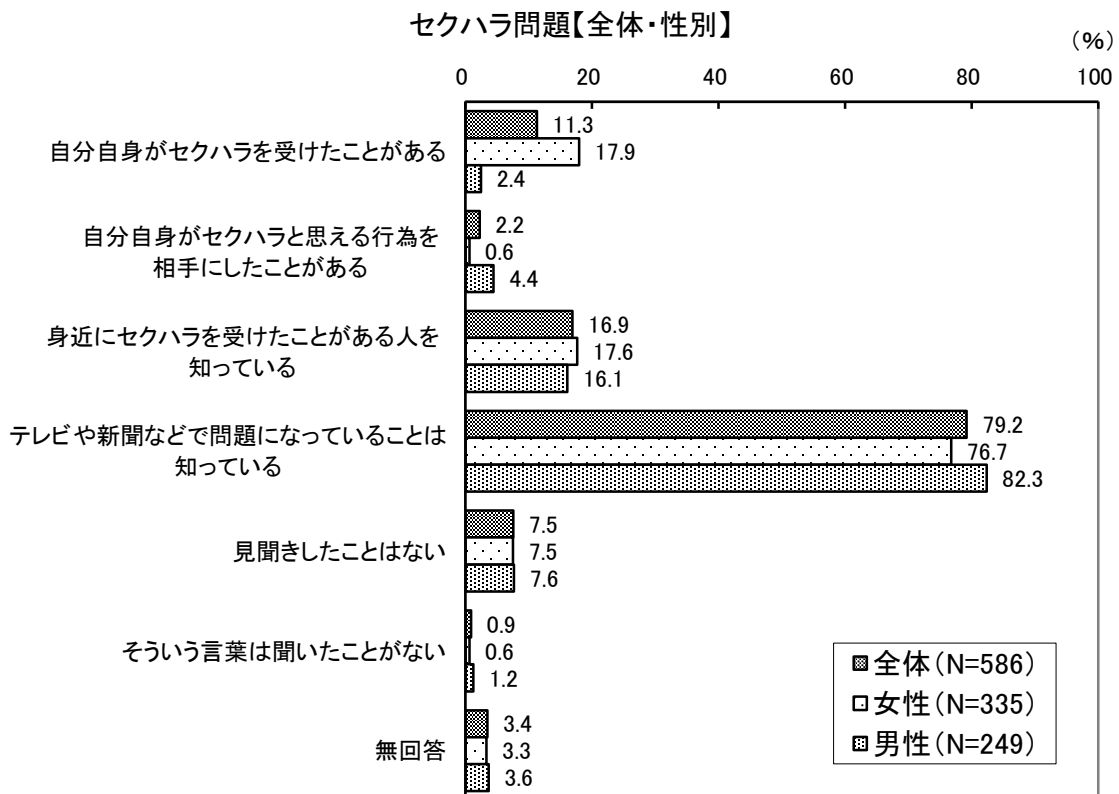
【全体】

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は 79.2%を占めており、「見聞きしたことはない」は 7.5%、「そういう言葉は聞いたことがない」は 0.9%にとどまっている。

「自分自身がセクハラを受けたことがある」が 11.3%、「自分自身がセクハラと思える行為を相手にしたことがある」が 2.2%、「身近にセクハラを受けたことがある人を知っている」が 16.9%となっている。

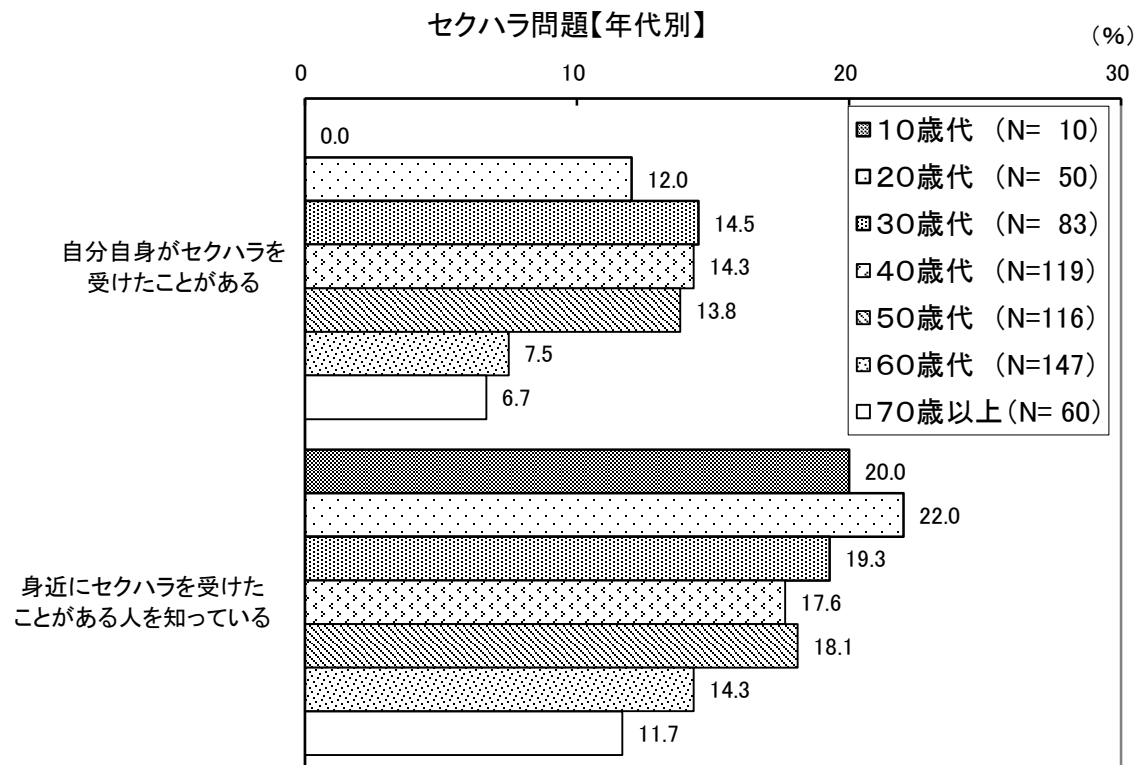
【性別】

「自分自身がセクハラを受けたことがある」では女性のほうが比率が高く、「自分自身がセクハラと思える行為を相手にしたことがある」では男性のほうが女性より比率が高い。



【年代別】

「自分自身がセクハラを受けたことがある」については20歳代～50歳代で比率が高い。また、「身近にセクハラを受けたことがある人を知っている」については10歳代～30歳代で比率が高くなっている。



(2) ドメスティック・バイオレンスの経験

問20 配偶者や恋人などから受ける身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））が問題となっていますが、あなたは、夫婦や恋人などとの間での暴力について経験したり見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 586

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が多い。
女性の14.6%が「受けたこと」があり、男性の6.4%が「したこと」があると答えている。

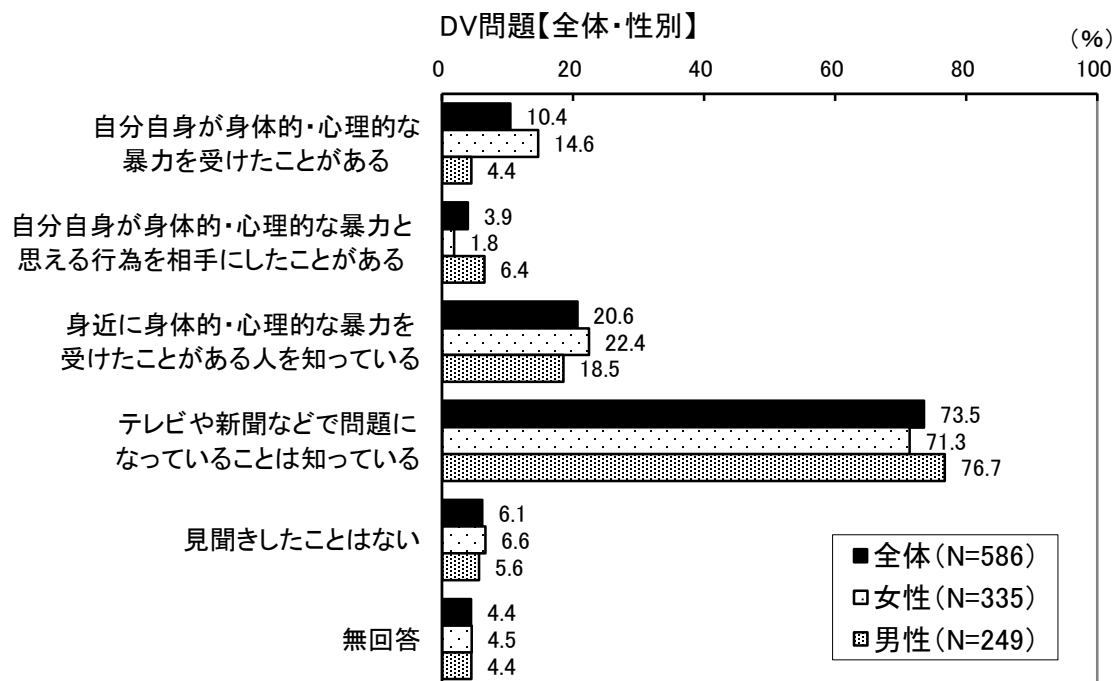
【全体】

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は73.5%を占めており、「見聞きしたことはない」は6.1%にとどまっている。

「自分自身が身体的・心理的な暴力を受けたことがある」が10.4%、「自分自身が身体的・心理的な暴力と思える行為を相手にしたことがある」が3.9%となっている。また、「身近に身体的・心理的な暴力を受けたことがある人を知っている」は20.6%となっている。

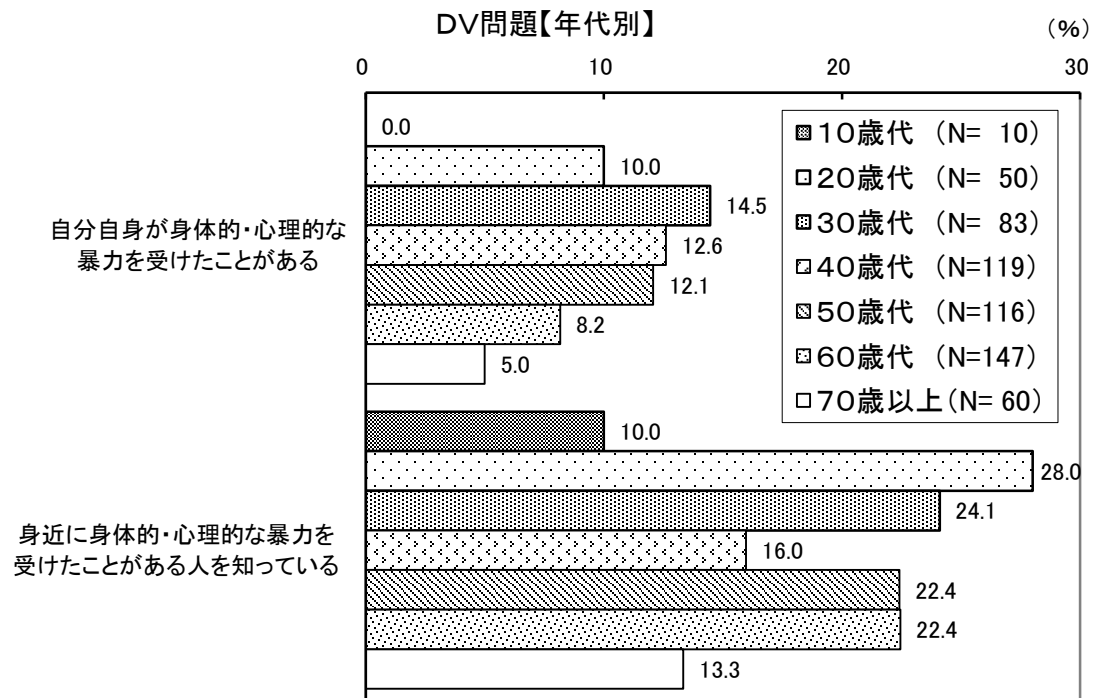
【性別】

「自分自身が身体的・心理的な暴力を受けたことがある」では女性のほうが比率が高く、「自分自身が身体的・心理的な暴力と思える行為を相手にしたことがある」では男性のほうが女性より比率が高い。

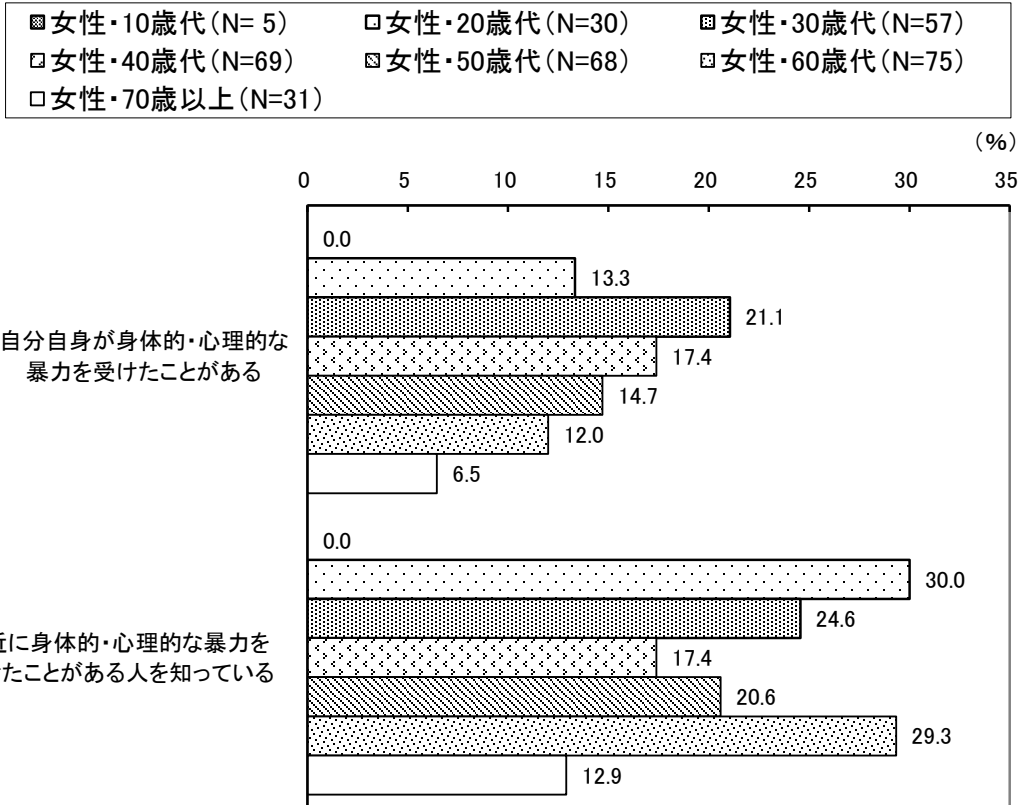


【年代別】

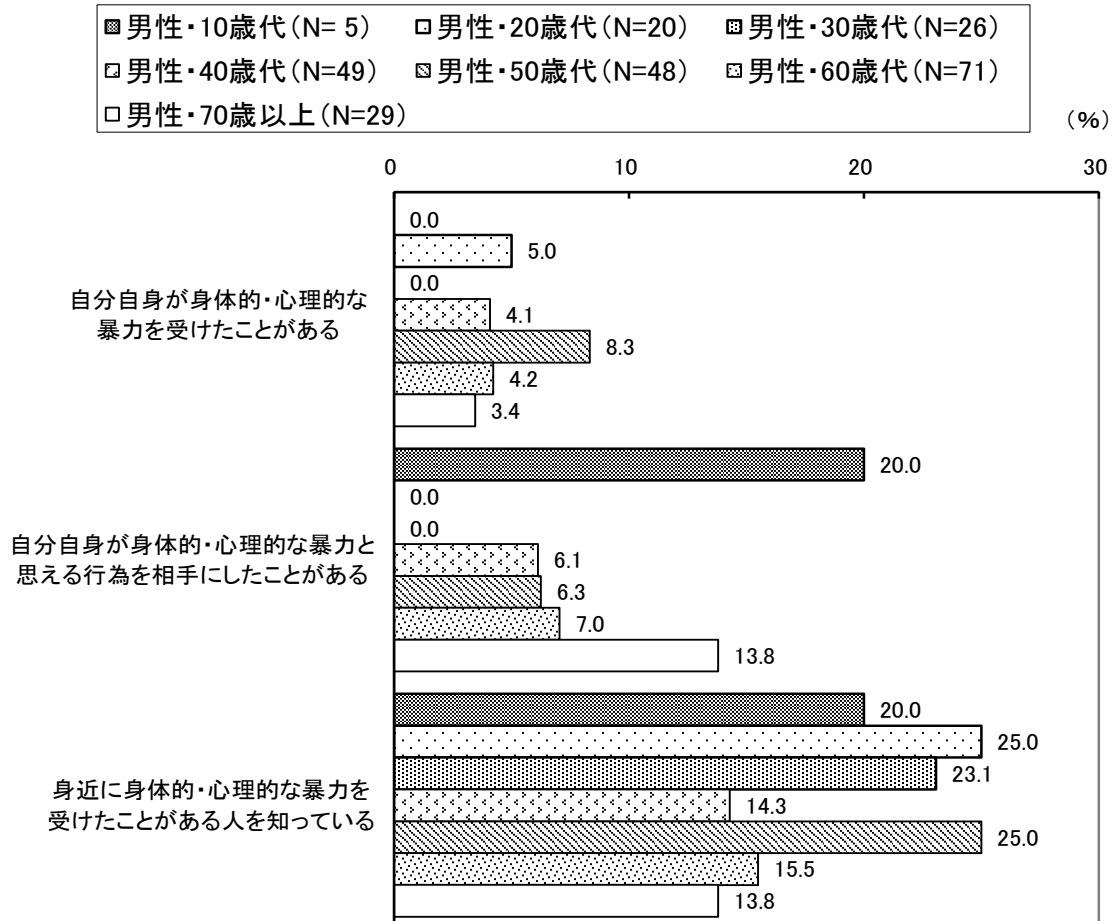
「自分自身が身体的・心理的な暴力を受けたことがある」については30歳代～50歳代で比率が高い。また、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代では「身近に身体的・心理的な暴力を受けたことがある人を知っている」の比率が高い。



DV問題【女性年代別】



DV問題【男性年代別】



(3) ドメスティック・バイオレンスの相談先の認知度

問21 あなたは配偶者や恋人などから暴力を受けたときに相談できる機関として次のような機関があるのを知っていますか。知っている機関の番号すべてに○をつけてください。

全体数 = 586

「警察」が約7割となっているほか、「彦根市福祉事務所」、「彦根子ども家庭相談センター」、「彦根市男女共同参画センター『ウィズ』」が約2～3割となっている。

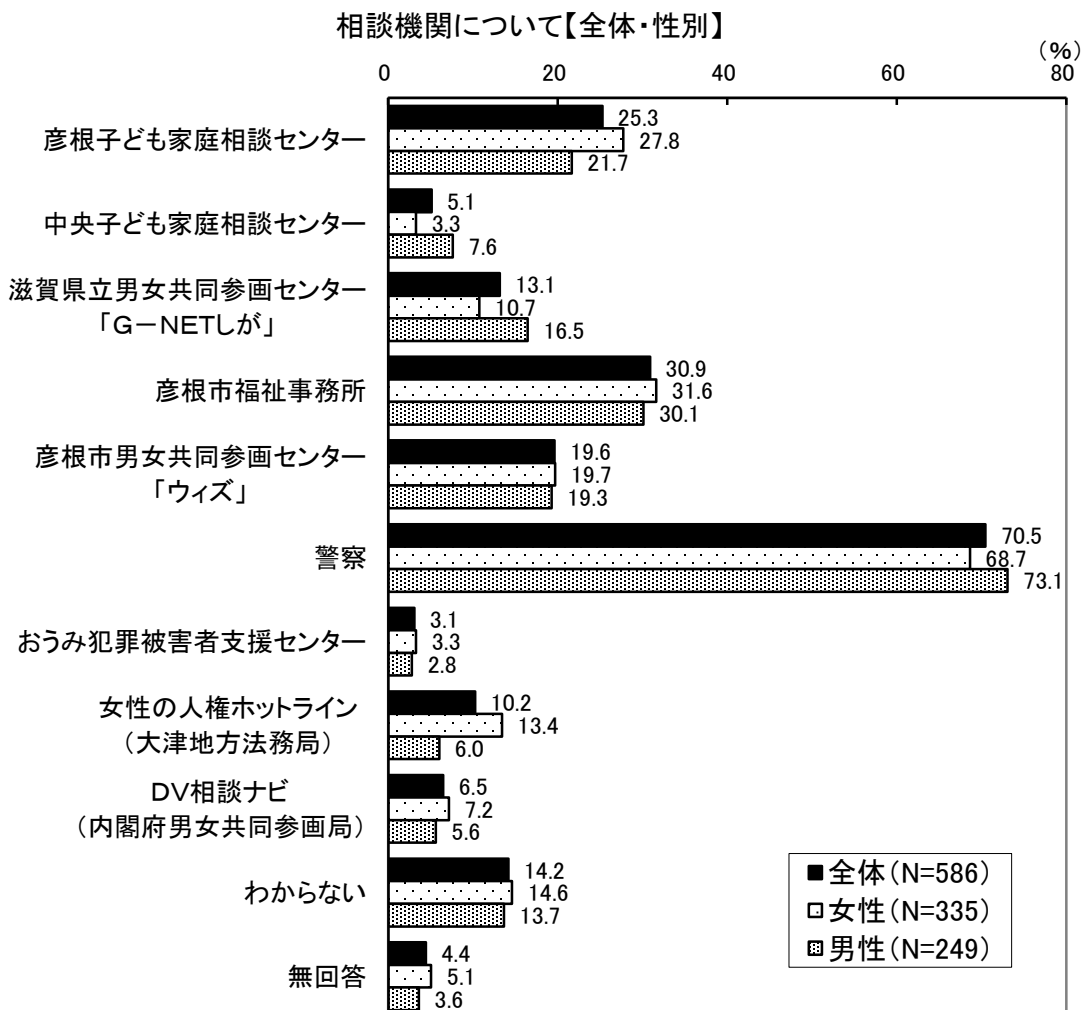
【全体】

最も回答率が高かったのは、「警察」70.5%で、次いで「彦根市福祉事務所」が30.9%、「彦根子ども家庭相談センター」が25.3%、「彦根市男女共同参画センター『ウィズ』」が19.6%となっている。一方「わからない」という人が14.2%いる。

【性別】

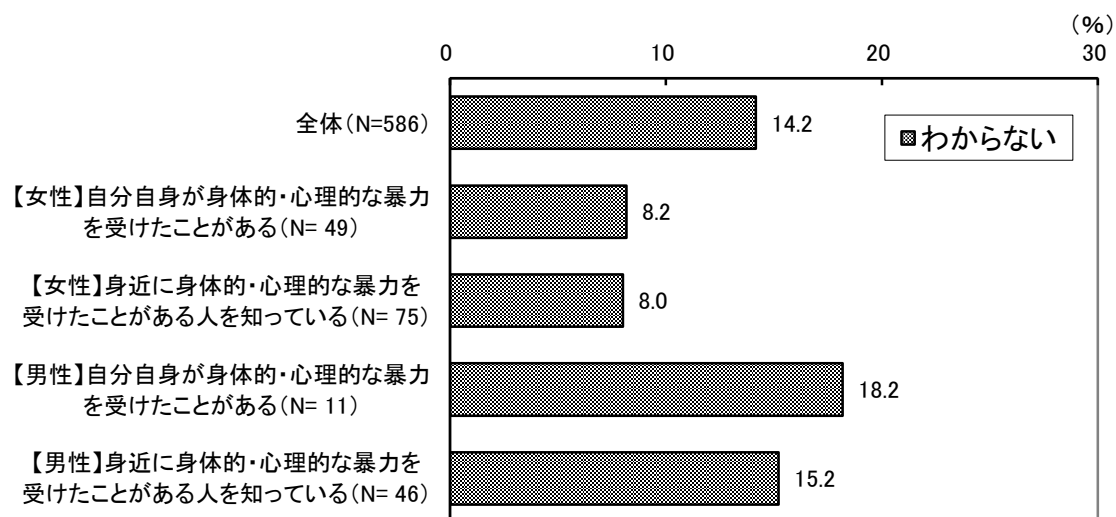
「彦根子ども家庭相談センター」「女性の人権ホットライン（大津地方法務局）」については、女性のほうが男性より比率が高くなっている。

「滋賀県立男女共同参画センター「G-NETしが」」については、男性の方が女性より比率が高くなっている。



前問で「自分自身が身体的・心理的な暴力を受けたことがある」や「身近に身体的・心理的な暴力を受けたことがある人を知っている」人が、相談できる機関を知っているかどうかを見ると、女性の場合8%前後が「わからない」としているのに対し、男性の場合15～18%が「わからない」と回答している。

DV問題相談できる機関「分からない」【全体・性別・DV経験の有無別】



(4) DVをなくすために必要なこと

問22 配偶者や恋人などから受ける身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 586

「相談担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいような環境をつくる」、「専門知識を持った人による相談体制を整備する」が4割強と多く、次いで「被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難場所）を設置する」が4割あげられている。

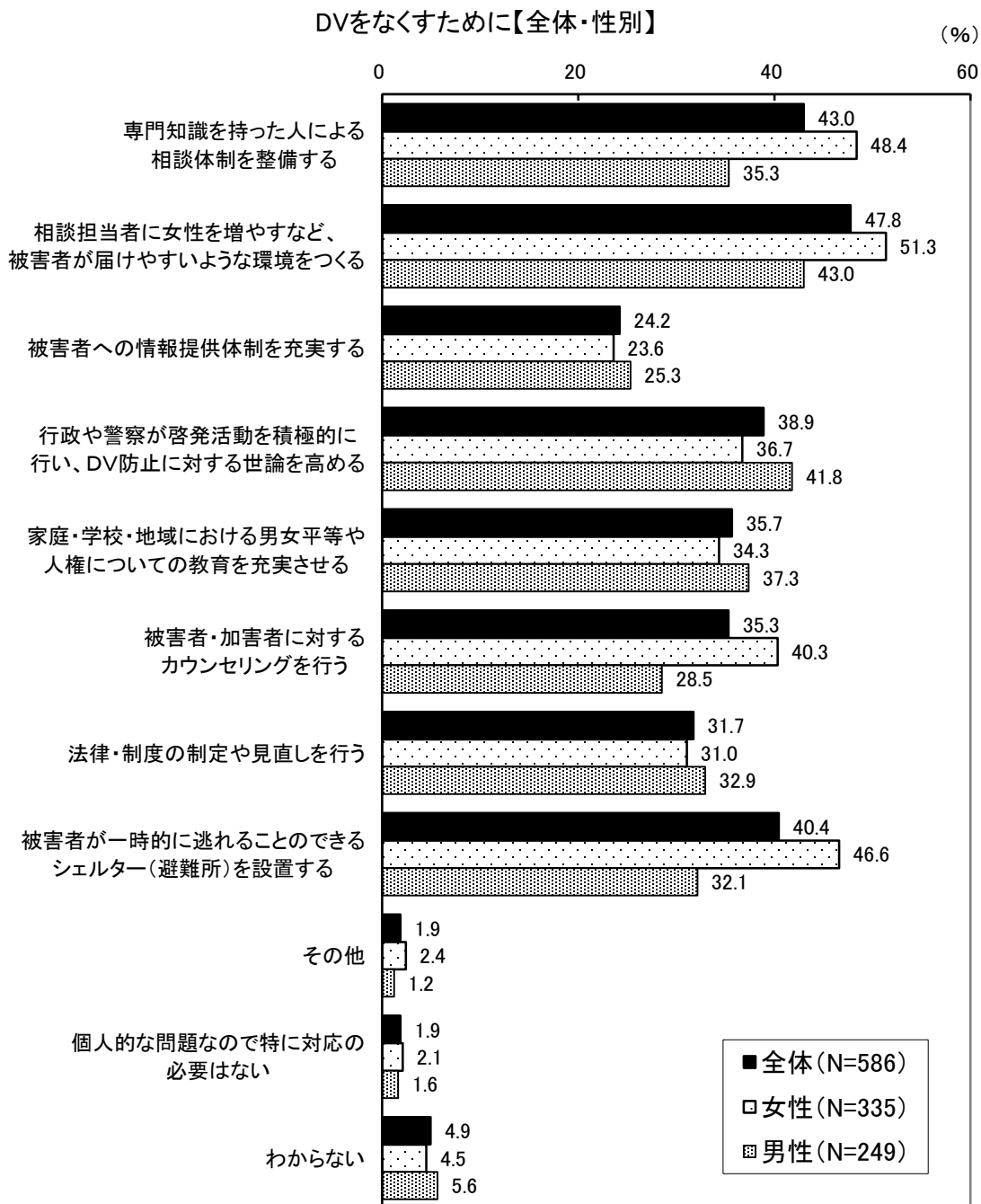
【全体】

最も回答率が高かったのは、「相談担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいような環境をつくる」で47.8%となっている。次いで「専門知識を持った人による相談体制を整備する」が43.0%、「被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難所）を設置する」が40.4%となっている。

また、「DV防止に対する世論を高める」、「男女平等や人権についての教育を充実させる」のような未然防止などについても3割あまりの人があげている。

【性別】

女性のほうが「被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難所）を設置する」で14.5ポイント、「専門知識を持った人による相談体制を整備する」で13.1ポイント、「被害者・加害者に対するカウンセリングを行う」で11.8ポイント男性より高くなっている。



5 社会参画

(1) 地域での男女差別

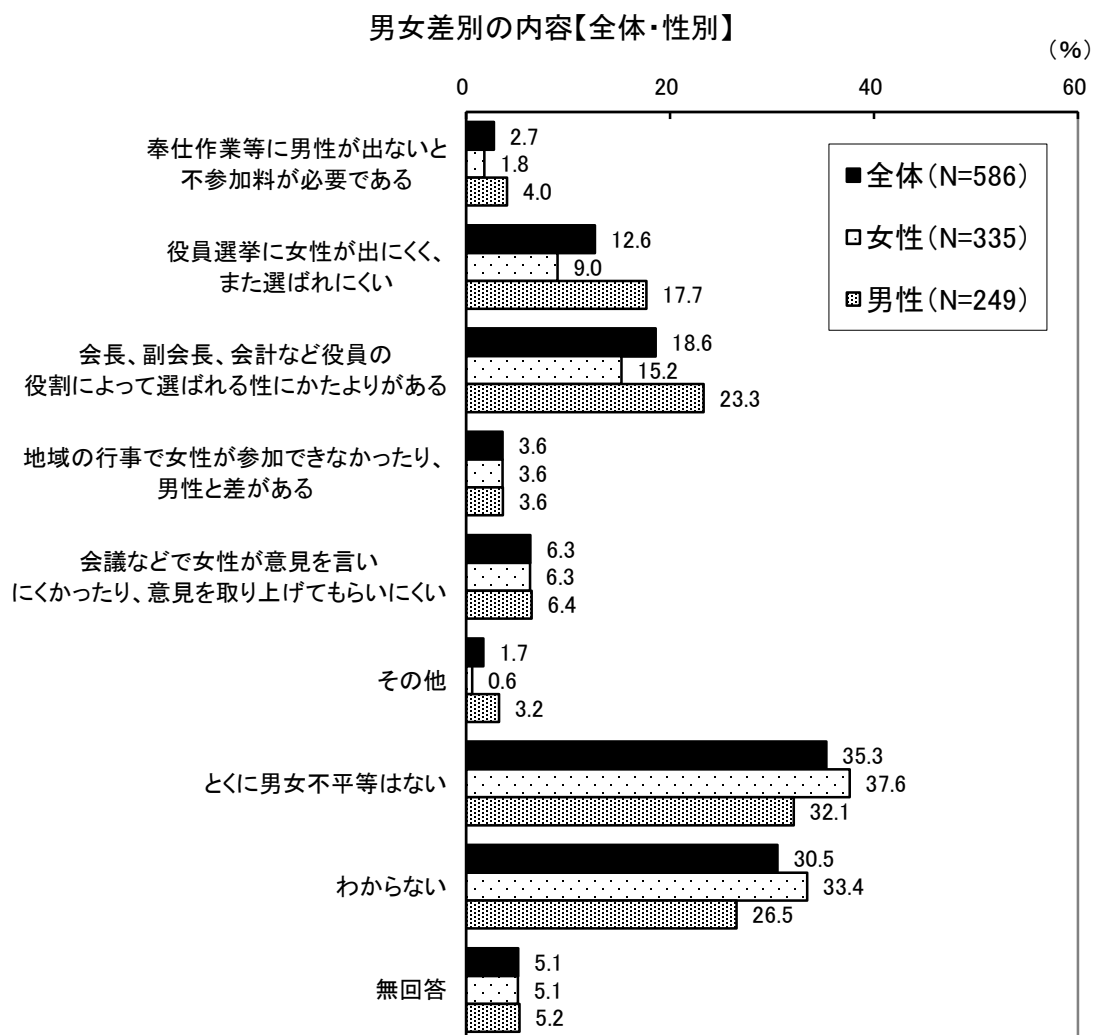
問23 あなたの住んでいる地域（自治会や町内会等）に男女不平等なことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 586

前回調査と比べると、「とくに男女不平等はない」が減少し、「不平等な事がある」が増加している。

【全体】

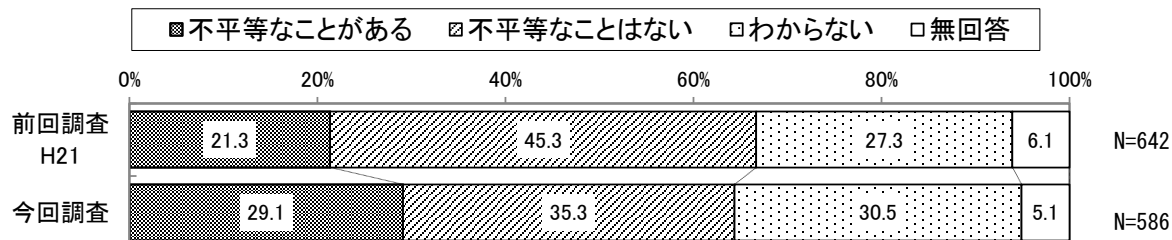
「とくに男女不平等はない」が 35.3%と最も多くなっているが、「会長、副会長、会計など役員の役割によって選ばれる性にかたよりがある」18.6%や「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」12.6%という声もある。



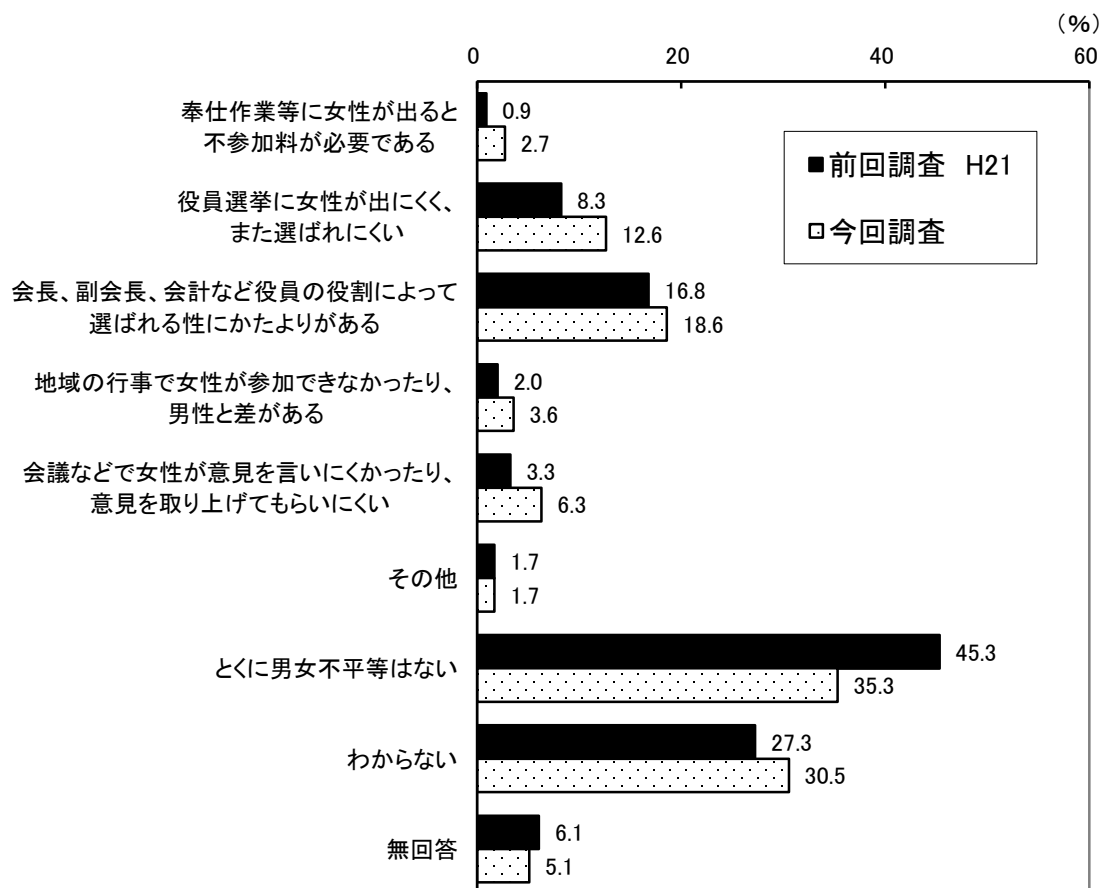
前回調査
との比較

前回調査と比べると、「不平等なことがある」の割合が7.8ポイント上がり、「不平等なことはない」の割合が10ポイント下がっている。その理由に関連して、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」や「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見を取り上げてもらいにくい」の割合が上がっていることがあげられる。

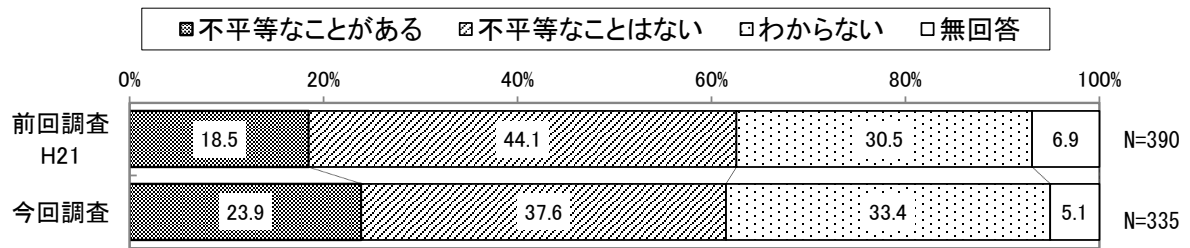
地域の男女差別【全体】



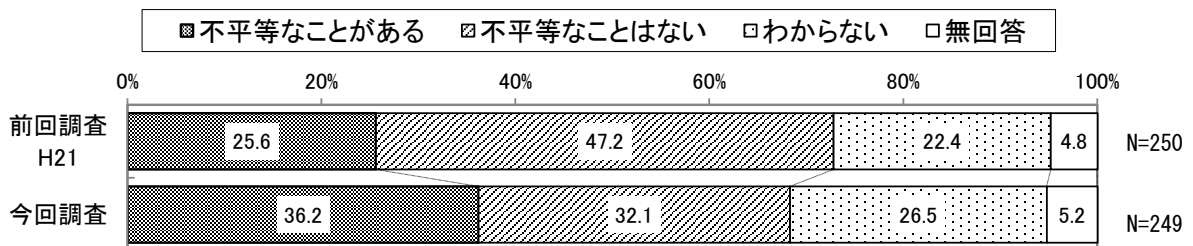
男女差別の内容



地域の男女差別【女性】



地域の男女差別【男性】



問23-1 問23で「何らかの不平等がある」とお答えの方におたずねします。地域の男女不平等の原因はどこにあると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

全体数 = 171

「社会的なしきたりやならわし」、「男、女という性別によって役割が違うという意識」が約6割と多くあげられている。

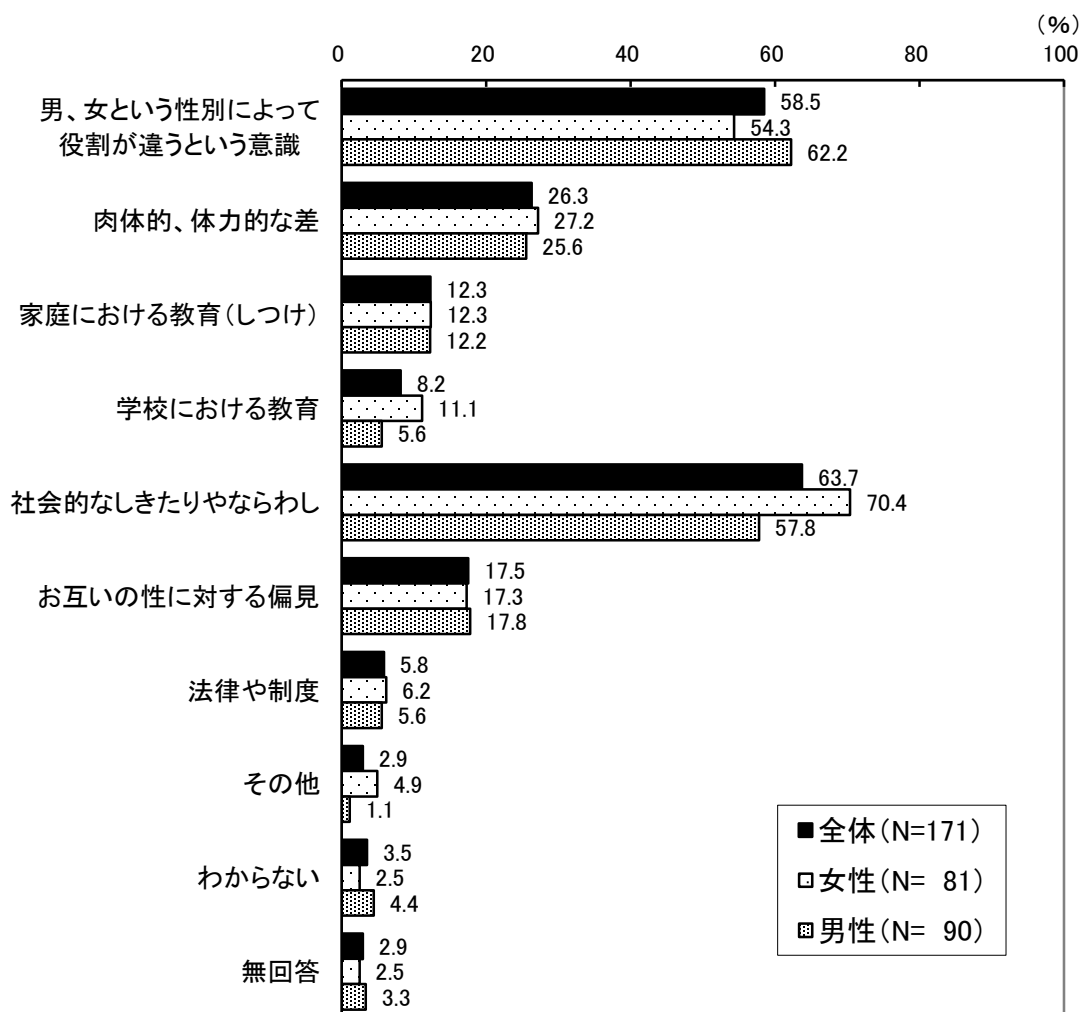
【全体】

最も回答率が高かったのは、「社会的なしきたりやならわし」で63.7%となっている。次いで「男、女という性別によって役割が違うという意識」が58.5%となっている。

【性別】

女性は「社会的なしきたりやならわし」で12.6ポイント、男性より高くなっている。男性は「男、女という性別によって役割が違うという意識」で7.9ポイント女性より高くなっている。

地域の男女差別の原因【全体・性別】



(2) 今後やってみたいこと

問24 あなたは、何か新しくやってみたいことや、今はやっていないが、再びやってみたいことがありますか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

全体数 = 586

「特にない」が男女共に約4割となっている。

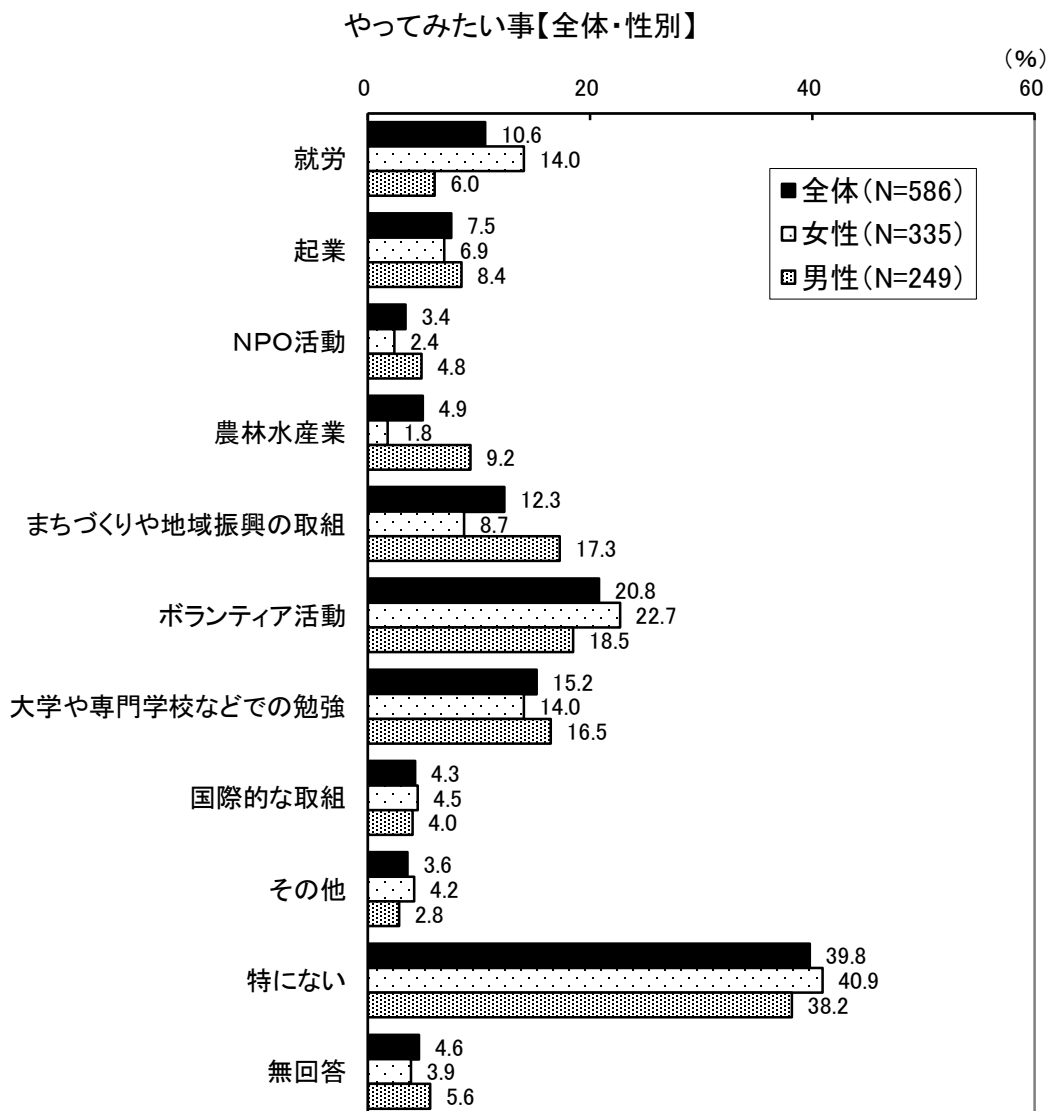
【全体】

「特にない」以外では、「ボランティア活動」が20.8%、「大学や専門学校などでの勉強」が15.2%、「まちづくりや地域振興の取組」12.3%、「就労」10.6%となっている。

【性別】

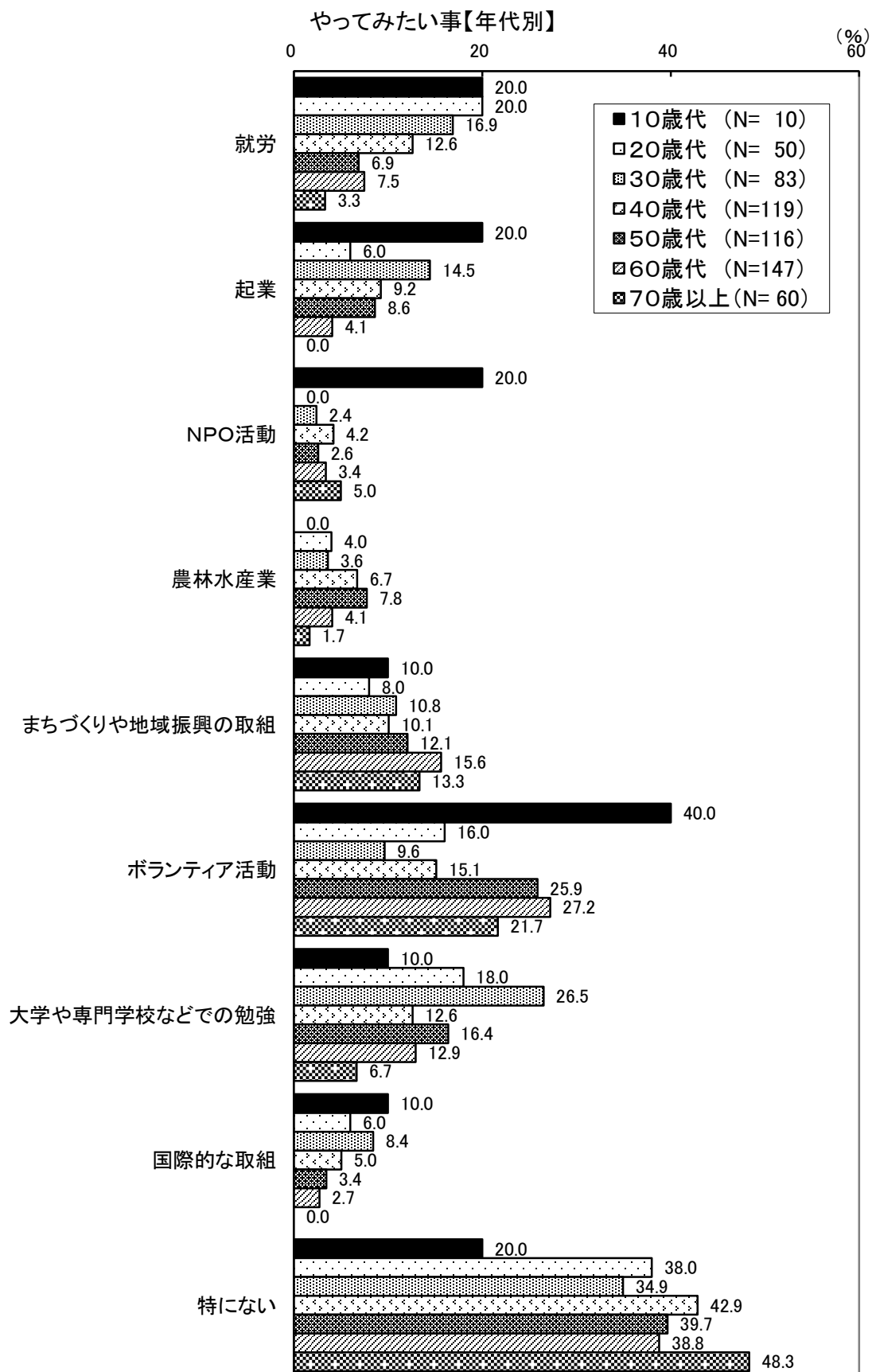
女性では「ボランティア活動」や「就労」が男性より比率が高くなっている。「就労」を選んだ女性のうち、7割は「働いていない」人（「家事に専念」、「求職中」など）である。

男性では「まちづくりや地域振興の取組」や「農林水産業」で女性より高くなっている。



【年代別】

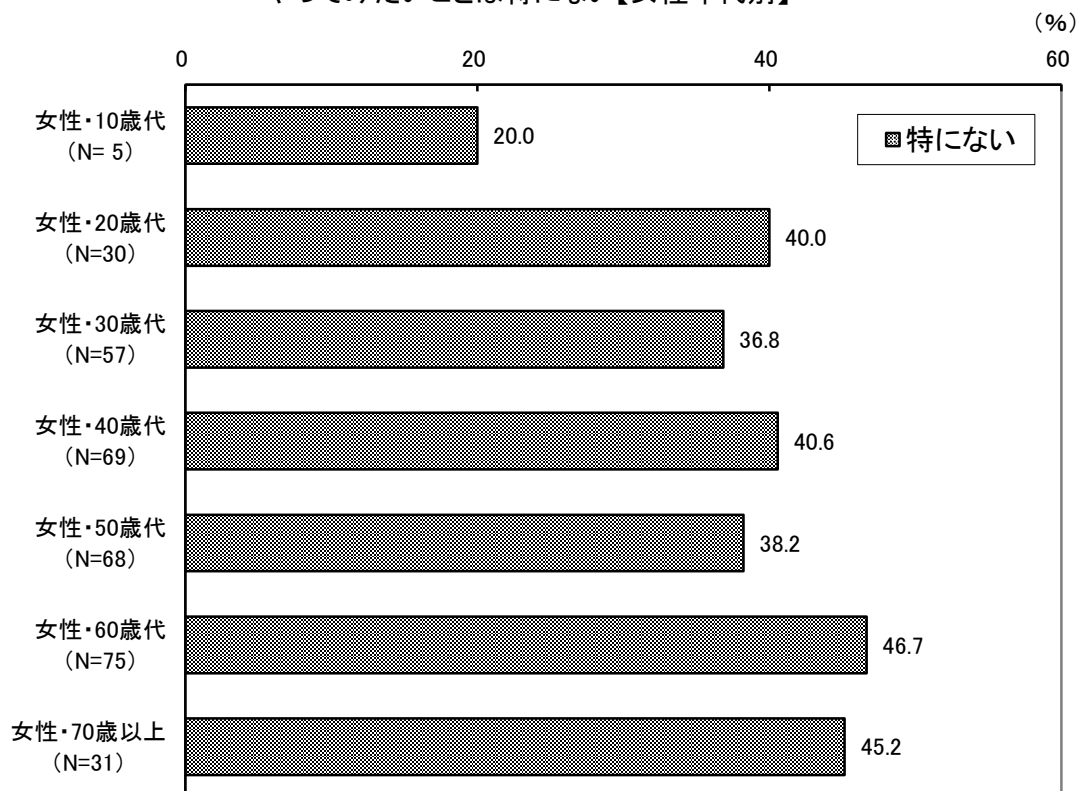
「ボランティア活動」「NPO活動」は10歳代で多く、「大学や専門学校などでの勉強」「起業」は30歳代で多くなっている。「就労」は概ね年代を経るごとに減っている。



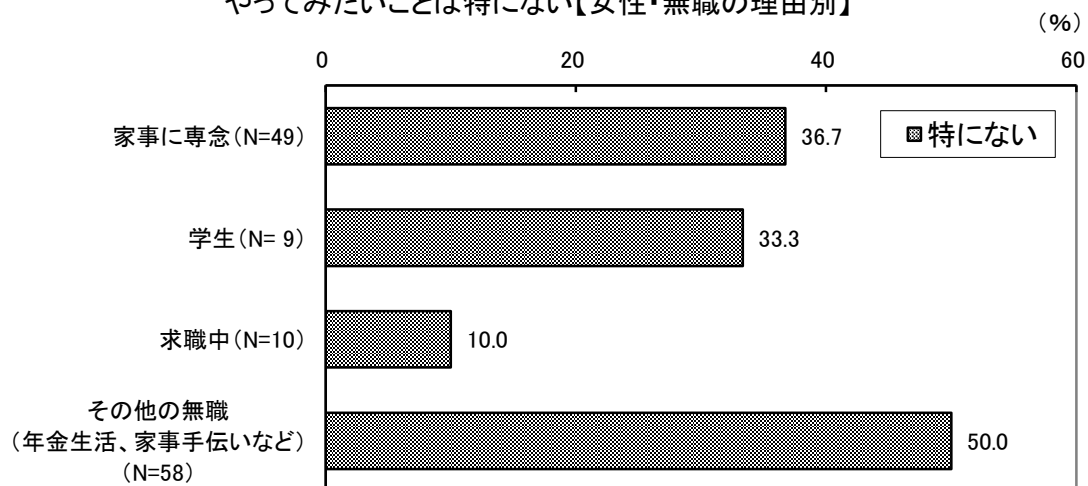
前回調査
との比較

前回調査と比べると、「特にない」が大幅に増えている。その内訳を「性別・年代別」に見ると、女性の60歳代、70歳以上で特に高く、その多くを「その他の無職（年金生活・家事手伝いなど）」が占めている。

やってみたいことは特にない【女性年代別】



やってみたいことは特にない【女性・無職の理由別】



(3) 今後やってみたいことを実現するために必要な支援

問25 問24 でお答えになったことを実現するために、どのような支援が必要だと思いますか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

全体数 = 326

「情報提供」や、「チャレンジにつながる出会いの場」、「体験機会」を求める割合が多い。

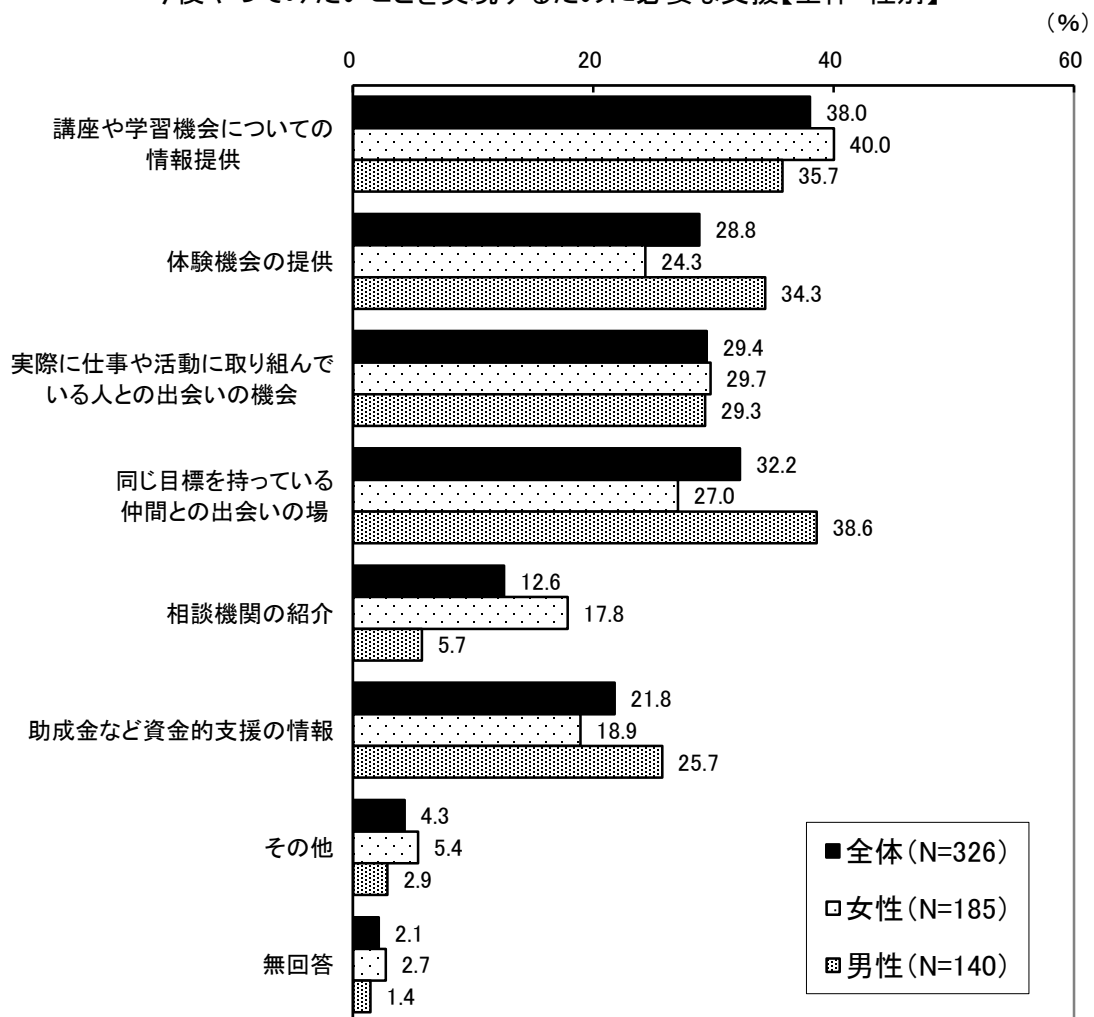
【全体】

最も回答率が高かったのは、「講座や学習機会についての情報提供」38.0%で、次いで「同じ目標を持っている仲間との出会いの場」が32.2%となっている。

【性別】

「相談機関の紹介」では、女性が男性より12.1ポイント高くなっている。男性の場合「同じ目標を持っている仲間との出会いの場」では11.6ポイント、「体験機会の提供」では10ポイント女性より高くなっている。

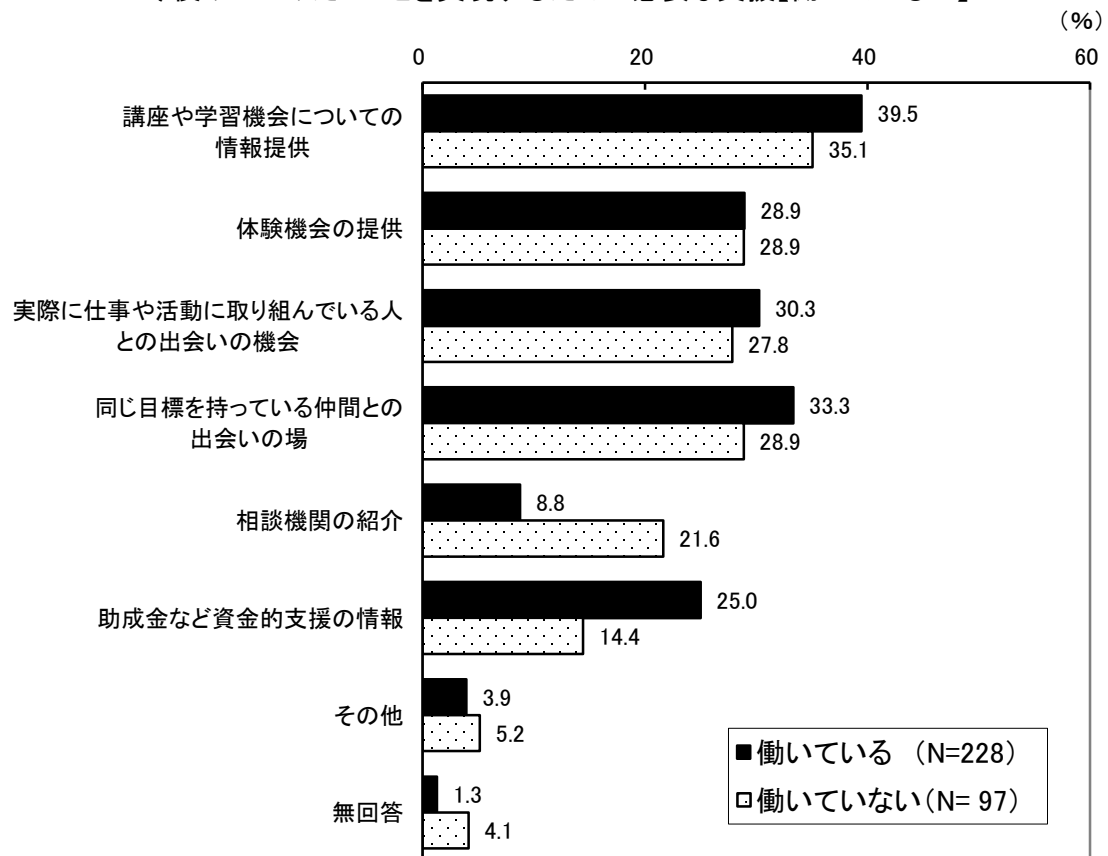
今後やってみたいことを実現するために必要な支援【全体・性別】



【就業の有無別】

「助成金など資金的支援の情報」については、「働いている」人の場合が 10.6 ポイント高く、「相談機関の紹介」については、「働いていない」人の場合が 12.8 ポイント高い。

今後やってみたいことを実現するために必要な支援【働いているか】



6 男女共同参画社会づくり

(1) この10年間で男女平等が進んだかどうか

問26 いろいろなことを総合して、この10年間に男女平等は進んだと思いますか。

それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

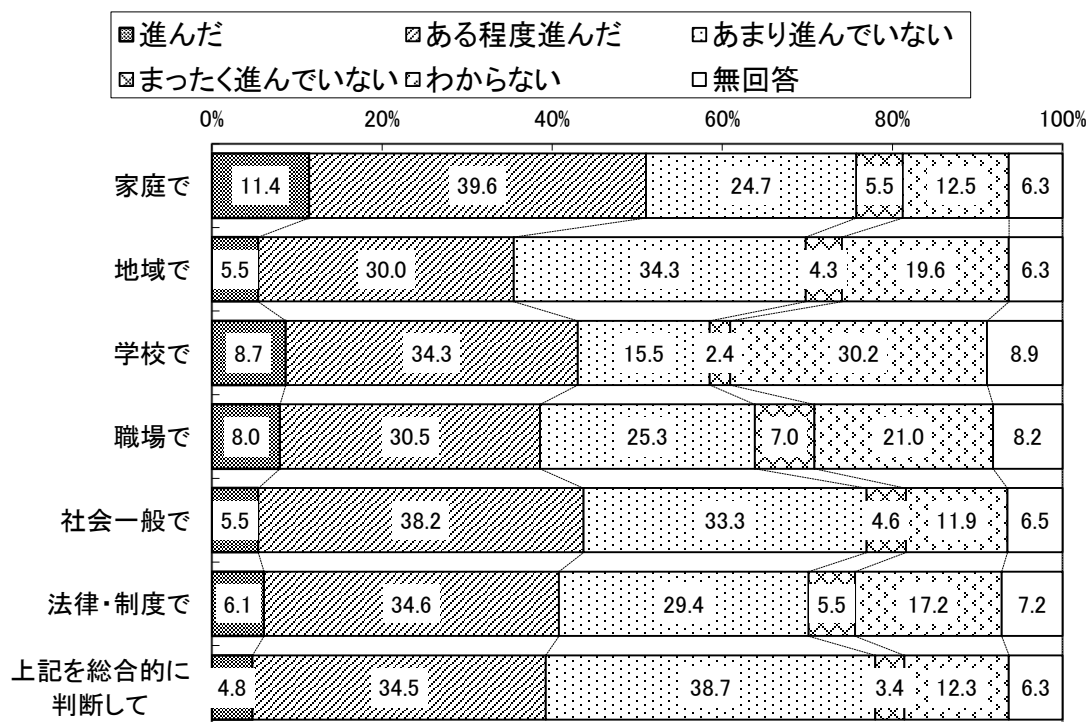
前回調査と比べ、「ある程度進んだ」という評価が前回調査よりも若干減少し、「あまり進んでいない」が若干増加している。

【全体】

比較的評価されているものとして、「家庭で」については「進んだ」が11.4%、「ある程度進んだ」が39.6%、合計51%となっている。

一方、比較的評価が厳しいものとして、「上記を総合的に判断して」については、「あまり進んでいない」38.7%、「まったく進んでいない」3.4%、合計42.1%となっており、次いで「地域で」で同合計が38.6%、「社会一般で」で同合計が37.9%となっている。

男女平等は進んだか【全体】

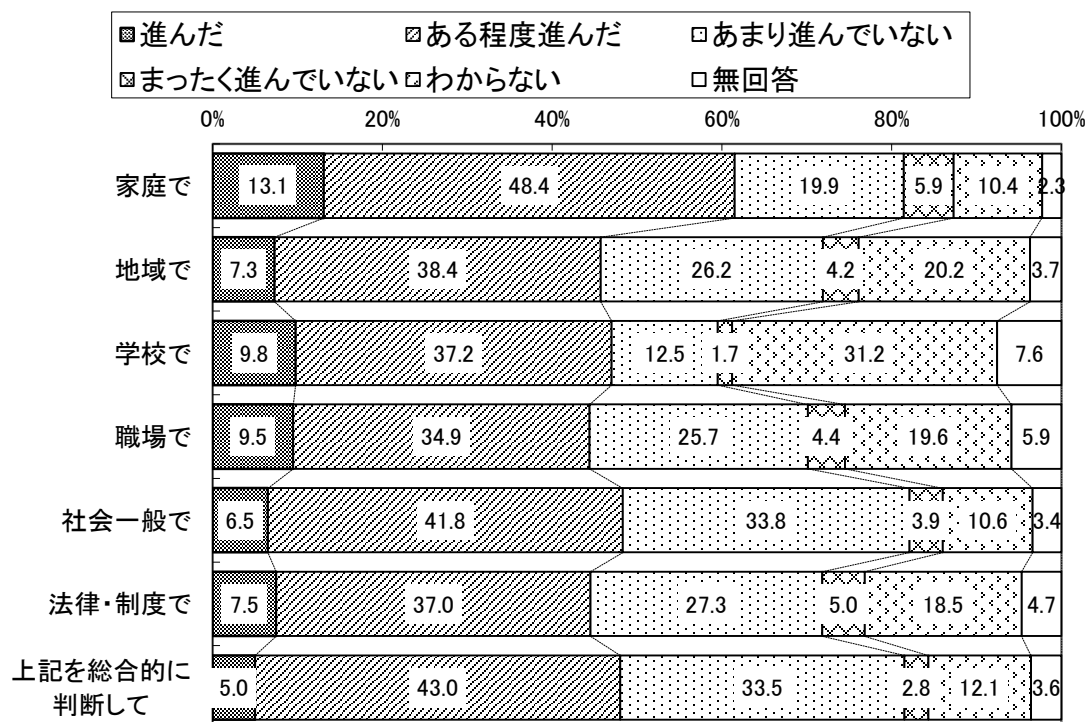


前回調査
との比較

前回調査と比べ、全体的に「進んだ」「ある程度進んだ」が減少し、「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」が増加傾向にある。

中でも特に、「家庭で」「ある程度進んだ」が 8.8 ポイント、「地域で」「ある程度進んだ」が 8.4 ポイント減少している。「地域で」はさらに「あまり進んでいない」が 8.1 ポイント増加している。

男女平等は進んだか【前回調査H21】



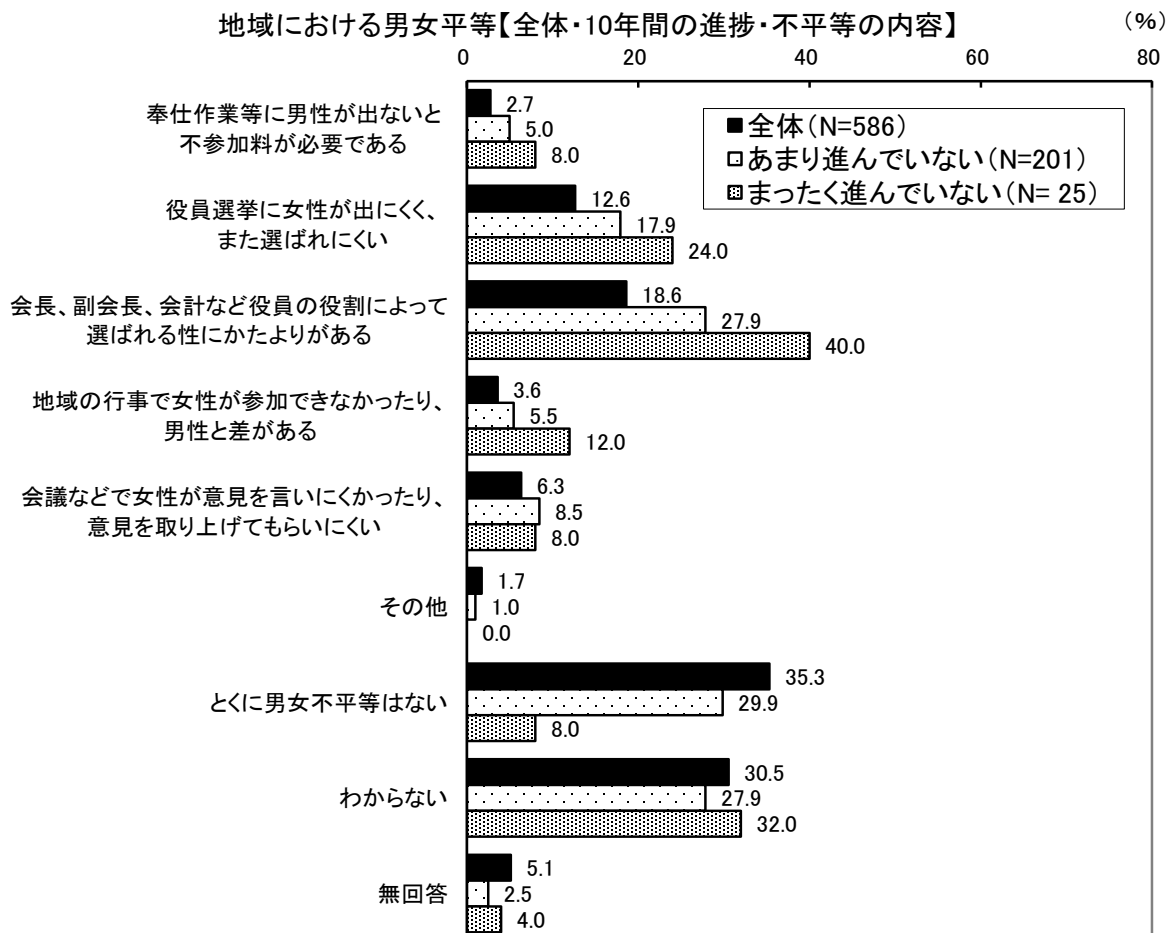
総合的に判断して「あまり進んでいない」「進んでいない」を選んだ人は、「地域で」「職場で」「社会一般で」「法律制度で」、「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」と回答している人が多い。

			進んだ	ある程度進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない	無回答
上記を総合的に判断して	あまり進んでいない	家庭で	2.2	37.0	44.5	7.0	8.8	0.4
	全く進んでいない	家庭で	0.0	30.0	20.0	40.0	10.0	0.0
	あまり進んでいない	地域で	1.3	14.5	59.5	5.7	18.9	0.0
	全く進んでいない	地域で	0.0	10.0	45.0	30.0	15.0	0.0
	あまり進んでいない	学校で	1.3	33.0	33.0	2.2	27.3	3.1
	全く進んでいない	学校で	0.0	25.0	15.0	25.0	25.0	10.0
	あまり進んでいない	職場で	1.8	20.7	52.9	7.9	14.5	2.2
	全く進んでいない	職場で	5.0	10.0	20.0	55.0	5.0	5.0
	あまり進んでいない	社会一般で	0.9	18.5	70.5	5.7	4.0	0.4
	全く進んでいない	社会一般で	0.0	10.0	25.0	60.0	5.0	0.0
	あまり進んでいない	法律・制度で	0.4	21.1	60.4	8.8	8.8	0.4
	全く進んでいない	法律・制度で	0.0	0.0	35.0	50.0	15.0	0.0

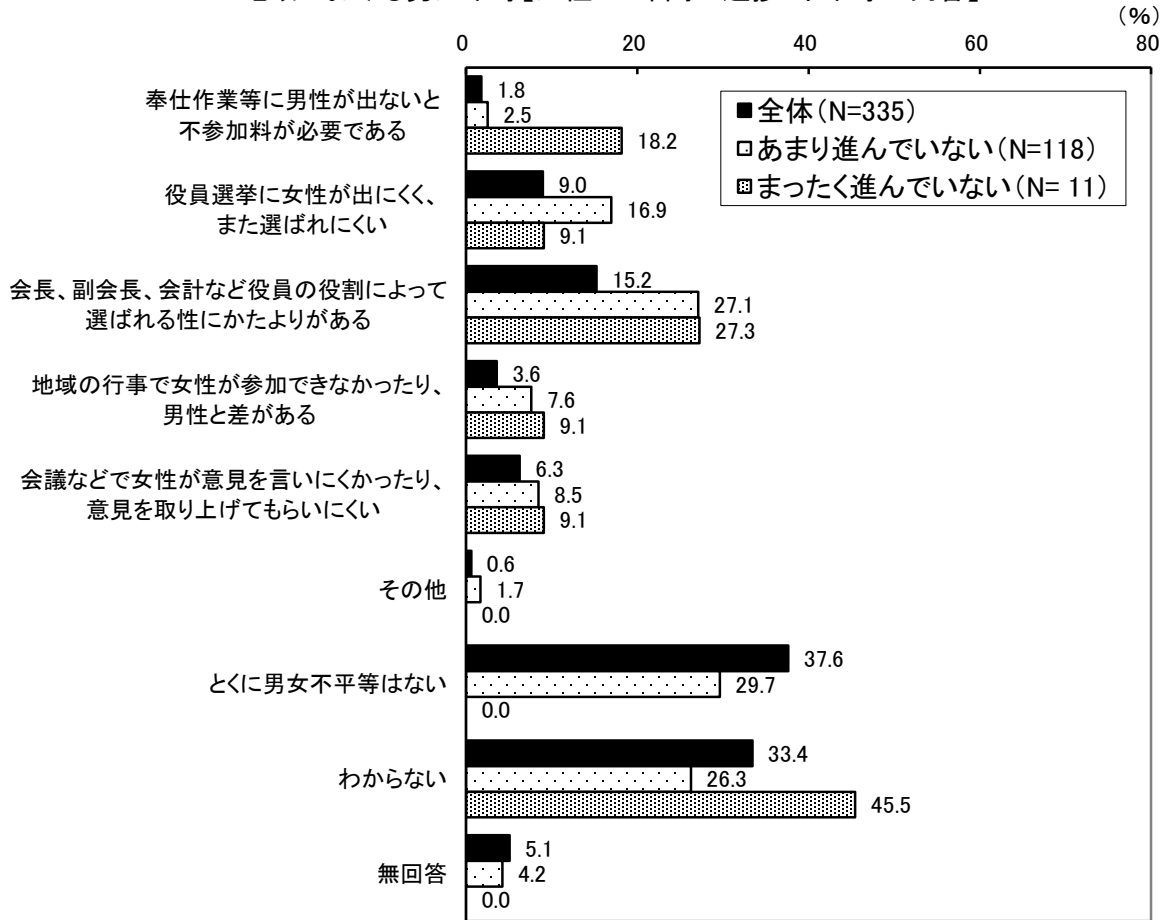
【問 23 と問 26 の性別にみた相関関係】

『問 26 10 年間に男女平等は進んだかどうか ②地域で』において「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」を選んだ人は『問 23 地域に男女不平等なことがあるか』で「会長、副会長、会計など役員の役割によって選ばれる性にかたよりのある」を多く選んでいる。

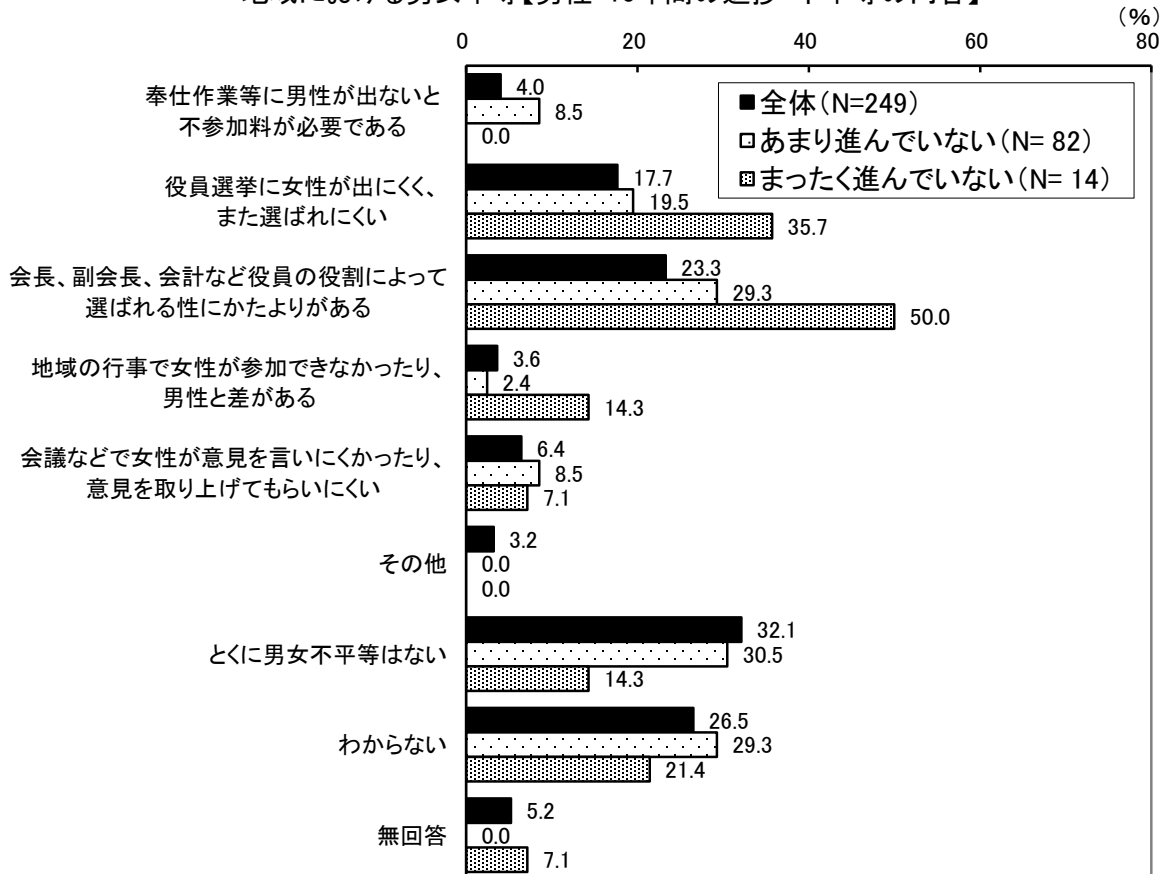
女性も同じく「会長、副会長、会計など役員の役割によって選ばれる性にかたよりのある」を多く選んでいる。男性は「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」も多く選んでいる。



地域における男女平等【女性・10年間の進捗・不平等の内容】



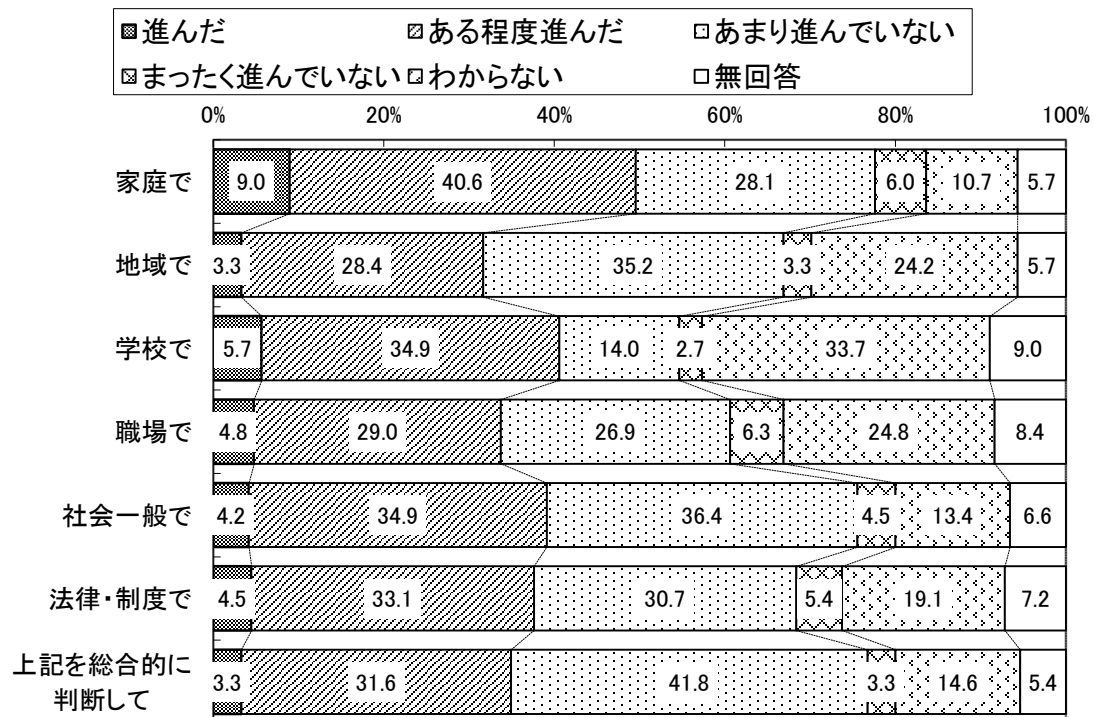
地域における男女平等【男性・10年間の進捗・不平等の内容】



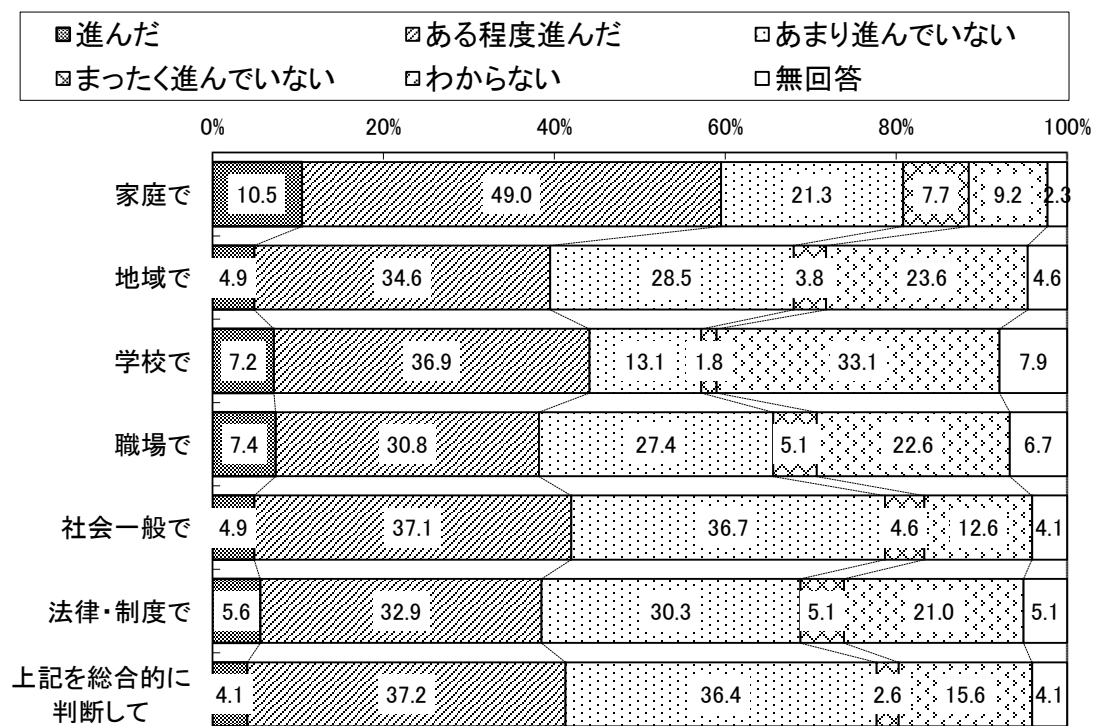
【性別】

前回調査と比べると、女性の場合、ほぼすべての項目で「進んだ」「ある程度進んだ」の割合が減少し、「あまり進んでいない」の割合が増加している。

男女平等は進んだか【女性】(N=335)

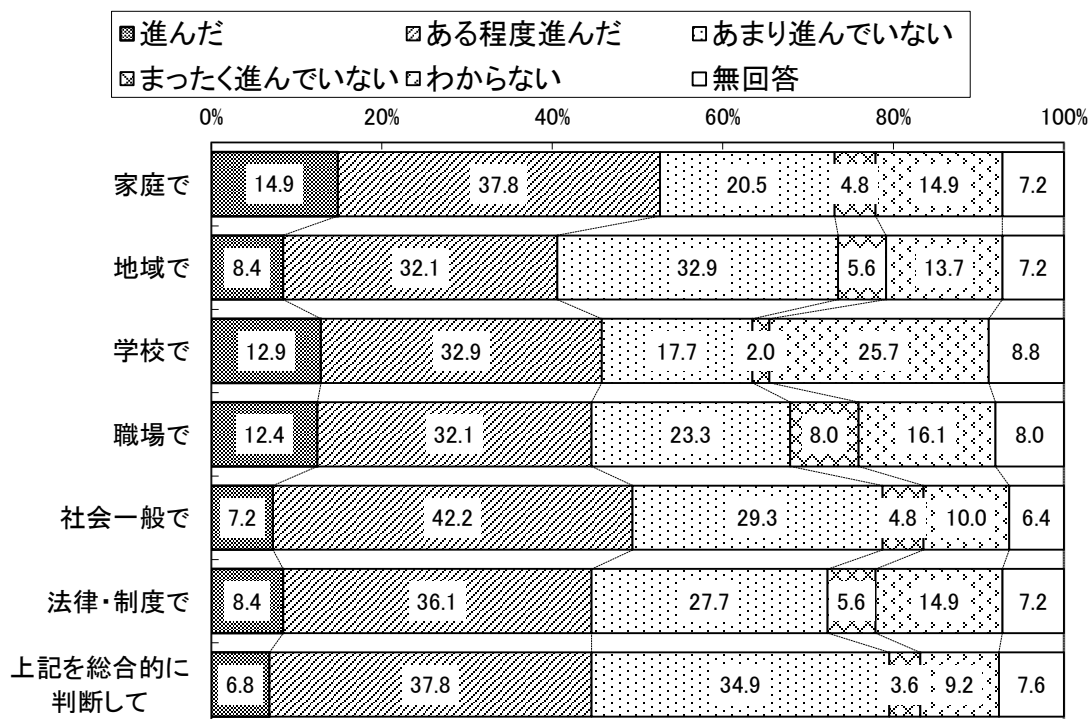


男女平等は進んだか【女性・前回調査H21】(N=390)

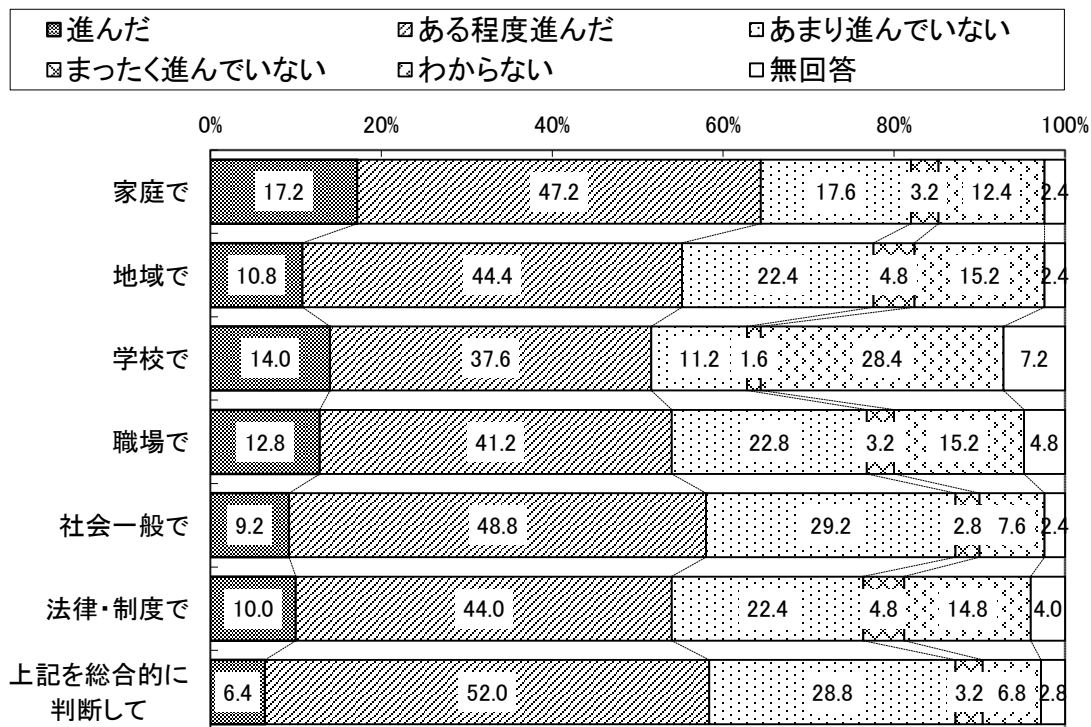


前回調査と比べると、男性の場合もすべての項目で「進んだ」「ある程度進んだ」の割合が減少し、「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」の割合が増加している。特に「上記を総合的に判断して」で、「ある程度進んだ」が14.2ポイント減少している。

男女平等は進んだか【男性】(N=249)



男女平等は進んだか【男性・前回調査H21】(N=250)



(2) 男女共同参画に関する事柄の認知度

問27 あなたは、次の言葉を知っていますか？

それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

全体数 = 586

認知度が高かったのは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」、「男女共同参画社会」、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」となっている

「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」については前回調査よりも認知度が向上している。

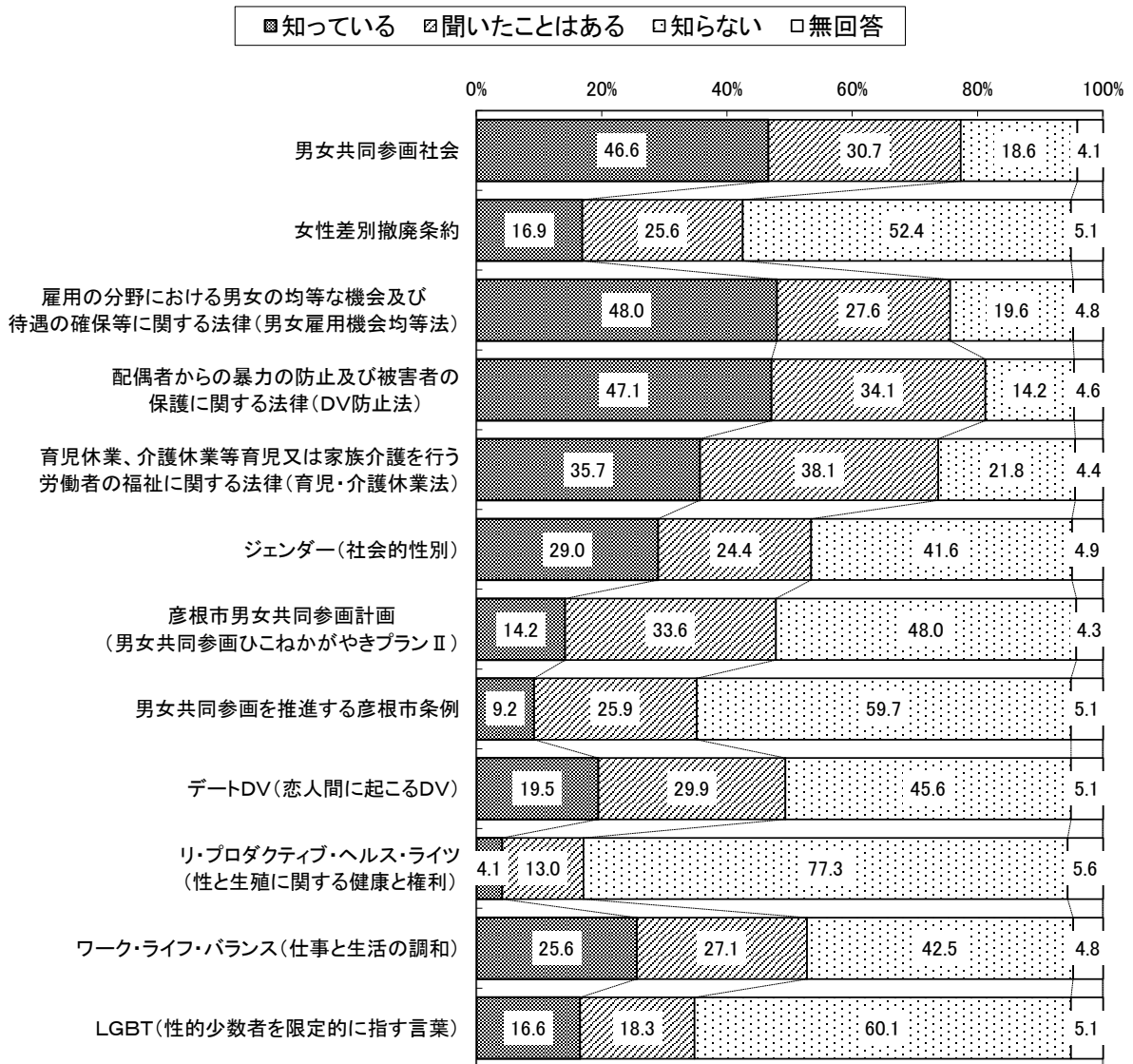
【全体】

最も認知度が高かったのは「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」で、「知っている」47.1%、「聞いたことはある」34.1%を合わせると81.2%となっている。次いで「男女共同参画社会」の同合計が77.3%、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」75.6%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」73.8%となっており、法律に関しては一定の認識がされている。

一方、認知度が低かったのは、「女性差別撤廃条約」、「男女共同参画を推進する彦根市条例」、「リ・プロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」、「LGBT（性的少数者を限定的に指す言葉）」の4項目で、「知らない」がいずれも5割を超えている。

今回より設問に加えられた、「デートDV（恋人間に起こるDV）」、「リ・プロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」、「LGBT（性的少数者を限定的に指す言葉）」のなかでは、「デートDV（恋人間に起こるDV）」の認知度が最も高く、「知っている」19.5%、「聞いたことはある」29.9%を合わせると49.4%となっている。

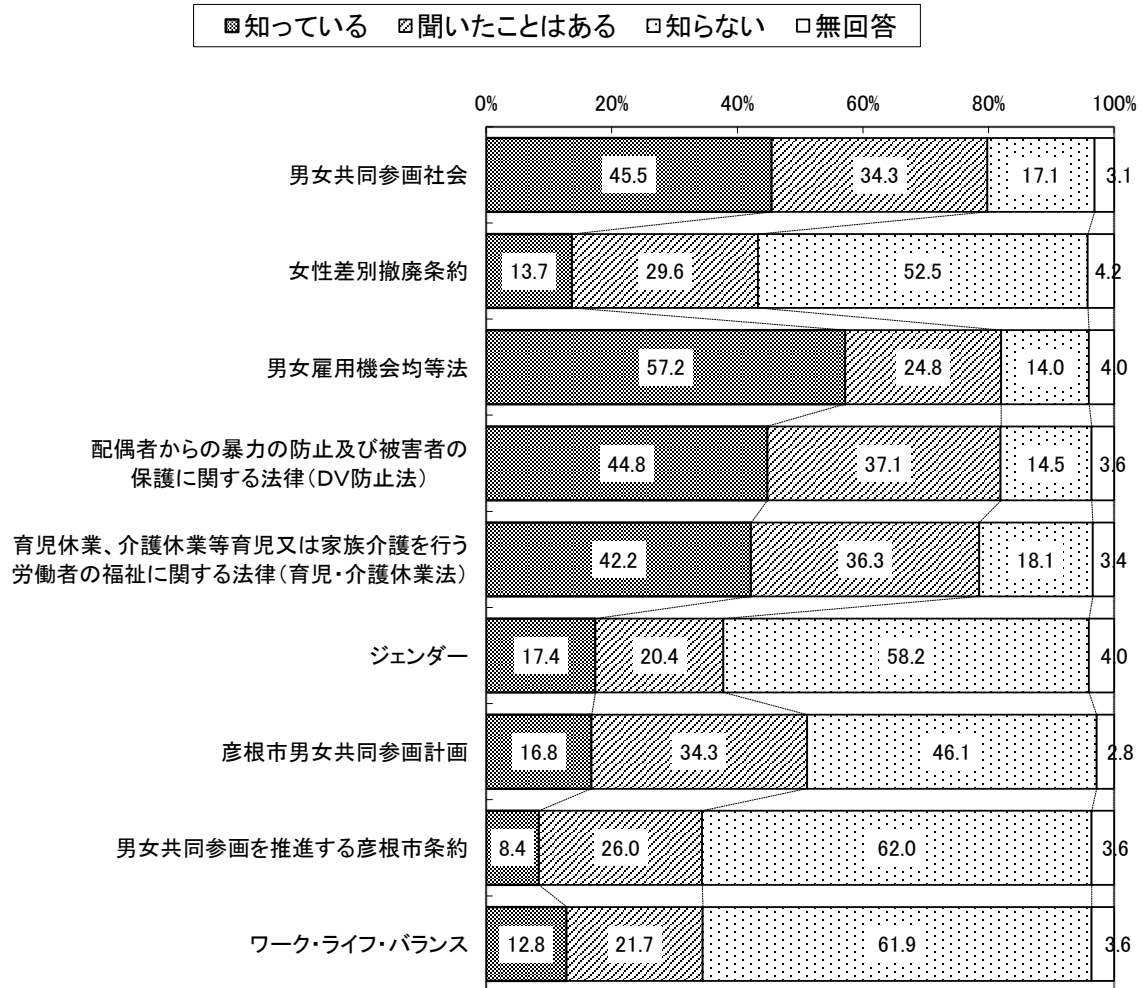
認知度【全体】



前回調査
との比較

前回調査結果と比べると、「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度が上がっている。一方「彦根市男女共同参画計画（男女共同参画ひこねかがやきプランⅡ）」の認知度は下がっている。

認知度【前回調査H21】

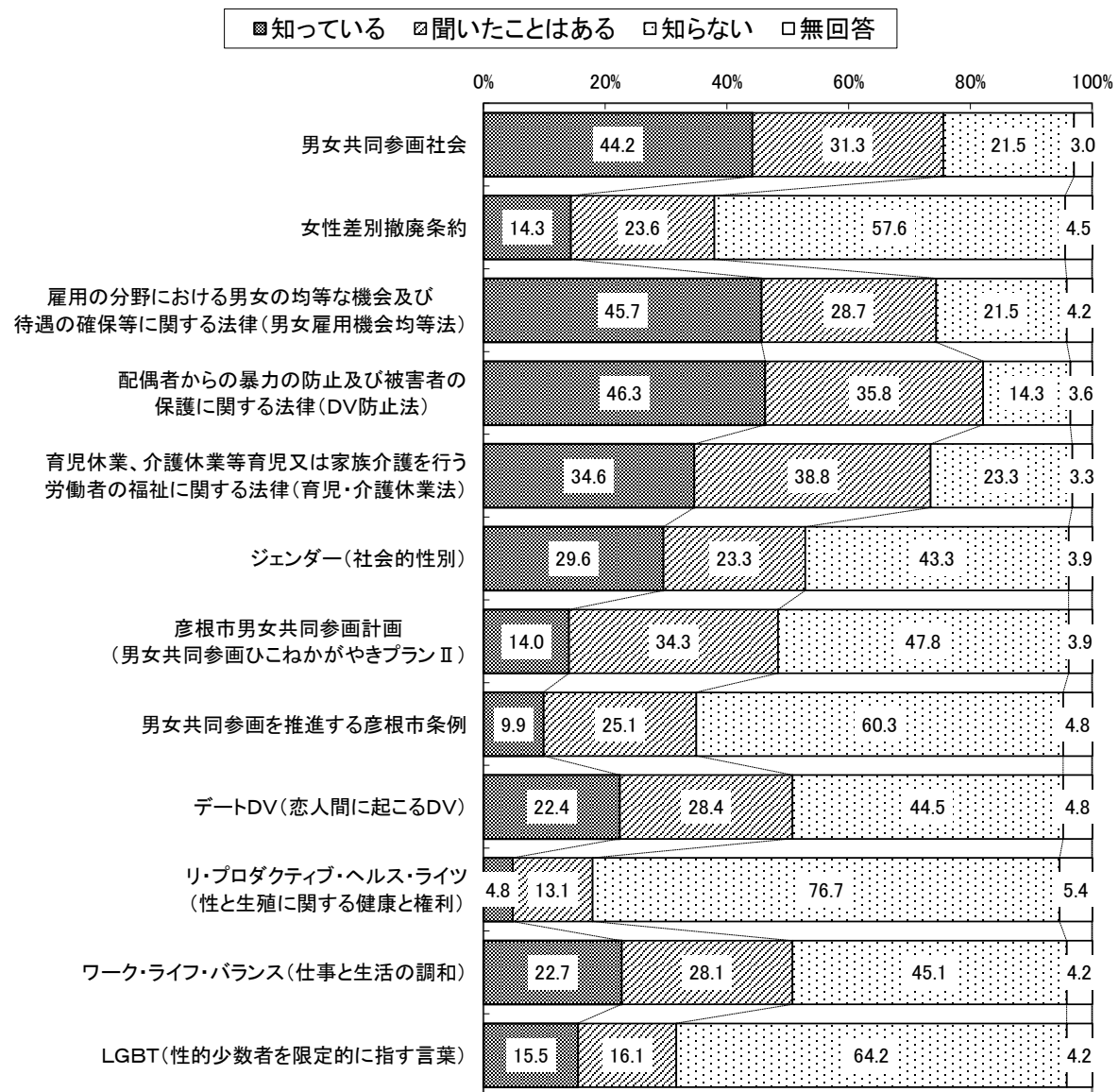


※前回調査では、「デートDV（恋人間に起こるDV）」、「リ・プロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」、「LGBT（性的少数者を限定的に指す言葉）」は設けられていなかった。

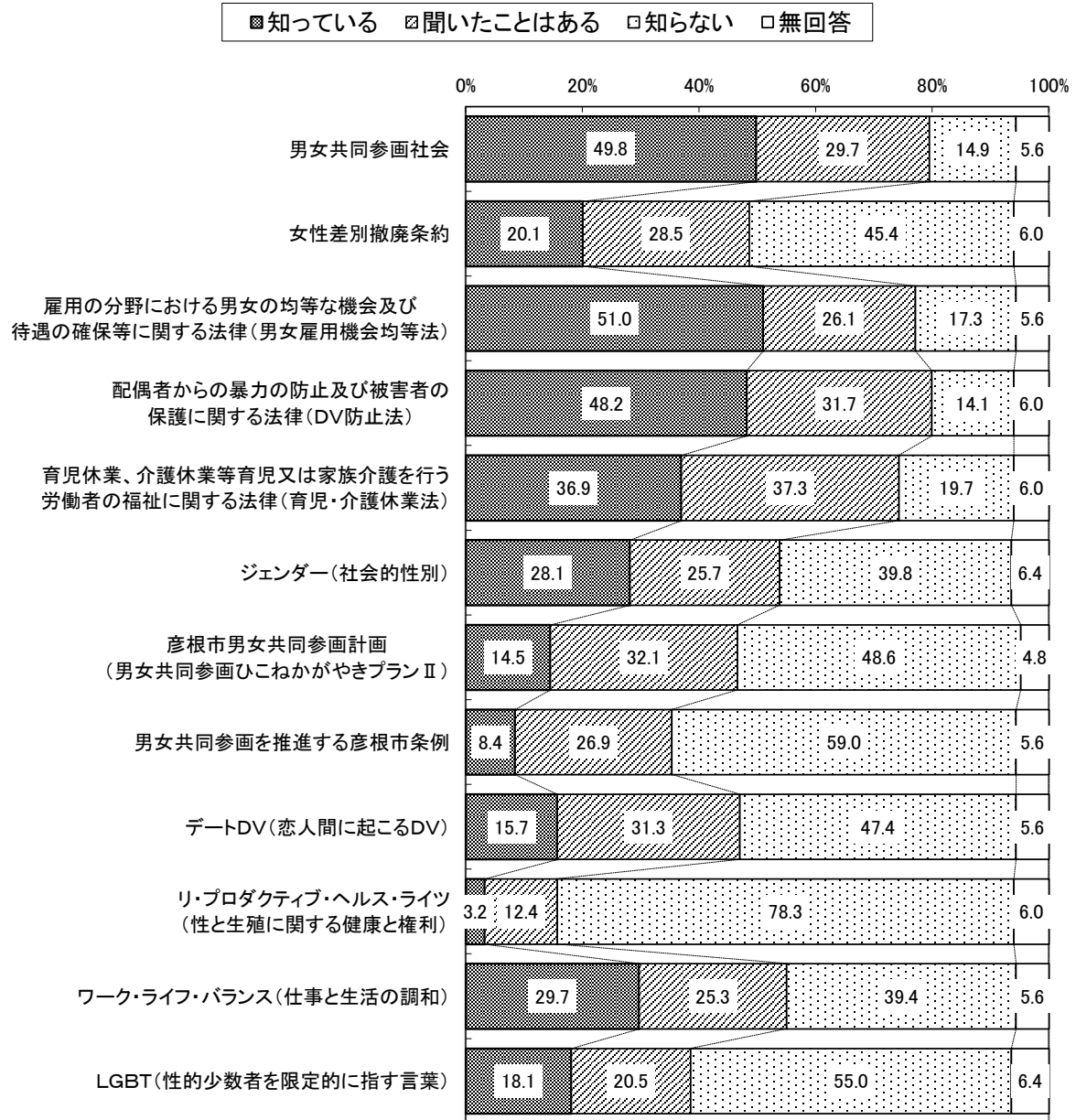
【性別】

「女性差別撤廃条約」については、男性の認知度がやや高い。他の項目については、男女ともほぼ同様である。

認知度【女性】(N=335)



認知度【男性】(n=249)



(3) 男女共同参画センターの認知度と期待する取組

問28 彦根市には現在、彦根市男女共同参画センター「ウィズ」※（所在地：平田町）という男女共同参画の推進を図るための拠点施設があります。あなたはこの施設を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体数 = 586

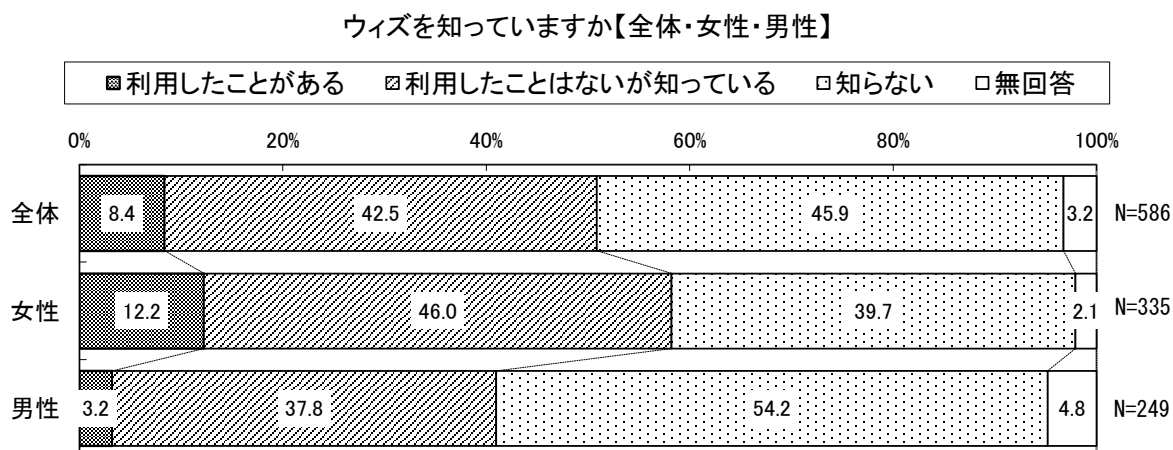
約5割の人が「利用したことがある」もしくは「利用したことはないが知っている」と答えている。

【全体】

「利用したことがある」が8.4%、「利用したことはないが知っている」が42.5%、「知らない」が45.9%となっている。

【性別】

男性の場合、「知らない」が54.2%と半数以上となっている。



問29 男女共同参画センター「ウィズ」に期待する取組は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 586

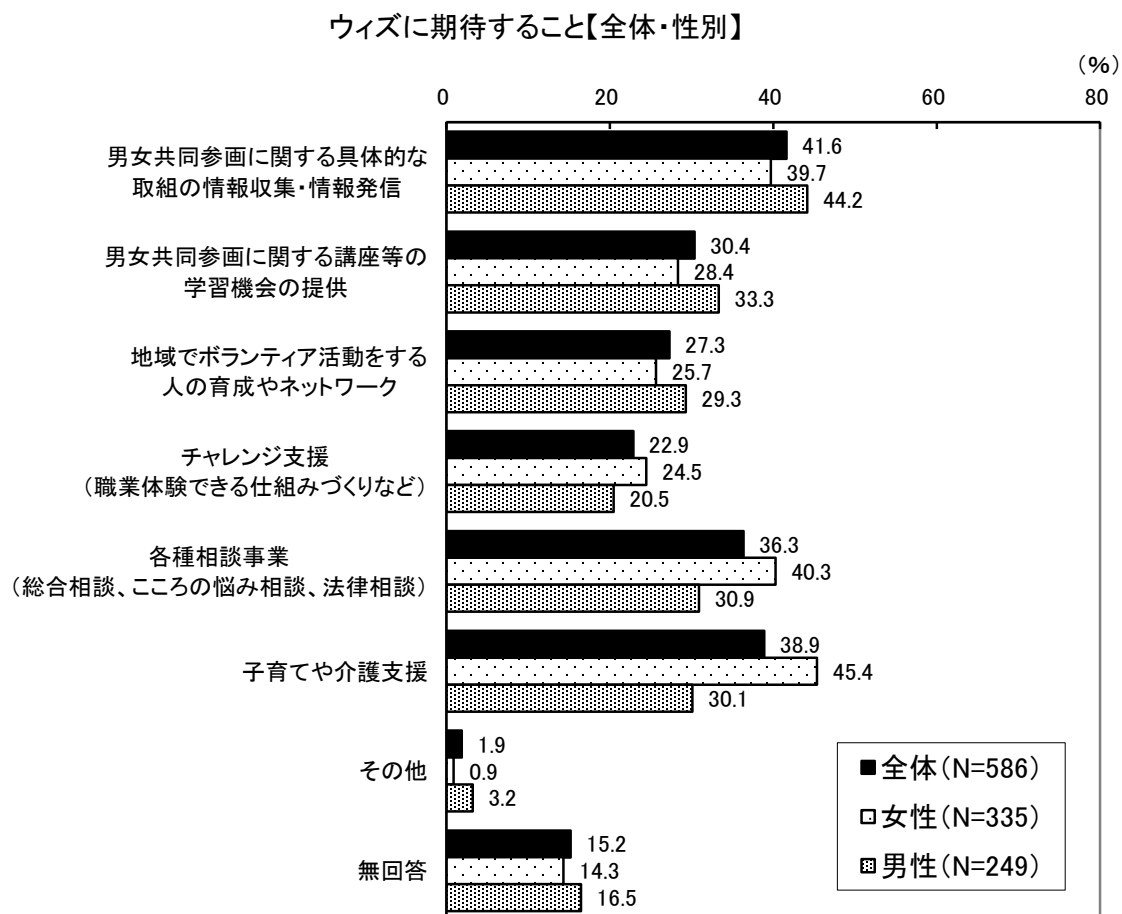
「情報支援」や「子育てや介護支援」、「相談」、が多い。

【全体】

最も回答率が高かったのは、「男女共同参画に関する具体的な取組の情報収集・情報発信」41.6%で、次いで「子育てや介護支援」が38.9%、「各種相談事業（総合相談、こころの悩み相談、法律相談）」が36.3%となっている。

【性別】

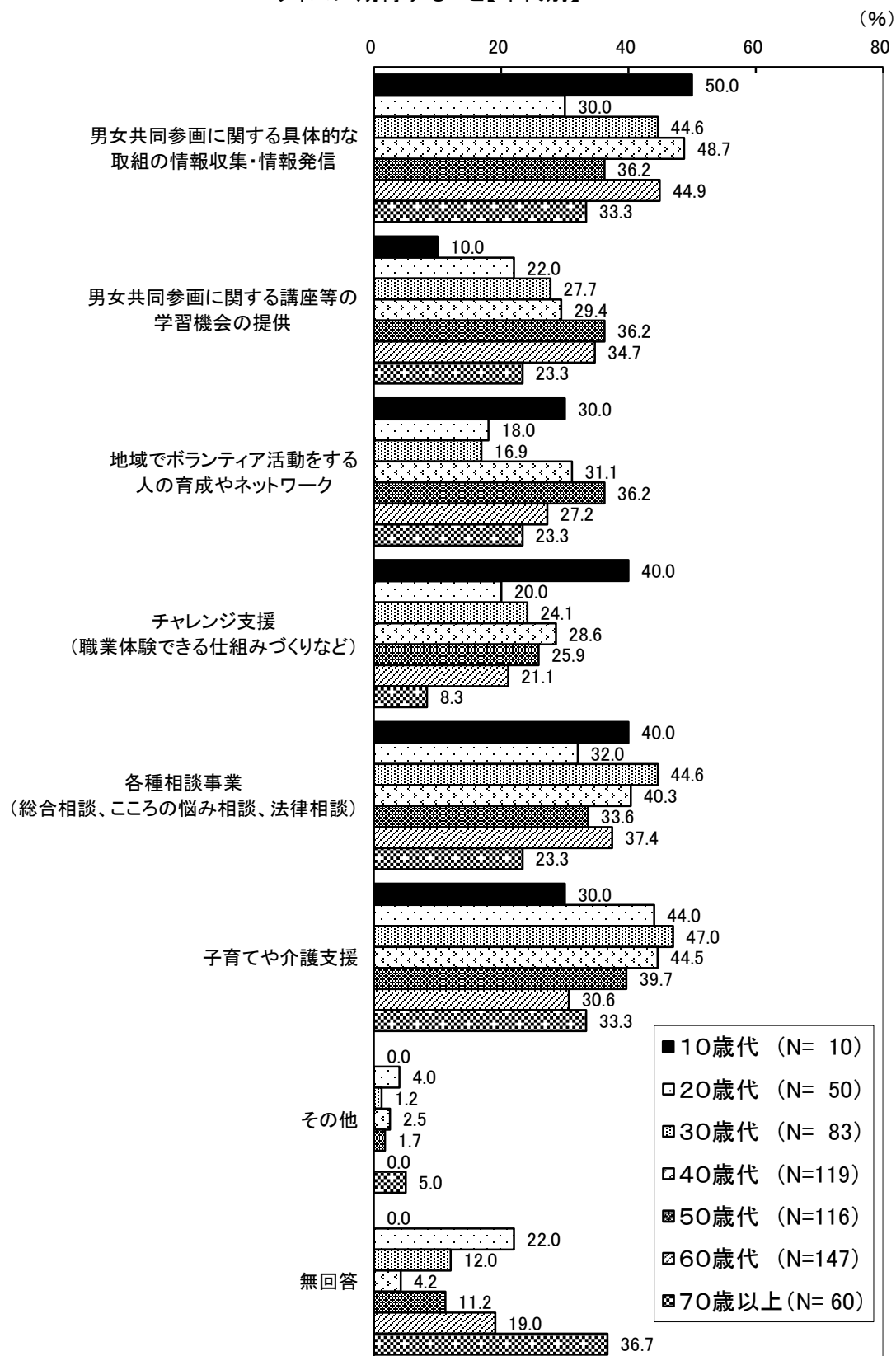
「子育てや介護支援」については、女性が45.4%に対し男性は30.1%となっており、性別で大きな違いがあるものの期待されている。



【年代別】

「男女共同参画に関する具体的な取組の情報収集・情報発信」については10歳代、30歳代、40歳代、60歳代で4割以上、「子育てや介護支援」については20歳代～40歳代で4割以上となっている。「各種相談事業」については10歳代、30歳代、40歳代で約4割の人が期待している。

ウィズに期待すること【年代別】



（４）行政が力を入れていくべきこと

問 30 男女共同参画社会をつくるために、市はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

全体数 = 586

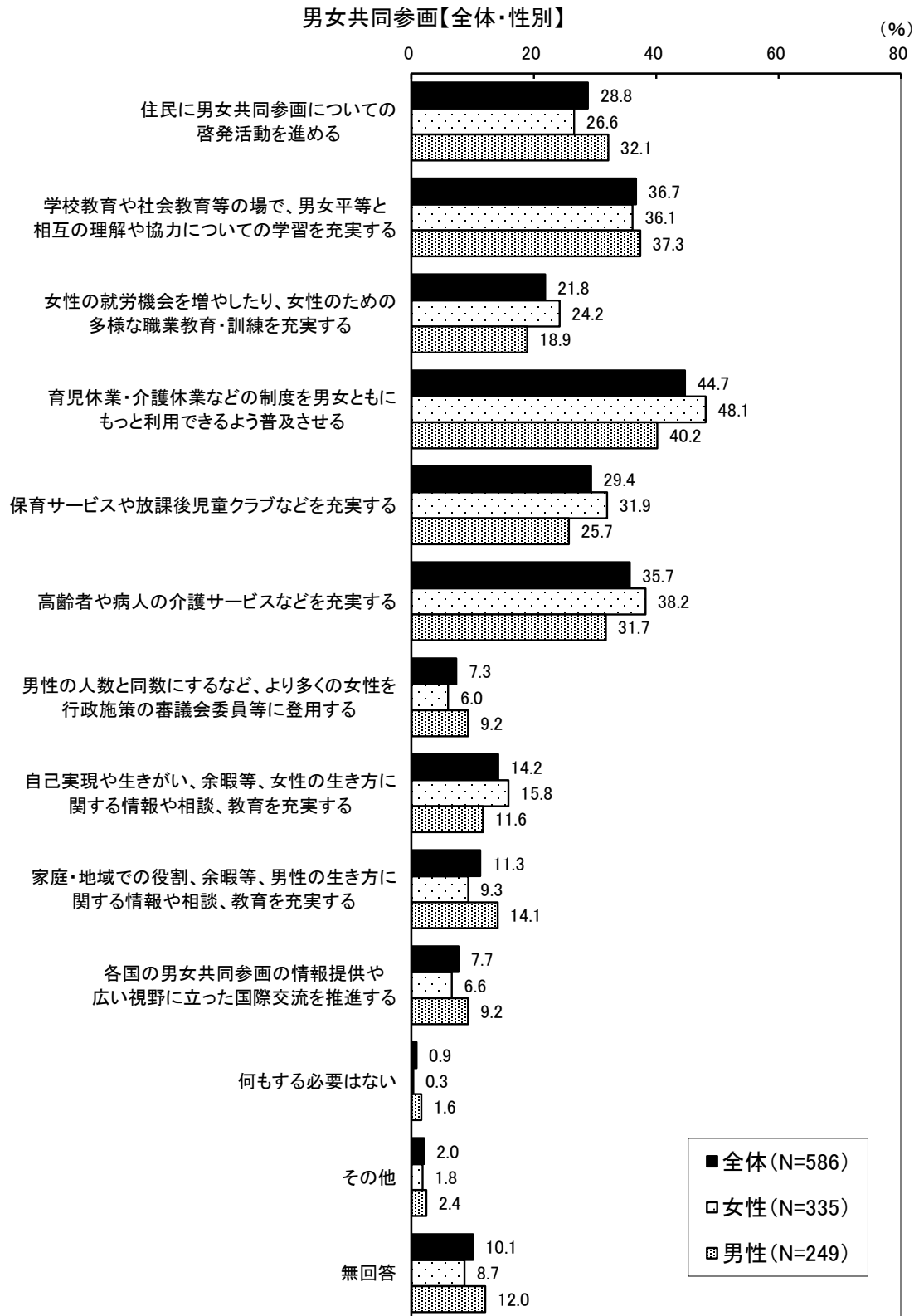
「育児休業・介護休業などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が最も多い。

【全体】

最も回答率が高かったのは「育児休業・介護休業などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」44.7%で、次いで「学校教育や社会活動等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が36.7%となっている。また、「高齢者や病人の介護サービスなどを充実する」35.7%、「保育サービスや放課後児童クラブなどを充実する」29.4%、「住民に男女共同参画についての啓発活動を進める」28.8%の順となっている。

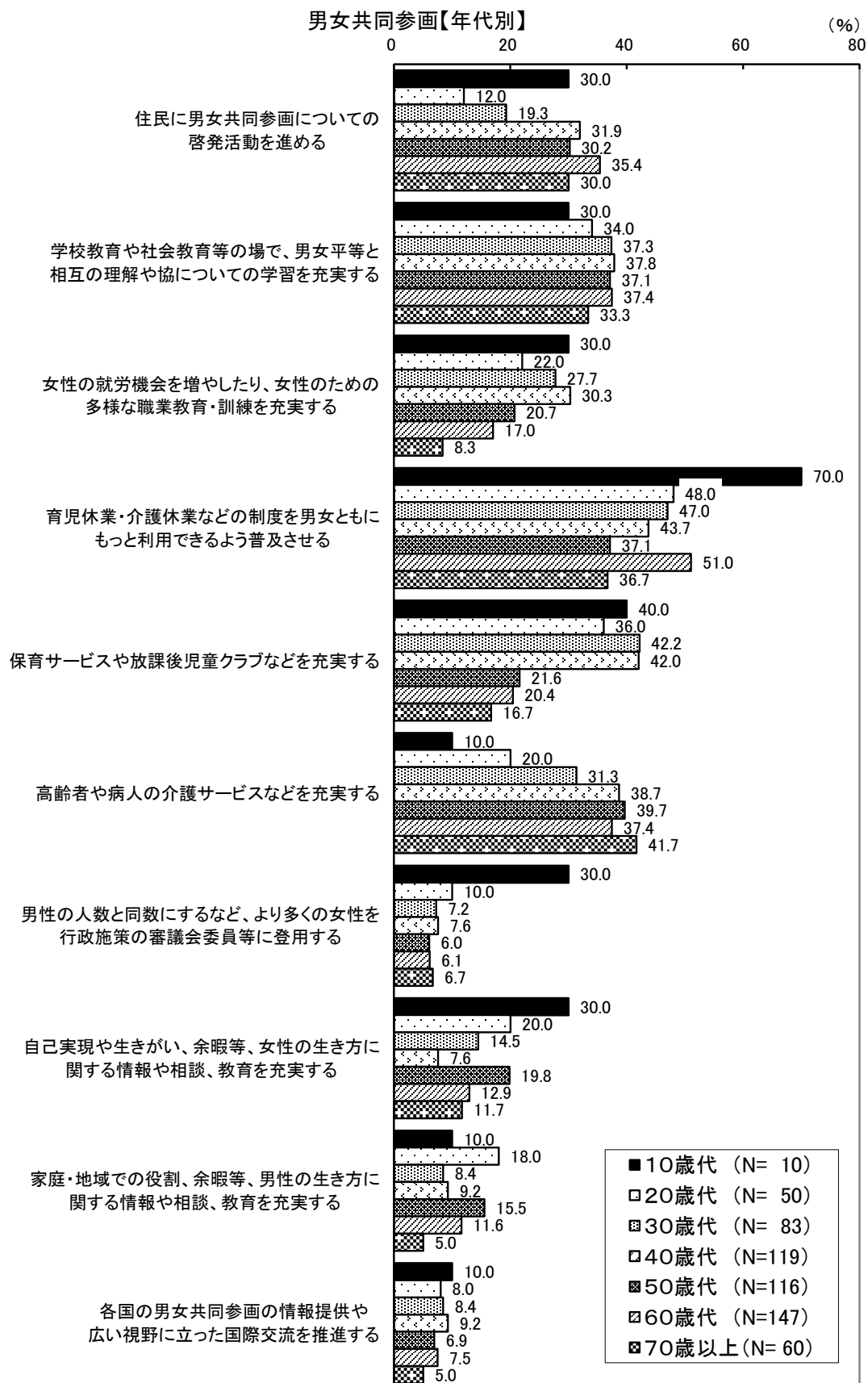
【性別】

性別で大きな違いがみられたのは、「育児休業・介護休業などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」で、女性が男性より7.9ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別では、「育児休業・介護休業などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が10歳代～40歳代、60歳代で多くなっている。また、「学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」についてはどの年代でも3割強となっている。



Ⅲ 自由意見

回答者 586 人のうち、90 件の自由記述を得た。記述内容を分類すると、次のとおりとなっている。

項目	件数（件）
回答数	90
1. 男女の地位・平等について感じる事	17
2. 少子高齢社会	4
3. 職業・就労	20
4. 男女平等教育	3
5. 家庭生活	4
6. 社会参画（地域活動）	3
7. 男女共同参画に関する施策	24
8. その他	15

以下、意見の内容を分類別に列挙する。意見の左の数字は、次のとおりの性別、年齢、職業を表している。

使用言語	1	日本語
	2	英語
	3	中国語
	4	ポルトガル語

性別	1	女性
	2	男性
	3	女性だが、自分の性別に違和感がある
	4	男性だが、自分の性別に違和感がある

年齢	1	10歳代
	2	20歳代
	3	30歳代
	4	40歳代
	5	50歳代
	6	60歳代
	7	70歳代

職業	1	勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）
	2	パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人
	3	農林漁業、商工業、サービス業などの自営業及びその家族従事者
	4	医師、弁護士、芸術家などの自由業
	5	会社役員、法人・団体の役員など
	6	その他
	空白	働いていない人

1. 男女の地位・平等について感じること

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	2		この度のアンケートの機会を得て思い返せば、子供の頃から「男のくせに」という意味の言い方をよくされたことを思い出しました。当然、それには傷ついていましたし、かえって一般的な「男らしさ」を伴った自尊心も失なわれていたかも知れません。しかし、その言い方に違和感を感じていませんでした。今現在、女性に言い換えれば差別と受け取られる発言です。昔から女性に対する差別があったように、男性に対する固定概念もあります。もし、男女共同参画社会について考えるならば、従来のように女性視点からばかり見るのではなく、男性視点から見ることも忘れないで下さい。片一方を重点的に対処しては、かえって差別を助長しかねません。女性差別が無くなる時は、男性差別が無くなる時だと思います。
1	2	2	4	男女共に10代20代は自分の生きたい様にしているが、30代後半から年配の方は固定概念にとらわれている方が多く見られます。「男性だからこうだ」「女性だからこうしろ」というのはやはり30代後半からの方から聞く事が多く、人ではなく性別としか見てないのが問題のひとつだと思います。全ての人に当てはまるわけではないですが、若い人達は自分のやりたい事などを親や周りの大人に潰されてしまう事が多いので、子供でも一人の主張はしっかりと聞くべきです。若い人達を「ゆとり教育はこれだから」と言う方も多いですが、そのゆとり教育を実施したのは自分達世代だという事を忘れず子供達に対し、突き放すのではなく、親身に接する事も大事。
1	2	4	1	男女平等の基本的観点からアンケートが作られているはずなのに、女性の働き方や女性の仕事の続け方について問うなど既に、女性が仕事を辞める前提で問われるのは疑問。我が家は、結婚時より共に働き、所得も変わらない。名義も1/2、家事も1/2、出産は女性が行っているが、他の部分で不都合を感じたことは無い。男女共同であるなら、こういったアンケート項目から男女間の差を無くされては如何か。
1	1	4	1	昔からこの地域では、まだまだ家のことは女性がという見方が強く、共働きで夫が家事などを大っぴらにしていると、かげ口を言われることもある。地域でのそのような考え方を改めていくような、啓発活動が必要だと思う。また、女性が前に出ることも同じように「女だから」といって、遠慮することもあるので、男女ともに平等の考え方をもっと啓発しないといけない。
1	2	5	1	男性が得意な事、女性が得意な事、この認識を自覚した上で活動をされたし。
1	1	5	2	情報誌や広報などで上記の内容を目にする事はあるが職場や地域、家庭では全く実感がない。新しい事業など募集されているのを見ることはあるが、あまり活性化にはなっていない。彦根はとても男性社会であると思う。
1	1	5	2	女性の社会的立場の弱さや不平等は女性自身が生み出していると考え。職場でも社会や地域でも、面倒なことは男性に押し付けて都合よく避ける。女性の地位を向上させようとする意欲がない。女性の考え方をかえていくことが男女共同参画に必要な事と考え。
1	2	5	1	男女共同参画社会の発展、理解、推進について世代別ではまだまだ理解しない人がいることは確かです。職場でも、本音と立前に分けて見ている人がいますが、最近の若い世代等には、男女共同参画について、何の抵抗もなく頑張っているのも確かです。男（夫）は仕事、女（妻）は家事、子育ては過去の言葉であり、世代間を越えて理解してもらう様に今後も頑張ってください。
1	1	6	2	昔からの男性社会を変えるのはなかなかむずかしいと、でも少しでも変われば良いと思います。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	6		田舎では食事からして、差別がひどかった。しかし、一番は女性の中で男につくす事で褒められる（もとめられる）事を望む人もいます。この方法でしか女性としての価値がないという、偏見の中で生きています。このアンケートに記入しても、すぐに見方が変わらないだろうという、あきらめもあります。この市民アンケートを調査している方の中から、出発をしてほしい。彦根市そのものが、男女差別がひどいと思う。
1	1	6		彦根市に限らず、昔と比べると男性が育児や学校行事などに積極的に参加しているように思います。若い年代ほど、その傾向があるように見受けられます。昔ほど男性が特権意識を持たなくなった事が大きい理由だと思います。
1	2	6		私は元大津市の公民館長で、在職中5回の「婚活」講座を開催。のべ160人の男女が参加し、うち判明分として1組のペアが結婚しました。この講座の経験で男女共同参画社会のために必要となる多くの課題などを知りました。（若者の人権）機会があればまたそれらのお話しをすることになれば幸いです。
1	1	7		弱い者としてはやはり、守ってくれる人は上に立って、しっかりとした手伝いが出来る人を選んで守ってほしい
1	1	7		彦根は男女平等まで、まだまだ遠い様に感じます。役所や大企業では進んでいると思いますが、地域では何事をするのも男性が中心。特に高齢者になると男性、女性の差別が大きく感じられます。
2	2	4	6	私たち両方、神によって創り出された人間である、そのため全ての人類はゲイやレズビアンを含めて性別に関係なく平等に扱われるべきである。
4	2	4	1	初めに、日本人の男性優越主義といった、女性は男性より下という考え方を変えるべきです。例えて言うと、職場で女性が男性と同じ仕事をしているのに女性のお給料は男性より少ない、こういったことは不平等だと思います。
4	2	4	1	男性が女性より上であると考えてるのではなく、平等であると社会全体の考えを変えるべきで、長年の歴史からくる男性優越主義も変えるべきだ。

2. 少子高齢社会

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	3	2	男女共同参画が何なのかよく分からない。保育のサービスや高齢社会への対応など、彦根はすごく遅れていると思う。田舎でお金も少ないのかもしれないが、どんどん高齢化がすすむのだから、30～40代が住みたいと思うような町づくりが大切だと思う。子育てしやすいサービスや不妊治療への助成など、または、家を購入する際の助成など、いろいろ見直して欲しい。あと、彦根駅前が開発が下手すぎて笑える。新快速が止まる駅とは思えない田舎感、なんとかして下さい。
1	1	5		男性にしかできないこと、女性にしかできないこと、いろいろあると思います。小さな子どもを預けて仕事するより、子どもを大切に育ててほしい。人生は短いようで長い。子育てが終わってからも仕事はできる。家事も気持ちしだい楽しいものです。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	6		現在は夫、娘、孫、私の４人家族で、一応健康に恵まれ生活の心配もなく、充実した日々を送っておりますが、私の母が他県にて高齢で一人暮らしをしております。９０才になるのも２年先の事。以後の向きあい方を模索中です。ひきとるべきか、それ以外の方法だと私が行く事になり、こちらの生活との兼ね合いが心配です。
3	1	4	3	彦根市役所の皆さんへ：彦根市地域として、高齢者、年金生活している皆さんの課税とか負担が重いと思います。各種課税枠減少工夫して欲しいです。年金だけで暮している皆さんは貰った年金から健康保険料、市民税、介護保険料等いろいろ払って後に残った年金残高が凄く少ない方は結構沢山居ます。今、現在の日本の税金制度は、暮しやすい国とは、感じません。年寄りの方は、生きづらくなっているの、だから年寄り自殺、お互い殺す、自宅火災とか年々増加していると思います。役所として、成績だけじゃなくて、国民の生活とか暮しやすい環境をつくるようお願い致します。

3. 職業・就労

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	2		求職中です。求職活動の中で不便だと感じることはありません。自分から行動できるようになってきました。自分から行動していれば、助けてくれる人や手を貸して下さる方、無料で利用できる場所もいろいろあると分かります。外にでて、初めて感じるのですが、人との関わり合いの中で希望やチャンスが見えて心も明るくなります。これから仕事について考えて、行動してチャレンジしたいと思う気持ちです。そういう明るい気持ちをもっているの、彦根市の就職関係の施設やサポート機関は利用しやすく、良いところだと感じています。一人一人に合ったサポートでその人のライフプランが築いていけると気持ちも明るくなって笑顔が増える街になると思います。ありがとうございます。
1	1	2	1	彦根市の方でも人権について研修会などが実施されているかと思いますが、知人から聞いた話によりますと、立場上のことで相手を見下し傷つけるような発言をされたとの話を聞きました。私の勝手な個人的な意見ですが、雇用形態が違えば、それだけで相手を傷つけるような行為をすることは良くないと思いますので、今後はもう少し一人一人が平等に仕事ができる環境になればと願っております。
1	1	3	2	子供が幼稚園に行っているが、パートをしようと思うと幼稚園に行っている２～３時間しかできない。水曜日は午後保育はないので、月火木金の９：００～１３：００ごろまでのパートタイムとなる。→仕事先を見つけにくい＋理解がない。幼、保一体とするならば、月～金の１６：００くらいまで保育してほしい。あと、城陽小とわかば小学校が合同になるといううわさを聞くが、それは一体いつの話なのかはっきりしてほしい。←ママ達の間では、どちらの小学校に行けば良いのか、パニックです。
1	1	4	1	中小企業は公務員より安い給料、安い待遇で従業員を従事させています。その中から税金を支払いその税金で公務員が雇用されて優位な生活をする。このアンケート用紙も厚みがあり高い用紙ですね。税金を使っているという認識が足りないと思います。経費を見直しませんか？その分福祉にまわせますよ。働きたい人に働く場がある。働ける年齢は人それぞれです。定年っていう制度、必要なのでしょうか。
1	1	4	2	主婦（子育て中、子育て後）が働ける職場環境を増やしてほしい。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	4	1	私自身、独身で仕事優先で働くことができていますが、同職場の主婦パートの方々を見ていると、大変だと思います。子供さんが小さい方は特に職場の理解が必要かと思います。ただ、そのような方々をお願いする仕事は、どうしても内容が限られてきてしまいます。男女共同参画、性別にかかわらずなくということは理想的ですが、根本的に考え方が変わらないと前進するのはむずかしいのかと、今回改めて考えさせられました。
1	1	4	2	女性が仕事を続けるためには家庭での負担を軽減する必要があると思います。労働時間短縮、休業、補助金、施設の充実 etc. 育児、介護、etc、家族で協力して行えるような社会の仕組み作りがされることを望みます。
1	1	4	1	男性も女性も働きながら、育児、介護をおこなうには、様々な条件が整わなければ、できないと思う。就業時間や、休暇などの制度の充実を図り、働きやすくかつ家族にもやさしい、社会体勢をつくって頂きたい。
1	1	4	1	女性管理職の登用を何%にするとかいうのはやめてほしいです。男性であれ、女性であれ、できる人が、能力のある人がやっていたらいい話で、あえて女性の登用をというのはおかしい。能力がないのに、女性の登用が何%いるから、登用するとかになりかねないと思う。
1	2	4	1	育児休暇という言葉が取得しにくい雰囲気をつくっていると思います。
1	2	4	3	私は四十代、働き盛りで残業が多く現在では、時間がありません。もう少し時間のゆとりがあれば良いと思いますが、会社にゆとりがなく、今さらやめるわけにも行かず、頑張るしかありません。
1	1	5	2	「まちづくり」ではないのですが、女性がどんなに働いても、やはり男性と違い下に見られているように思います。会社でも「男性」と言うだけで優遇され責任感のない仕事のやり方をしていても良い収入を得て、下で働く者が上司のフォローをしていても「女」だから「パートごとき」がと言う辛辣な評価しかされず、女性の上司はいつも感情的で場所も考えず自分のイラ立ちを部下にぶつける最低の人間です。それでも生きる為に働かなくてはなりません。そんな上司の元でも仕事を続けなくてはなりません。たった5時間の仕事の中で中抜けで朝2時間、夕方～夜まで3時間しか働けず（会社の一方的都合）5時にはキッチリ退社する上司の代わりに上司が持つ携帯を持たされ、悪戦苦闘する毎日です。時代がどんなに変わっても「女性」に対する評価は変わらないのです。
1	1	5	1	女性が働きやすくするために育休・産休を積極的に取り入れる会社が多くなっている。社会的にも女性側からみてもいい事だとは思いますが、実際の働いている会社では、この育休、産休を悪用する人が増えている。そのしわよせが、いつも穴埋めとして残っている女子社員。当の本人は、もらえるだけもらって辞める。自分が休んでいる間他社員への感謝の気持ちどころか、自分のことしか頭にない若い子が増えている。だから、いつまでたっても男性社会のままなのだと思う。育休・産休問題、男女共同問題は、女性の出産が大きなネックであり、女性に対して甘い制度を設けた所で何の解決にもならないと思う。女性はずるい人間です。甘えたり、楽したり。そんな女性に対して、もっと違った視点から改良していく制度を設けてほしい。
1	1	6		男性、女性共に結婚生活や子育てをしながら社会に関わっていけるためにはゆとりのある働き方ができ、家族の病気等の時には、休みが男・女共に取りやすく、また残業なども減らして若い人達も家族の問題や地域や学校行事に参加しやすいような社会にするように男女共同参画の前進に期待しています。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	6	1	一般的に女性の働き方は複雑化しているといわれる。共同参画は必要なことだが、「すべての女性が積極的に」というと、負担に感じる女性が多くいるのでは。キャリアウーマン、家庭を大事にしたい人、仕事も家庭もという色々な選択のどれをとっても、その人が生きがいのある人生を送れば良いし、途中でルートを考えることもできる社会でありたい。
3	1	2		外国人に就職のチャンスを増やして。お願いします。
3	1	3		幼稚園と保育園を統一すべきと思います。保育時間を18:00までにすれば、女性が働きやすくなると思います。
4	1	4	1	女性がもっと活躍できる職場づくり、そして、女性と男性のお給料の差をなくすべきと思う。
4	2	5		平等で差別や偏見なく活躍できる職場が男性、女性問わずにあるべきだ。
4	2	4	2	女性がもっといい給料を受け取る必要がある、なぜなら、家庭を支えなければならないから。また、男性の方々も経済的支えがあれば、残業時間を減らし、家族の世話をすることができる。もっと多くの保育園、幼稚園や給付金があると親は時間とお金の管理に余裕ができ、より家族の面倒を見ることができて、息子のことで心配なく働ける女性の方がよりいい仕事ができスキルアップになると思う。

4. 男女平等教育

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	3	5	講演等に多額の税金をつかうより、学校や、会社等で実際にどのように平等でないか、平等にできるか。施設などでシステムの整備をするべき。相談担当者については教育がたりないと以前感じた。福祉、社会学程度は最低でも勉強しておいて欲しい。刑法等もさわりだけでもわかっている人材にして欲しい。
1	1	4	1	学校、職場では変わりつつあると思うが、地域はまだまだという印象をうける。若い世代への教育は未来に対して大切であるが、今現代高齢者への教育が必要だが、したところで改善は難しいと思う。
4	1	4	2	幼い頃から男性と女性は平等であることを教育する。

5. 家庭生活

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	3	1	保育所の時間延長や数を増やすなど、育児負担を減らさないと男女共同参画は達成できないと思う。本人の意志の問題もあると思う。よって、制度や市の機関だけの問題ではないので、時間がかかると思う。
1	1	3	1	一般的に子どもが親を必要としている割合が 母7:父3 くらいが多い気がする。男女平等に仕事をしようとしても、子が母を求めるので不可能。子どもは幼児期が大変そうだという気がするが、小学校1年になると、親もプリントや宿題や行事を理解するのが大変だし、帰りも早くなったりで急に大変になってくる。学童に入れても正社員だと目がいき届かない。0～7歳くらいまでは、まわりの手助けがすごく必要である。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	3	1	子育て世代においては、働く女性、家事、育児をする男性が増えているように思います。ただそれは男性一人のお給料では食べていけないから、女性も働きに出る、また二人が働いているから、家事、子育てを分担せざるを得ない…という状況によるものともいえます。私自身も子どもが小さいうちは家にいたい、という思いがありながらも、仕事を続けてほしいという夫の意向や育児休暇が3年までということもあり、復帰せざるを得ませんでした。仕事をしながら家事も子育ても…となると、体力的にも精神的にも負担が大きく、結局は女性が担わざるを得ない。イクメンやカジダンなどと、もてはやされていますが、今後は、家事や子育てに参加する（手伝う）ことから、質、量ともに分担することへすすんでいけばいいな…と思います。仕事をしたい女性は仕事をするし、子育てに専念したい人は専業主婦ができる。一度仕事をやめても、自分に合った仕事を見つけやすい社会になればいいな、と思います。
1	1	3	2	問30-3だが女性の進出は、良いのだが、子どもをどうするつもりだろう？女性進出により、子どもにシワよせがいき、手のつけられない子は、親がみない、むき合わないのが現状で、男女と、子どもがプラスされるのは、いつなんだろう？子ども達は、朝7～夜8時までの長い時間親から離される現場の中で育成され、まともに育つのか心配。低年齢からの育成を目指すのであれば、精神の土台作りのために、動いていくべきだと思います。親が社会に進出するたびに子どもをどうするかをきっちり考えた方が良いと思う。

6. 社会参画

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	4	1	自治会の会長、副会長が、当たり前のように男性が選ばれていた、このアンケートで男女差別的なものが、根深くあると考えた。体力的な部分もあるので男女共同参画も難しい問題である。
1	1	6		仕事（会社）等で働いていると情報が得られますが、定年になり、外部とのかかわりが少なくなると知らない事が多くなります。地域ボランティアの人を増やし参加しやすくなる様な情報、家庭をまわる事も大事かと思います。
2	2	5	6	生活状況に関係なく社会全体の全ての男女がボランティア活動を行う男女平等の日は、日本のカレンダーに休日として含まれるべきである。

7. 男女共同参画に関する施策

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	3		・幼稚園、保育園の情報をもっと発信してほしい。・幼稚園、保育園の入所者枠を増やしてほしい。・幼稚園、保育園の利用をしやすくしてほしい。（駐車場の確保（送迎時の））・再就職支援を充実させてほしい。（育児のため退職してしまった後、小さい子を持った状況で時短で働きやすい職場が希望）
1	2	3	1	保育サービスや介護サービスの自己負担を引き下げる事。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	3		転入して1年なので、詳しい行政サービスなどまだよく理解できていません。ただ以前いた東京都杉並区に比べ、各サービスの内容及び機関の充実度は、まだまだ足りないと思います。
1	1	3		・女性が働く時に、子供を預ける保育園が必要となりますが、日曜や夜間も預かってもらえる所ができれば、良いと思います。・近くに親が住んでいないと、自分の体調が急に悪くなった時子供をみてももらえず、大変。緊急の時に、みてももらえる場所があればよいなあとと思います。
1	1	4	1	性別にかかわらず自分の人生を生きられる時代にはかなりなってきたとは思いますが、まだ女だからとか女のくせにとかの言葉を耳にします。子供達のことを思うと少しずつでも前に進めていけたらもっと男女共同参画のまちの実現につながっていくと思います。いろんな情報発信、お願いします。
1	1	4	2	ウィズの企画は広報をみてもいつも目にとまります。非常に興味深い物が多くて何かモチベーションが沸きます。そして自分がやってみたい事につながる様なワクワク感があり、講師の先生方も私たちにエネルギーやパワーを与えて下さる方が多いので行っただけの価値を感じます。これから先、自分がどう生きたいのかという問いかけから、いざ実際にその一歩を踏みだせない。或いはあと階段を一歩登ってしまえば、自分の中にある先の世界が見えそうなのだけど、この背中を押してくれる「ここまで来たらやってみよう」という講座等があれば更に女性の時代がやってきた実感を得られそうだなと思えそうです。“一人ひとりが輝いて生きられる”素敵です彦根。
1	1	5	1	私の子育ての時期には、保育園ではなく（入れなかったの）幼稚園へ通わせていましたが、時間が短く、水曜日などは半日のため、働くことはできませんでした。同じ頃、名古屋に住む友人は、預り時間の延長制度があり、6時頃まで、申請すれば大丈夫とのことでした。彦根市は、ずいぶん遅れているなと感じていました。小学校へ入っても学童保育は低学年のみで、中学年以降は子ども達だけ留年番させることになりました。非常に子どもを持つ女性にとって、働きにくい環境です。ですから当時民間NPOの「ドリーム」さんによくお世話になり、大変助かりました。彦根市は、これから老人人口が増えていくのですから、空き家などをうまく活用して、子育ての終わった中年～初老の方々が、子どものお世話をする場など普及すれば、お母さんも安心して定時まで働けますし、お年寄りの認知症予防にもなるのではないのでしょうか。余裕のない母親のストレスは子どもに向かいます。働いていても家事はほとんど母親の役目でしょう、どうぞ彦根市に住んで頑張っている女性のために公共の支援を充実させてください。お願いします。PS、時々このようなアンケートで、民間の実態を吸い上げて下さい。
1	1	5	1	法律や制度は徐々に充実して来ていると感じるのですが、実態はまだまだ伴っていないと思います。男女共に意識改革が必要だと思います。市としての活動であるなら、もっと女性を活用すべきだと思います。今回、このアンケートを頂いて初めて、彦根市の副市長に女性の方が就いておられる事を知りました。そのような要職にある女性の方の活躍を市民の目に見える形でアピールして頂きたいと思います。私の職場でも、それなりに大きな会社ですが、女性の管理職は少ないです。男性より能力のある女性が低い評価に甘んじている現状があります。女性にもっと多くの機会を与えるしかけがあればと思います。←これは責任を与えるということではありません。女性がどんどん表舞台に立てる風潮という意味です。
1	2	5	1	自由に参加出来るウィズの会（週1）、出来るだけ多くの人々に知っていただけるようにする（広報等）、もっと情報を提供する。何をしているかわからないため、ローカルTV・びわ湖放送にて週1で、何時～何時に流れている等でわかってもらう。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	5	1	彦根市の男女共同参画のまちの実現に対して、・具他的な施策・その効果、成果、成功事例・国、県、企業との協同体制・住民への直接的な支援、サポート、などが見えてこない。他市町村と比較して、特別に強化、推進されているようにも思えない。「ウィズ」なども廃止して、直接的に成果、効果を創出できる分野に優先的に資源（税金）配分すべきである。
1	2	5	1	職場では比較的、制度面、人事、意識進んでいるが（女性活躍委員会、各職場での代表独自の取り組み、滋賀銀行）、地域、行政はまだまだこれからの認識ギャップがある。各々の異性の特性に立脚して、役割を自覚し、制度面、協力態勢を整えた上で、1つ1つ実現していくことが寛容。器を作っただけでは抜本的対策もならない。
1	1	5	1	滋賀、彦根は住みやすいまちだとは思いますが、溝掃除だけは不思議です。重いし危険です。全国的に見れば行っていない自治体が多いのではないのでしょうか。女性の一人暮らし、高齢世帯でも気がねなく暮らせるようにご配慮をお願いします。
1	2	6	1	活動内容の実態がよくみえてない、わからない。定期活動はどのような形で発表されているのでしょうか。私が知らないだけなのでしょうか。
1	2	6		現在、60歳代であるが、一連の熊本地震で、草刈り機や燃料を積載して熊本県へ赴き、草刈りや道路補修等の作業を手伝う経験をしたが、現地では、性別や年齢に関係なく、日々、余震に怯えながら、各人に合う作業を分担して復旧に懸命であった。他府県から参加した者に対して、特に高齢者や女性からお礼の言葉が寄せられた。被災地や災害地では男女の協力やその場に居る者の協力が不可欠であるが、彦根の現状を見たとき、危機感の薄さや「表に出さない事案」の体質が見受けられる。担当する部署は、今一度「掘り起こし」に着目して、市民から、いかにして「情報を吸い上げるか」を検討していただき、把握が困難とされる人権侵害事案について、工夫とともに熱意を示していただきたい。また社会参加活動は、リタイヤした人間であっても「何か参加したい」と思う者が多く、生命や負傷の懸念を重視するあまり消極的であるが、男女共同参画は、これまでの既成を打破していただき意欲のある高齢者をあらゆる面で活用していただきたい。
1	1	7	1	多様化するライフスタイル、個別化するニーズに丁寧に対応しながら、実現に向けてすすめていって下さい。
1	1	7		ウィズでどんな活動をしているのか、知りたいと思いました。
1	1	7		まだまだ男女共同参画の浸透が？と思います。空まわりしている感を否めません。気軽に参加出来ないと感じます。今回の設問で答えるのに困ったところもありました。（年令的に）共同参画の底あげと言うか、まだまだこれからではないのでしょうか！但し、意欲的に取り組んでおられる方もあることを知っていますが少数です・・・。価値感の多様化で難しい部分もあるように思います。
1	1	7	3	一人ひとりが輝いて生きられる、男女共同参画のまちの実現。とても必要なことすばらしいことです。しかし彦根に根づく古い考えと言うのか、出る杭は打たれるのごとくが現状と思います。あらゆる場所において男女共同参画のためのまちづくりが一人一人の市民に納得のいく方法で広められ、ある一部の人のものでないようになりたいと思います。自主的に行動できる人ばかりではありませんので。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	1	7		社会が変化しつつあると言っても、まだまだ男性視点から創り上げられた制度や意識が定着しています。物事を企画決定する段階に、今まで机の下にあった意見を、机上にのせて話し合う場が増える様希望します。社会を構成する半数が女性だと考えると、もっと女性の視点（若者の視点も）が制度や運用に取り込まれてよいと思います。成長の段階に合わせて、男も女も自立した生き方を念頭に学習を深め、誰もが自分らしい人生を送れるまちづくりの基本構築と、行動推進をお願いします。
2	1	3	1	・プロの女性たち（医者、エンジニア、副市長）が中学生たちに進路指導の日に話をする機会を設ける。・広報ひこねに、専業主夫や女性溶接士などのユニークな役割を持った人々を載せていく。・学校で席、整列、体育の授業などで男女を分けるのをやめるべき。・すべての学生が制服について自分たちで決められるようにする。（女子学生にズボン、男子にスカートなどを許可）・彦根にあるすべての会社に対してワーク・ライフ・バランスについての調査を行う。その中で、全職員の定時退社、男性の育児休暇、子どものために早く帰社することが認められているなどの成功例を公表する。・ワーク・ライフ・バランスを促進する会社に対しての税の控除・育児に最も理解のあるビジネスや、ワーク・ライフ・バランスに最も積極的なビジネスなどに対しての投票を行う。
2	1	3	2	たくさんの方が男女平等を知らないので、特に外国人に対して情報提供や講演を行うこと。男女平等に給料が提供されること。
2	2	4	6	10代の2人娘の父親として、彦根の計画を応援しています。数十年前から男女平等計画が存在していなかったことに驚いています。
4	1	3	1	残念ながら、私は地域問題についての知識はありませんが、こう言った問題の解決には外国人同士がもっと義務や権利に関する情報交換することはとても大事です。こういった支援または利用の仕方についてあまり知られていないと思います。（私はこの地域にきてまだ間もないです）
4	1	4	1	もっと情報提供や啓発を社会に向けてするべきだ。

8. その他

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	2	1	期待してます。
1	1	2		今回のアンケートで知らないことが多くあることが分かりました。もう少し興味をもって考えていく必要があると思いました。性別差別が彦根市からなくなる日が来ることを望んで、男女共同参画にも今後目を向けていきたいです。
1	2	2		ぼくは、20代学生です。こーゆうアンケートは25歳以上の社会人にすべきです。あとからハガキが届きました。税金のむだ使いです。二重も送るのはもったいないです。
1	2	3	1	彦根市はとても良い町です。ありがとうございます。

使用言語	性別	年齢	職業	◆自由記述
1	2	3	1	男女共同参画の目標がよく分からないのですが、「人々が過ごしやすい環境を築いていく」という目標の1つととらえております。私は男女共同参画を進めていくことで人々が過ごしやすい環境になっていくとは考えておりません。人間はとても複雑です。一人一人、全て違います。人が人を助けるということは自分の人生を捨てるくらいの覚悟が必要です。そして、それを政治・行政が行なうことは不可能だと思います。私は一番大切なのは、人がなぜ他人と自分を比べてしまうのか、そして、それによってどうして不幸を感じてしまうのか、そうしたことを考える、大切さを皆さんにお伝えすることだと思います。
1	1	4		私の住所は、彦根市になっていますが、結婚をしていて、米原です。それが、色々な事情で、わかりません。ややこしいのです。どうしたらよいかわかりません。今は、働いていませんが、いずれは働こうと思います。車も乗っています。色々な事を考えていると頭痛してきて、こんがらってしまいます。だんなのお義母さんも一人住んでいて、近くに住もうと思って考えています。これからもよろしくお願いします。字が上手く書けなくてごめんなさい。
1	2	5	1	男女同一アンケート質問は回答しづらい。女性中心のアンケート内容＜作成者が女性＞。男性にも、共同参画の場が不足している問題がある。
1	1	6		あまりむずかしいことは、分かりません。こんな回答ですみません。
1	1	6		アンケートに回答させて頂きましたが、まだ実体がわかりません。もし仮に何か困った事があって相談しに行った時には、本当に力になって下さるのですか？たぶんお役所仕事（世間で言う）でそれは何日までに期間があるとか、そんなのは無理です、とかおっしゃるのでしょうか。実際、お知り合いの方の御主人が病気で困っておられて、奥さんが相談に行ったら、木で鼻をくくった返答が返って来たとききました。本当に困って相談に行っているのにひどいとおっしゃっていました。市民から血税を取って運営されているんだったらもっと融通のきく対応をお願いいたします。
1	1	6	2	市民が行政への相談をもちかけた時幅広い知識を伝えてくださる職員の方々が必要とされます。窓口で、門前払いのような形で、涙している人々がいる事を知ってほしいです。
1	2	7		全て平等にと言うのは少々無理と限界があるのでは…？
1	1	7		高齢のため一部返答は出来ませんので了承して下さい。
3	1	4		おつかれ様！！がんばって！！
4	1	4	1	まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。イエス様を愛して！日本のために祈ろう。イエスはあなたを愛しています。世界のために神にお願いしよう、神の恵みがあなたにありますように。主をおのが神とする国はさいわいである。主がその嗣業として選ばれた民はさいわいである。詩篇33章12節
4	1	4	1	一番必要なことは尊重の気持ちです、特に一つ一つのケースの必要性に応じて。

IV 資料編

(調査票)

男女共同参画社会づくり のためのアンケート

ご協力をお願い

平素は、彦根市の市政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

彦根市では、男女が共に社会参画できるまちづくりを目指して、「彦根市男女共同参画計画」を策定しており、平成 28 年度に計画の中間年を迎えます。

そこで、皆様から男女平等に関する意識や実態などをお聞きし、男女共同参画計画の基本施策立案に反映していくことを目的に、アンケートを実施することとしました。

このアンケートの対象者は、市内にお住まいの 18 歳以上の方とし、その中から 1,500 人を無作為に抽出させていただきました。

回答は無記名ですので、個人が特定されることはありません。また、結果は統計データとしてのみ使用し、他の目的に使用することはありません。

本アンケートの結果は広報などを通じて公開する予定です。ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 6 月

副市長 山 根 裕 子

(彦根市男女共同参画社会づくり推進本部長)

性別にかかわらず、多様な生き方が認められ、
一人ひとりが輝いて生きられる。
そんな男女共同参画のまちをめざすために、
あなたの声を聞かせてください。

◇◇回答用紙の記入にあたってのお願い◇◇

1. このアンケートの回答は、封筒の宛名ご本人にお願いします。
2. 「その他（ ）」にあてはまる場合は、その具体的な内容を（ ）内にご記入ください。
3. ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて 7月4日（月）までにポストにご投函ください。
4. 切手は不要です。

■本アンケートに関する問い合わせ先■

彦根市 市民環境部人権政策課男女共同参画係

TEL 0749-30-6113（直通）

FAX 0749-24-8577



あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別は。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 女性 | 3. 男性 |
| 2. 女性だが、自分の性別に違和感がある | 4. 男性だが、自分の性別に違和感がある |

問2 あなたの年齢は。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 3. 30歳代 | 5. 50歳代 | 7. 70歳以上 |
| 2. 20歳代 | 4. 40歳代 | 6. 60歳代 | |

問3 あなたは結婚されていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 結婚している ⇒ 問4へ |
| 2. 離別・死別 ⇒ 問4へ |
| 3. 結婚していないがパートナーがいる ⇒ 問3-1へ |
| 4. 未婚 ⇒ 問3-1へ |

問3-1 問3で「3. 結婚していないがパートナーがいる」または「4. 未婚」とお答えの方におたずねします。あなたは今後、結婚したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | |
|--------------------------|
| 1. 結婚したい（するつもりだ） ⇒ 問3-3へ |
| 2. 結婚したくない ⇒ 問3-2へ |
| 3. まだ考えていない（わからない） ⇒ 問4へ |

問3-2 問3-1で「2. 結婚したくない」とお答えの方におたずねします。その理由はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|-----------------------|
| 1. 束縛され自由がなくなるから |
| 2. 責任や負担が重くなるから |
| 3. 家事・育児の負担が多くなるから |
| 4. 介護の負担が多くなる |
| 5. 仕事がしにくくなるから |
| 6. 付き合いが増えるのでわずらわしいから |
| 7. その他（ ） |
| 8. わからない |

問3-3 問3で「4. 未婚」を選び、問3-1で「1. 結婚したい」とお答えの方におたずねします。現在結婚しておられない理由はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 出会いやきっかけがなかったため | |
| 2. 金銭的な余裕がなく、人生設計が描けないため | |
| 3. 結婚後の介護や子育てに不安があるため、結婚に踏み切れない | |
| 4. その他 (|) |
| 5. わからない | |

問4 あなたと一緒に暮らしているご家族は。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 4. 三世代世帯（親と子と孫） |
| 2. 一世代世帯（夫婦のみ） | 5. その他の世帯 (|
| 3. 二世代世帯（親と子ども） |) |

問5 お子さん（別居している子どもを含む）がいいらっしゃる方におたずねします。どの年代のお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（平成28年6月末日現在の年齢・状態でお答えください。）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 6. 高校生、大学生、大学院生 |
| 2. 幼児（1歳～小学生未満） | （高専、短大、専門学校を含む） |
| 3. 小学生（1年生～3年生） | 7. 学校を卒業した未婚の子ども |
| 4. 小学生（4年生～6年生） | 8. 結婚した子ども |
| 5. 中学生 | |

男女の役割分担に関する意識についておたずねします

問6 「家事、育児や介護などを男女で分担する」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 賛成（性別にかかわらず分担すべき） | |
| 2. どちらかといえば賛成 | |
| 3. どちらかといえば反対 | |
| 4. 反対（女性ができるかぎり担うべき） | |
| 5. その他 (|) |
| 6. わからない | |

問7 あなたに今、子どもがいる、いないは別にして、子どもの育て方の中で特に必要だと思うものを①男の子、②女の子それぞれについて、お答えください。

① 男の子の場合、特に必要だと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 素直さ | 6. 決断力 |
| 2. 人への思いやり | 7. リーダーシップ |
| 3. 約束を守ること | 8. あいきょう |
| 4. 自立心 | 9. 学力 |
| 5. たくましさ | 10. その他 () |

② 女の子の場合、特に必要だと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 素直さ | 6. 決断力 |
| 2. 人への思いやり | 7. リーダーシップ |
| 3. 約束を守ること | 8. あいきょう |
| 4. 自立心 | 9. 学力 |
| 5. たくましさ | 10. その他 () |

就労や、仕事と生活の調和についておたずねします

問8 あなたは現在、収入を得て働いていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(なお、出産・育児・介護などの休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 働いている | ⇒ 問8-2に進んでください |
| 2. 働いていない | ⇒ 問8-1に進んでください |

問8-1 問8で「2. 働いていない」とお答えになった方におたずねします。無職の内容は次のどれですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 家事に専念 | } 問10に進んでください |
| 2. 学生 | |
| 3. 求職中 | |
| 4. その他の無職(年金生活、家事手伝いなど) | |

問8ー2 問8で「1. 働いている」とお答えの方におたずねします。あなたの職業はなんですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 勤め人（会社や団体、公務員、学校などの勤め人）
2. パート・アルバイト、嘱託、派遣など臨時の勤め人
3. 農林漁業、商工業、サービス業などの自営業及びその家族従事者
4. 医師、弁護士、芸術家などの自由業
5. 会社役員、法人・団体の役員など
6. その他（ ）

問9 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、現在のあなたの満足度はいかがですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 満足している
2. もっと仕事を優先したい
3. もっと家事や育児・介護を優先したい
4. もっと趣味やプライベートを優先したい
5. その他（ ）

問10 仕事と生活の調和がとれた多様な暮らしのために、職場の環境や制度として、今後、どのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んで○をつけてください。

1. 残業や休日出勤がないこと
2. フレックスタイム制度や在宅勤務など柔軟な働き方ができること
3. 育児休暇・介護休暇が取れること
4. 子育て期に短時間勤務ができること
5. 子どもが病気の時や学校行事の時に休みが取れること
6. 事業所内保育所が設置されていること
7. 上司の理解があること
8. 職場の同僚の理解があること
9. 仕事にやりがいがあること
10. 先輩や上司にお手本となる人がいること
11. 復職を支援する制度があること（情報提供、技能訓練、学習支援など）
12. その他（ ）

問１１ あなたは女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。あてはまるものに１つだけ○をつけてください。

- １．結婚しないで働き続ける
- ２．結婚するが、子どもを持たずに働きつづける
- ３．結婚し、子どもを持ちながら働きつづける
- ４．子どもができたら育児のためにいったん休んで、その後職場に復帰する
- ５．結婚や出産を契機に退職し、子どもが大きくなってから再び働く
- ６．結婚前・後とも働かない
- ７．その他（ ）
- ８．わからない

問１２ あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。３つまで選んで○をつけてください。

- １．女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
- ２．育児や介護のための施設や制度を充実させること
- ３．保育サービスや介護サービスの利用の自己負担額を引き下げること
- ４．女性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること
- ５．男性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること
- ６．育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること
- ７．男女間の賃金格差をなくすこと
- ８．男女が共に労働時間を短縮し、日常的に男女が共に家事・育児・介護を分担すること
- ９．女性にも責任ややりがいのある仕事を任せること
- １０．職務上必要な知識、技術などについて女性社員の教育を充実させること
- １１．パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること
- １２．在宅勤務やフレックスタイム制（始業と終業時刻を労働者の意思で決定できる勤務体制）をもうけること
- １３．その他（ ）
- １４．特に条件整備は必要ない
- １５．わからない

問13 現状では、管理職（意思決定を行う専門的部門や指導的地位のことを言います。）につく女性が少ない状況にありますが、その最も大きな理由としてどのようなものがあると思いますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

1. 女性自身が 管理職につくことに消極的だから
2. 女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから
3. 女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから
4. 女性は、能力的にみて管理職に向いていないから
5. 女性は、管理職に必要とされる能力（知識や経験、判断力など）を高める機会が少ないから
6. 会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
7. その他（ ）
8. わからない

結婚されている方、パートナーと暮らしている方に家庭のことについておたずねします。

問14 あなたの家庭は共働きをしていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

問15 あなたの家庭では、次のようなことを、主にだれが分担していますか。①～⑪それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

項 目	主に夫	主に妻	共同と で妻の	その他の人	該当から しない ・
① 生活費をかせぐ	1	2	3	4	5
② 日々の家計の管理	1	2	3	4	5
③ 掃除	1	2	3	4	5
④ 食事のしたく	1	2	3	4	5
⑤ 食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5
⑥ 洗濯	1	2	3	4	5

⑦ 買い物	1	2	3	4	5
⑧ 子育てや子どもの世話	1	2	3	4	5
⑨ 保育園や学校行事への参加	1	2	3	4	5
⑩ 家族の介護、看病	1	2	3	4	5
⑪ 自治会等の地域活動への参加	1	2	3	4	5

問１６ 家庭内における次のようなことを、男性、女性はどのような関わり方がよいと思いますか。①～⑪それぞれの項目について、あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

項 目	主に夫	主に妻	夫と妻 共同で	その他の人	該当から しない・
① 生活費をかせぐ	1	2	3	4	5
② 日々の家計の管理	1	2	3	4	5
③ 掃除	1	2	3	4	5
④ 食事のしたく	1	2	3	4	5
⑤ 食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5
⑥ 洗濯	1	2	3	4	5
⑦ 買い物	1	2	3	4	5
⑧ 子育てや子どもの世話	1	2	3	4	5
⑨ 保育園や学校行事への参加	1	2	3	4	5
⑩ 家族の介護、看護	1	2	3	4	5
⑪ 自治会等の地域活動への参加	1	2	3	4	5

問18 あなたは、今後男性が女性と共に家事、子育て、介護等の家庭生活により積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つまで選んで○をつけてください。

①家事	1 日に約	時間	分
②育児	1 日に約	時間	分
③介護	1 日に約	時間	分
④仕事	1 日に約	時間	分

- 119 -

男女間の暴力などの問題についておたずねします

問１９ セクシュアル・ハラスメント*（セクハラ）が問題になっていますが、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分自身がセクハラを受けたことがある
2. 自分自身がセクハラと思える行為を相手にしたことがある
3. 身近にセクハラを受けたことがある人を知っている
4. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
5. 見聞きしたことはない
6. そういう言葉は聞いたことがない

※セクシュアル・ハラスメント…職場や教育現場などで行われる一方的な性的要求、性的ないやがらせや脅迫などの言動。同性同士や男性が受けるセクシュアル・ハラスメントも含むものとして考えてください。

問２０ 配偶者や恋人などから受ける身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））が問題となっていますが、あなたは、夫婦や恋人などとの間での暴力について経験したり見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分自身が身体的・心理的な暴力を受けたことがある
2. 自分自身が身体的・心理的な暴力と思える行為を相手にしたことがある
3. 身近に身体的・心理的な暴力を受けたことがある人を知っている
4. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
5. 見聞きしたことはない

問２１ あなたは配偶者や恋人などから暴力を受けたときに相談できる機関として次のような機関があるのを知っていますか。知っている機関の番号すべてに○をつけてください。

1. 彦根子ども家庭相談センター
2. 中央子ども家庭相談センター
3. 滋賀県立男女共同参画センター「G－NETしが」
4. 彦根市福祉事務所
5. 彦根市男女共同参画センター「ウィズ」
6. 警察
7. おうみ犯罪被害者支援センター
8. 女性の人権ホットライン（大津地方法務局）
9. DV相談ナビ（内閣府 男女共同参画局）
9. わからない

問22 配偶者や恋人などから受ける身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 専門知識を持った人による相談体制を整備する
2. 相談担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいような環境をつくる
3. 被害者への情報提供体制を充実する
4. 行政や警察が啓発活動を積極的に行い、DV防止に対する世論を高める
5. 家庭・学校・地域における男女平等や人権についての教育を充実させる
6. 被害者・加害者に対するカウンセリングを行う
7. 法律・制度の制定や見直しを行う
8. 被害者が一時的に逃れることのできるシェルター（避難所）を設置する
9. その他（具体的に _____）
10. 個人的な問題なので特に対応の必要はない
11. わからない

お住まいの地域についておたずねします。

問23 あなたの住んでいる地域（自治会や町内会等）に男女不平等なことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 奉仕作業等に男性が出ないと不参加料が必要である
2. 役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい
3. 会長、副会長、会計など役員の役割によって選ばれる性にかたよりがある
4. 地域の行事で女性が参加できなかつたり、男性と差がある
5. 会議などで女性が意見を言いにくかつたり、意見を取り上げてもらいにくい
6. その他（ _____）
7. とくに男女不平等はない
8. わからない

問 23-1
に進んで
ください

問 24 に進んでください

問23-1 問23で「1～6（何らかの不平等がある）」とお答えの方におたずねします。
地域の男女不平等の原因はどこにあると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 男、女という性別によって役割が違うという意識
2. 肉体的、体力的な差
3. 家庭における教育（しつけ）
4. 学校における教育
5. 社会的なしきたりやならわし
6. お互いの性に対する偏見
7. 法律や制度
8. その他（ ）
9. わからない

チャレンジや再チャレンジについておたずねします。

問24 あなたは、何か新しくやってみたいことや、今はやっていないが、再びやってみたいことがありますか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 就労 | 6. ボランティア活動 |
| 2. 起業 | 7. 大学や専門学校などでの勉強 |
| 3. NPO活動 | 8. 国際的な取組 |
| 4. 農林水産業 | 9. その他（ ） |
| 5. まちづくりや地域振興の取組 | 10. 特にない. |

問25 問24でお答えになったことを実現するために、どのような支援が必要だと思いますか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

1. 講座や学習機会についての情報提供
2. 体験機会の提供
3. 実際に仕事や活動に取り組んでいる人との出会いの機会
4. 同じ目標を持っている仲間との出会いの場
5. 相談機関の紹介
6. 助成金など資金的支援の情報
7. その他（ ）

男女共同参画全般についておたずねします。

問26 いろいろなことを総合して、この10年間に男女平等は進んだと思いますか。

①～⑦それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

項 目	進んだ	ある程度進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない
① 家庭で	1	2	3	4	5
② 地域で	1	2	3	4	5
③ 学校で	1	2	3	4	5
④ 職場で	1	2	3	4	5
⑤ 社会一般で	1	2	3	4	5
⑥ 法律・制度で	1	2	3	4	5
⑦ ①～⑥を総合的に判断して	1	2	3	4	5

問27 あなたは、次の言葉を知っていますか？

①～⑫それぞれの項目について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	知っている	ある聞いたことは	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 女子差別撤廃条約	1	2	3
③ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）	1	2	3
④ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑤ 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）	1	2	3
⑥ ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
⑦ 彦根市男女共同参画計画（男女共同参画ひこねかがやきプランⅡ）	1	2	3
⑧ 男女共同参画を推進する彦根市条例	1	2	3
⑨ デートDV（恋人間に起こるDV）	1	2	3
⑩ リ・プロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3
⑪ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑫ L G B T（性的少数者を限定的に指す言葉）	1	2	3

問28 彦根市には現在、彦根市男女共同参画センター「ウィズ」※（所在地：平田町）という男女共同参画の推進を図るための拠点施設があります。あなたはこの施設を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 利用したことがある	2. 利用したことはないが知っている	3. 知らない
--------------	--------------------	---------

問29 男女共同参画センター「ウィズ」に期待する取組は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1. 男女共同参画に関する具体的な取組の情報収集・情報発信
2. 男女共同参画に関する講座等の学習機会の提供
3. 地域でボランティア活動をする人の育成やネットワーク
4. チャレンジ支援（職業体験できる仕組みづくりなど）
5. 各種相談事業（総合相談、こころの悩み相談、法律相談）
6. 子育てや介護支援
7. その他（

※男女共同参画センター「ウィズ」(平田町 福祉保健センター向い)…市民や団体等が、男女共同参画を推進するための拠点施設です。年間を通して、男女共同参画に関連する講座等を行い、ビデオや図書の貸し出しも行っています。

問30 男女共同参画社会をつくるために、市はどのようなことをしたらよいと思いますか。
あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1. 住民に男女共同参画についての啓発活動を進める
2. 学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
3. 女性の就労機会を増やしたり、女性のための多様な職業教育・訓練を充実する
4. 育児休業・介護休業などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる
5. 保育サービスや放課後児童クラブなどを充実する
6. 高齢者や病人の介護サービスなどを充実する
7. 男性の人数と同数にするなど、より多くの女性を行政施策の審議会委員等に登用する
8. 自己実現や生きがい、余暇等、女性の生き方に関する情報や相談、教育を充実する
9. 家庭・地域での役割、余暇等、男性の生き方に関する情報や相談、教育を充実する
10. 各国の男女共同参画の情報提供や広い視野に立った国際交流を推進する
11. 何もする必要はない
12. その他（ ）

問31 最後に、彦根市の男女共同参画のためのまちづくりについてご意見がありましたら、自由にお書きください。

彦根市は、性別にかかわらず多様な生き方が認められ、一人ひとりが輝いて生きられる、男女共同参画のまちの実現を目指しています。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

男女共同参画社会づくりのための
市民意識調査報告書

発行年月：平成 28 年 10 月

発 行：彦根市

編 集：彦根市 市民環境部 人権政策課

〒522-8501 彦根市元町 4 番 2 号

TEL：0749-30-6113

FAX：0749-24-8577